

# 令和7年度 事業報告

# I . 法人運営

# I.法人運営の状況

## 1. 社協運営

地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、地域の生活問題・課題は、多様化、複雑化、複合化しています。そして、特に深刻なのが、介護・孤立死・ひきこもり・子(孤)育て・ダブルケアなどの「制度の狭間の問題」であり、社会とのつながりのない「社会的孤立の問題」です。さらに、物価高騰の影響は長期化し、生活困窮の課題はより深刻化してきています。

このような課題に対処するために重層的支援体制整備事業を受託し、行政と社協の連携を一層強化し、「アウトリーチ」「参加支援」「地域づくり」を一体的に展開できる体制を構築し、大人でも、子どもでも、障がいがあっても誰でも参加でき、一緒に食事を楽しむ「みんなで食堂」「赤い羽根コウノトリ事業」「みしゃモンカレッジ」も継続しています。

また、障がいのある方の大学「みしゃモンカレッジ」においては、文部科学大臣賞を受賞し、取組についても文部科学省にて発表しました。

在宅福祉サービスでは、要支援・要介護状態にある方が、住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けることができるよう、通所介護事業・訪問介護事業・居宅介護支援事業・地域密着型特別養護老人ホーム事業の運営にも積極的に取組みましたが、柵原地域のデイサービスセンターかしのき荘においては、経営状況を踏まえ、事業休止の判断をしました。柵原地域の方は中央ふれあいセンターで可能な限り受け入れをしていきます。

経営改善、財政基盤強化としては、赤字事業所を休止し、加算の見直しを図っていくとともに、社協会員制度のふるさと会員を廃止し、新たに法人会員を設けました。

また、地方債を購入し、地域福祉活動基金の利息の増収を図りました。

さらに、人手不足が慢性化し深刻な社会問題となる中で、給与改正等の処遇改善を行い人材の確保と、働きやすい環境づくりを進めていきました。

## 2. 役員会等の開催状況

### (1) 理事会(理事 12名)

開催日	場所	主要付議事項
○第1回(書面議決) 令和7年 4月23日(水) 理事12名(同意) 監事 2名(確認)	決議の省略(郵送)	<b>【議案】</b> ・「役員選任規程の変更」について
○第2回 令和7年 6月3日(火) 理事10名出席 監事 1名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	<b>【議案】</b> ・令和6年度事業報告 ・令和6年度一般会計収支決算 ・令和7年度一般会計補正予算(第1回) ・「理事及び監事の推薦」について ・「評議員選任候補者の推薦」について ・評議員選任解任委員会の開催日時及び議題について ・定時評議員会の開催日時及び議題について ・「定款の変更」について <b>【報告】</b> ・会長及び常務理事の職務執行状況について ・第3期美咲町地域福祉活動計画について ・第14回美咲町社会福祉大会について
○第3回 令和7年 6月19日(木) 理事11名出席 監事 2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	<b>【議案】</b> ・会長の選定について ・副会長の選定について ・常務理事の選定について ・評議員選任・解任委員の選任について
○第4回 令和7年 8月19日(火) 理事9名出席 監事 2名出席	生涯学習センター 2階多目的スペース	<b>【議案】</b> ・経理規程の変更について ・令和7年度一般会計補正予算(第2回) ・「評議員選任候補者の推薦」について ・第14回美咲町社会福祉大会について ・第14回美咲町社会福祉大会における表彰者について ・評議員選任・解任委員会の開催日時及び議題について ・第3回評議員会の開催日時及び議題について ・就業規則の変更について ・ハラスメントの防止に関する規程の制定について ・管理者等の人事について
○第5回 令和7年 11月11日(火) 理事11名出席	生涯学習センター 2階多目的スペース	<b>【議案】</b> ・令和7年度一般会計補正予算(第3回) ・第4回評議員会の開催日時及び議題について <b>【報告】</b>

監事 2名出席		<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長及び常務理事の職務執行状況について</li> <li>・中間監査報告について</li> <li>・第14回美咲町社会福祉大会について</li> </ul>
○第6回 令和8年 1月22日(木) 理事8名出席 監事1名出席	生涯学習センター 2階多目的スペース	<b>【議案】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美咲町柵原デイサービスセンターかしのき荘の事業休止について</li> <li>・第5回評議員会の開催日時及び議題について</li> </ul>
○第7回 令和8年 3月10日(火) 理事12名出席 監事 2名出席	生涯学習センター 2階多目的スペース	<b>【議案】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度一般会計補正予算(第4回)</li> <li>・給与規程の変更について</li> <li>・令和8年度事業計画について</li> <li>・令和8年度一般会計予算について</li> <li>・法人後見運営委員会設置規程の制定について</li> <li>・管理者等の人事について</li> <li>・第6回評議員会の開催日時及び議題について</li> </ul> <b>【報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かしのき荘事業休止の対応状況について</li> </ul>

(2) 評議員会(評議員 15名)

開催日	場 所	主要付議事項
○第1回(書面議決) 令和7年 4月23日(水) 評議員15名(同意)	決議の省略(郵送)	<b>【議案】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「役員選任規程の変更」について</li> </ul>
○第2回(定時評議員会) 令和 7年 6月19日(木) 評議員11名出席 理 事 5名出席 監 事 2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	<b>【議案】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度事業報告</li> <li>・令和6年度一般会計収支決算</li> <li>・令和7年度一般会計補正予算(第1回)</li> <li>・「理事及び監事の選任」について</li> <li>・「定款の変更」について</li> </ul> <b>【報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期美咲町地域福祉活動計画について</li> <li>・第14回美咲町社会福祉大会について</li> </ul>
○第3回 令和7年 8月28日(木) 評議員13名出席 理 事 4名出席 監 事 2名出席	生涯学習センター 2階多目的スペース	<b>【議案】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度一般会計補正予算(第2回)</li> </ul> <b>【報告】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経理規程の変更について</li> <li>・第14回美咲町社会福祉大会について</li> <li>・就業規則の変更について</li> <li>・ハラスメント防止に関する規程の制定について</li> <li>・管理者等の人事について</li> </ul>

<p>○第4回 令和7年 11月20日(木) 評議員11名出席 理事3名出席 監事1名出席</p>	<p>生涯学習センター 2階多目的スペース</p>	<p>【議案】 ・令和7年度一般会計補正予算(第3回) 【報告】 ・中間監査報告について ・第14回美咲町社会福祉大会について</p>
<p>○第5回 令和8年 2月3日(火) 評議員13名出席 理事3名出席 監事2名出席</p>	<p>生涯学習センター 2階多目的スペース</p>	<p>【議案】 ・美咲町柵原デイサービスセンターかしのき荘の事業休止について</p>
<p>○第6回 令和8年 3月19日(木) 評議員13名出席 理事3名出席 監事2名出席</p>	<p>生涯学習センター 2階多目的スペース</p>	<p>【議案】 ・令和7年度一般会計補正予算(第4回) ・令和8年度事業計画について ・令和8年度一般会計予算について 【報告】 ・職員給与規程の変更について ・法人後見運営委員会設置規程の制定について ・管理者等の人事について ・かしのき荘事業休止の対応状況について</p>

(3) 監査(監事 2名)

開催日	場所	主要付議事項
<p>令和6年度棚卸監査 令和7年 4月1日(月) 監事2名出席 事務局職員2名出席</p>	<p>地域福祉センター 旭地区福祉センター 柵原地区福祉センター</p>	<p>・10月～3月下半期の各センター内事業所等の備品管理及び小口現金、寄付金、預かり金、切手管理について、棚卸等監査を実施</p>
<p>令和6年度 監査 令和7年 5月20日(火) 監事2名出席 事務局職員2名出席</p>	<p>生涯学習センター ボランティア室</p>	<p>・令和6年度事業報告書の監査 ・令和6年度資金収支計算書の監査 ・令和6年度貸借対照表の監査 ・令和6年度財産目録の監査 ・その他</p>
<p>令和7年度中間棚卸監査 令和7年 10月1日(火) 監事2名出席 事務局職員2名出席</p>	<p>地域福祉センター 中央地区福祉センター 旭地区福祉センター 柵原地区福祉センター</p>	<p>・4月～9月上半期の各センター内事業所等の備品管理及び小口現金、寄付金、預かり金、切手管理について、棚卸等監査を実施 ・赤い羽根共同募金の入金から通帳入金までの処理確認</p>

令和7年度中間監査 令和7年 11月4日(火) 監事 2名出席 事務局職員2名出席	地域福祉センター 中央地区福祉センター 旭地区福祉センター 柵原地区福祉センター	・4月～9月上半期の法人運営、地域福祉事業、介護保険事業等の業務執行状況について及び予算の執行状況について監査を実施
---	---	--

#### (4) 評議員選任・解任委員会(選任・解任委員 5名)

開催日	場所	主要付議事項
○第1回 令和7年 6月12日(木) 委員 5名出席	生涯学習センター ボランティア室	【議案】 ・評議員の選任について
○第2回 令和7年 8月22日(金) 委員 5名出席	生涯学習センター ボランティア室	【議案】 ・評議員の選任について

#### (5) 職員研修等

開催日	場所	研修内容等
新人職員研修会 令和7年 4月24日(木) 職員 14名出席 行政 21名出席 発表者 6名出席 役員 1名出席	生涯学習センター 2階 多目的スペース	・社会福祉協議会について ・地域福祉事業について ・地域包括支援センターについて ・居宅介護支援事業所について ・訪問介護事業所について ・通所介護事業所について ・地域密着型特別養護老人ホームについて
手話職員研修会① 令和7年 11月5日(水) 職員 15名出席 役員 1名出席 行政 39名出席	(午前) 生涯学習センター 研修室2  (午後) 生涯学習センター 研修室2	・色々あるコミュニケーション手段(伝える手法)を学ぼう! ・名前やあいさつの表し方を学ぼう!
手話職員研修会② 令和7年 12月2日(火) 職員 15名出席 役員 1名出席 行政 38名出席	(午前) 生涯学習センター 研修室2  (午後) 生涯学習センター 研修室2	・指文字をつかってみよう! ・窓口に来られた時の対応を学ぼう!

(6) 実践発表 講師派遣

開催日	場所	研修内容等
文部科学省 令和7年 12月9日(火) 社協 5名出席	東京都 文部科学省  (美咲町からも ZOOM で関係者視聴)	・美咲町社会福祉協議会が取り組む障がい者 支援事業の紹介 ・みしゃモンカレッジの取り組み紹介 他  発表者:地域福祉課 課長 小林 奈緒

(7) 視察研修等

開催日	場所	研修内容等
矢掛町社協 令和7年5月1日(木) 矢掛町行政職員2名 矢掛町社会福祉協 議会職員2名 美咲 町役場3名 美咲町 社協2名出席	美咲町社協 ボランティア室	・アウトリーチについて(目的、訪問場所(サロ ン・公民館等)・時刻・頻度・訪問する社協職員 及び住民メンバー、話し合う内容、引きこもり・ 困窮者・認知症・独居など気になる人の情報を 入手した際の社協や行政の対応等)
真庭市社協 令和7年 10月28日(火) 真庭市社協 3名 美咲町社協 3名出 席	美咲町社協 ボランティア室	・介護保険事業所体制について ・経営状況について
全社協地域福祉推 進委員会 令和8年 1月16日(金) 社協 2名出席	美咲町社協 ボランティア室 ZOOM	・訪問事業の経営改善取組 ・サテライト事業所の開設の経緯 ・その他介護保険事業について

(8) 美咲町社会福祉法人等連絡協議会“あったかこころネットみさき”

開催日	場所	主要付議事項
総会 令和7年 6月24日(火) 4法人 5名出席 事務局 5名出席	生涯学習センタ ー ボランティア室	<b>【内容】</b> ①役員の変更について ②令和6年度事業・決算報告について ③社会福祉法人の地域公益事業について ④令和7年度事業計画・予算(案)について ⑤役員改選について ⑥その他
第1回市町村域における社 会福祉法人ネットワーク連 携・協働促進会議 令和7年 7月4日(金) 10:00~15:00 2法人 1名出席 事務局 2名出席	岡山県総合福 祉・ボランティ ア・NPO 会館(き らめきプラザ)3 階	<b>【内容】</b> ①各ネットワークの取組紹介 ②他県の取組紹介 「地域公益活動を通じた人材育成・交流につい て」 南国市社会福祉法人による公益的な取組連絡 会「しゃこう連」(高知県) ③グループワーク ④その他

<p>第1回役員会 令和7年 7月15日(火) 10:30~12:00 4法人 5名出席 事務局 5名出席</p>	<p>生涯学習センター ボランティア室</p>	<p>【内 容】 ①岡山県地域公益事業研修の報告 ②各法人の事業・活動の紹介 ③令和7年度の具体的な取り組みについて ④その他</p>
<p>町長へ要望書の提出 令和7年 7月31日(火) 9:00~10:00 3法人 3名出席 事務局 3名出席 町長・担当課3名出席</p>	<p>美咲町役場2階 会議室</p>	<p>【内 容】 ①地域公益事業についての説明 ②重点支援地方交付金の追加支給に伴う緊急要望書の提出について ③意見交換</p>
<p>第14回美咲町社会福祉大会(合併20周年)への協力 令和7年 10月5日(日) 13:00~16:00 4法人 11名出席</p>	<p>柵原総合文化センター</p>	<p>【内 容】 ①実践発表 ・「オーイ元気だぞ！みんなが主役のまちづくり」発表団体:江与味自治会 ・「お弁当配達からつながる～事業所と地域の垣根を越えて～」 発表団体:塚角・書副・藤原配食ボランティア/社会福祉法人鶯園さやかなる苑 ・「地域を支える生活支援サポーター～みんなの生活の1ピース～」 発表者:生活支援サポーター ②エンディング エンディング 里神楽の舞みんなで 美咲町の地域福祉を 考えよう！(プレ公開) NPO 法人やまさくら さくらの実 ③出店活動 あったかこころネットみさき 白寿荘・社会福祉協議会 メンタル柵原・あなぐま舎・ほっとスペースすみれ・ひかり学園 ③共催  来場者数 345 名(社協職員除く)</p>
<p>福祉出前講座 令和7年 11月4日(火) 10:45~11:45 1法人 3名出席 柵原学園9年生31名 かしのき荘職員1名・利用者1名・地域福祉2名</p>	<p>柵原学園</p>	<p>【内 容】 ①かしのき荘のお話を聞こう かしのき荘職員・利用者 ②グループワーク</p>
<p>福祉出前講座 令和7年 11月10日(月) 10:25~12:05 1法人 2名出席 柵原学園9年生31名 北和気通いの場10名 地域福祉2名</p>	<p>北和気 CH</p>	<p>【内 容】 ①通いの場の参加者と交流しよう ②グループワーク ・1日目と2日目で学んだ高齢者像についてまとめ ・高齢者が持っている困りごとについて、自分たちが出来ること</p>
<p>福祉出前講座</p>	<p>旭学園</p>	<p>【内 容】</p>

令和7年 11月17日(月) 13:45~14:35 1法人 3名出席 6年生(16名) あさひが丘デイサービス職員1名・地域福祉2名		①高齢者を学ぶ ②江与味地域の高齢者を元気にするために介護福祉士に体操を教えてもらおう
笑顔のお届け便 2025 令和7年 12月18日(木)~ 12月19日(金) 11:00~13:00 3法人 20名出席 (2日間)	生涯学習センター 一前駐車場	【内 容】 ①出店 久米福祉会・さやかなる苑・誕生寺支援学校・さくらの実・あなぐま舎・ほっとスペースすみれ・メンタル柵原・美咲町障害者ネットワーク 他 ②テントの貸出 白寿荘
第2回市町村域における社会福祉法人ネットワーク連携・協働促進会議 令和8年 2月10日(火) 13:00~15:30 2法人 2名出席 事務局 3名出席	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO 会館(きらめきプラザ)3階	【内 容】 ①各ネットワークのふりかえり ②情報交換・交流ワークショップ ③ネットワークのスローガン&目標づくり
第2回役員会 令和8年 2月12日(木) 10:00~12:00 4法人 5名出席 事務局 6名出席	生涯学習センター ボランティア室	【内 容】 ①令和7年度活動・事業の振り返り ②令和8年度の具体的な取り組みについて ③その他
令和7年度生活支援サポーター養成講座 IN 飯岡 令和8年 2月14日(土) 11:20~12:20 (60分) 4法人 4名出席 事務局 4名出席	旧飯岡 JA	【内 容】 ①講義『障がいの理解』 参加者数 30名
令和7年度災害ボランティア養成講座 令和8年 3月20日(金) 10:00~15:30 2法人 2名出席	旭地域多世代交流拠点あさひなた多目的ホール	【内 容】 ①講義「有事の際の避難所でのボランティアの力～体験を通して、考える～」 日野ボランティア・ネットワーク 山下 弘彦 氏 ②避難所体験 防災食の実食や防災グッズを作成し、避難所での生活を体験する。 参加者数78名 ③後援
通年	柵原地域	【内 容】 配食サービス事業と法人と配食ボランティアとの連携 ・利用者5名 計348回(348食) ・配食ボランティア12名(延べ345回) ・さやかなる苑 ・社会福祉協議会

## (9) 経営改善部会

令和7年11月18日(火) 10:00~11:30	第1回	部会設置の経緯、目的について 本会の経営の現状について
令和7年12月12日(金) 10:00~11:30	第2回	県社協より介護保険事業の動向・状況について かしのき荘状況説明
令和7年12月23日(火) 13:30~15:00	第3回	かしのき荘について協議
令和8年1月15日(木) 10:00~11:30	第4回	かしのき荘事業運営について かしのき荘事業休止にむけて及び休止後の取り組みについて
令和8年2月24日(火) 10:00~11:30	第5回	特養の現状について
令和8年4月14日(火) 10:00~11:30	第6回	中央通所の現状と課題 旭通所の現状と課題

## (10) 安全衛生委員会

開催日	場所	主要付議事項
令和7年4月15日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	メンバー決定・委員長の選任
令和7年5月20日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	安全衛生委員会の役割について 健康診断の周知・徹底
令和7年6月17日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	5S活動の周知・実施(リスクアセスメント)
令和7年7月15日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	感染症予防対策等の周知
令和7年8月26日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	秋季交通安全運動の周知 職員研修について
令和7年9月16日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	職員研修について ストレスチェックの実施について 安全衛生推進計画の作成及び調整
令和7年10月21日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	健康づくり月間(職場レクの開催) ストレスチェックの実施について
令和7年11月25日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	ストレスチェックの評価・分析 健康づくり月間の集計・報告・参加賞、達成賞について
令和7年12月16日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	年末年始無災害運動の周知・実施について 職員研修当日の流れ・役割分担について 健康づくり週間の参加賞等の配布
令和8年1月20日(火)	中央ふれあいセンター2階会議室	感染症について検討(病欠時の規程、追加・変更したい点の確認) 年末年始無災害運動の実施状況報告

		職員研修についての確認 健康づくり週間達成者の確認
令和8年1月22日 (木)	中央ふれあいセンター2階 会議室	安全衛生委員会 研修会 「介護施設での感染対策」
令和8年2月17日 (火)	中央ふれあいセンター2階 会議室	職員研修会の振り返り（アンケート の確認） 安全衛生推進計画の作成及び調整
令和8年3月17日 (火)	中央ふれあいセンター2階 会議室	緊急時の対応について 安全衛生推進計画・次年度の予定に ついて 交通安全運動の周知

## 成果

### ・経営改善について

令和4年度より社協全体としても厳しい経営状況がつづいています。このため、再度、経営改善部会を立ち上げ、経営改善に向けての協議を行ってきました。部会では、美咲町の要介護者の状況や推移などの理解、各事業所の課題と現状の分析、検討を重ねました。この中で、今後の美咲町における介護保険事業の安定的継続運営の厳しさについての認識を深めました。こうした厳しい状況を克服し、安定的な運営確保には、補助金・処遇改善加算の確保や職場環境の整備が必要であること、その確保方法について理解し、具体的な取り組みを進めていくこととしました。また、こうした部会での協議過程を通して、参加職員の意識も変わってきました。

各事業所において人材不足も重なり、職員の補充ができなかった為、職員の負担は大きかったですが、職員の努力により、結果として黒字となりました。

### ・処遇改善について

最低賃金が上昇する中、当法人の常勤職員の初任給は10年前と変わらない為、職員募集をしても応募がない状況でした。県内の大学や、専門学校を美咲町社協のPRと職員募集に巡回訪問しましたが、新卒を採用するには募集時期が遅いことと、給与額や福利厚生の内容が応募条件として重要であること、そもそも介護・福祉業界へ進む学生・生徒が減少してきていることがわかりました。近隣の介護施設や社協の給与状況を調査し、初任給(職種別)を改正し給与水準を上げ、結果、令和8年4月採用として3名の職員を採用できました。併せて求人に関する問い合わせも増えました。

### ・財政基盤強化について

社協会員会費の種類を一般、特別、法人に変更し、当法人施設・事業利用者や企業・法人の会員の増加を図りました。施設・事業所の利用者・家族の方に会員募集のチラシを配布し、会員になっていただくように当法人施設・事業所に協力をしてもらいました。

地方債の購入により利息収入が増収となりました。

### ・事務負担の軽減

社協の会計に適した会計ソフトに変更し、固定資産管理や、現況報告が会計と連動しているので、処理や報告等の事務負担の軽減を図りました。

## 課題

- ・人材不足であっても、仕事量は変わらない為、離職する職員もあり悪循環がうまれています。業務の整理や、今いる人員でできる仕事量を整理しなければなりません。
- ・魅力ある求人の作成や美咲町社協の強みを理解し、PR ができていません。
- ・介護保険事業の加算や処遇改善加算等の制度について、職員全員が理解し、事業に取り組んでいく必要があります。

## 次年度にむけて

- ・引き続き、経営改善部会で協議を行い、提言書の作成を目指しながら、中期経営計画の作成に職員全員で取り組んでいきます。また、特別加算や、処遇改善加算の上位をねらっていきけるよう努めます。
- ・処遇改善について、引き続き検討をしていき、適切な職員採用・確保をめざしていくと同時に、離職防止にも努めます。
- ・職員の働きがいや専門職としての専門性やサービスの質の向上を図っていくために、人事評価制度やキャリアパスの仕組みを整備し、働きやすい職場づくりを進めていきます。
- ・コロナ以降、事業所外の職員交流が出来ていなかったため、職員間交流の機会・場をつくり、同じ職場内での職員同士、異なる職場の職員同士が協力や連携ができるような体制を築いていきます。
- ・ホームページや facebook 等を活用して、美咲町社協の魅力を PR し、町民理解を進めるとともに広く人材確保に努めます。
- ・介護保険事業の加算や処遇改善加算について、勉強会を開催し、理解を深めます。
- ・専門性の高い職員集団をつくっていくため、OJT・OFF-JT などの専門研修を体系的に実施していきます。
- ・理事・評議員の意識を高め、活気ある理事会・評議員会としていくため、研修や視察を計画的に進めていきます。

## ◎職員体制

- ・事務局長兼総務課長 1名
- ・介護保険推進課長（4月～8月） 1名
- ・総務課職員 2名



## Ⅱ．地域福祉事業

## (1) 地域福祉活動の推進

### 1. 小地域ケア会議、小地域福祉活動の促進

日常生活圏の中での見守り・声かけ活動、地域での福祉活動を通して発見された生活課題や困りごとについて話し合い、解決策を見出すための仕組みづくりの促進・充実、さらに解決に向けての活動が進められるように、地域住民、美咲町、地域包括支援センター及び介護保険事業所の連携に努めました。

#### (1) 小地域ケア会議開催状況

①開催単位: 72/81自治会 開催率88.9%

②令和7年度新規立ち上げ地域

小地域ケア会議の開催が難しいところには、ふれあいサロン活動、通いの場、サポーター会合などに参加し、情報共有・連携の強化に努めました。また、柵原地域については民生委員地区会(北和気地区・南和気地区・吉岡地区・本庁地区・飯岡地区)に参加し、情報共有、連携の強化に努めました。(開催回数を含む。)

【錦織西・打穴中・尾崎高山 計3自治会】

小地域ケア会議開催回数		
中央地区(24自治会)	柵原地区(42自治会)	旭地区(15自治会)
22自治会	35自治会	15自治会
上半期(4月～9月) 93回		
下半期(10月～3月) 94回		
年間合計187回参加		

③構成メンバー: 自治会長、民生委員児童委員、常会長・連絡協力員、老人クラブ、愛育委員、栄養委員、生活支援サポーター、サロン代表者、防災士、消防団、美咲町職員、社協職員など(地域ごとに構成メンバーを決定しています。)

④開催頻度: 地域ごとに3か月に1回、4か月に1回、年2回、必要な都度(不定期)

#### (2) 地域の中で行われる会議などへの参加

地域の中での自治会総会、民生委員支部会(中央・旭・柵原)、協働のまちづくり会議、防災会議などへの参加や自治会長をはじめとした地域の役員の方と情報共有を行い、情報収集に努めました。

※小地域ケア会議187回・民生委員児童委員関係会議32回(民生委員児童委員総会・支部会・委嘱式・研修会・民児協持続可能な活動検討チーム会議)・協働のまちづくり会議13回・サロン41回・通いの場6回・地域調整会議(錦織北・新城・打穴西・打穴上2回・王子)6回の合計285回地域の会議などに参加しています。

※小地域ケア会議の開催における相談件数: 47件

### (3) 赤い羽根小地域ケア会議推進助成事業～みんなで地域づくりを応援しよう～

小地域ケア会議の取組みの中で、地域共生社会の実現に向けた地域課題の解決型の取組みを美咲町内の団体より公募方式で募集し、予算の範囲内(1団体3万円)で助成を行いました。

#### ①助成実績

中央地区(24自治会)	柵原地区(42自治会)	旭地区(15自治会)
20自治会	26自治会	13自治会
合計59自治会		

※助成対象:美咲町内で小地域ケア会議に取り組んでいる団体・これから取り組む団体であり、その小地域ケア会議の協議の中から出てきた地域課題の解決に取り組む団体

### (4) 小地域福祉活動報告会の開催

奇数年度に開催としており、令和7年度は社協設立20周年であるため、第14回美咲町社会福祉大会にて継続して活動してきたふれあいサロン119団体への感謝表彰とあわせて、小地域福祉活動にご尽力いただいている団体が実践報告をする場を設けました。今回発表された皆さんがどのような想いで活動をしているか、どのように参加者に想いを届けるかなどを検討するため、発表団体・発表者との打ち合せ、活動への同行・取材を行いました。(※来場者数:345名)

発表内容	「オーイ元気だぞ！みんなが主役のまちづくり」	「お弁当配達からつながる～事業所と地域の垣根を越えて～」	「地域を支える生活支援サポーター～みんなの生活の1ピース～」
発表団体・発表者	江与味自治会3名、社協職員1名	塚角・書副・藤原配食ボランティア5名、社会福祉法人鶯園さやかなる苑職員1名、社協職員1名	生活支援サポーター2名、サポートふくし利用者1名、社協職員1名
総括・まとめ	美咲町社会福祉協議会 常務理事 小坂田稔		

### (5) 赤い羽根共同募金の「地域防災力強化 令和7年度特別支援助成」の活用

赤い羽根共同募金の「地域防災力強化 令和7年度特別支援助成」を活用し、『もしもにも役立つ』×「サララップ」を小地域ケア会議にて配布しました。その際に、共同募金と防災は「普段からの助けあい」でつながるという趣旨のチラシをあわせて配布しました。(令和7年11月8日～令和8年3月3日・50か所480人に配布)

「9月の防災訓練の際にチラシをコピーし住民に周知する」「自宅の防災バックに入れておく」「サララップが災害時にこれほど役に立つとは知らなかった」といった声もあり、地域防災力の向上につながる取り組みを行いました。

#### 【成果】

・まちづくり協議会との連携により、小地域ケア会議の開催ができました。対象地域のまちづくり協議会で空き家問題が話題にあがり、空き家の把握のため、支えあいマップの作成を行うことをきっかけに小地域ケア会議が立ち上がりました。日頃より、小規模多機能自治を推進する美咲町役場

地域みらい課、NPO法人みんなの集落研究所との連携により、まちづくり協議会と小地域ケア会議のつながりづくりを行うことができました。また、自治会単位の防災の取り組みに悩みがあると社協に相談があり、防災を切り口に小地域ケア会議の立ち上げを行いました。以前より災害について関心のある地域でしたが、小地域ケア会議でマップを広げて災害時の話を進める中で一人が持つ情報を地域の皆さんで共有することができました。また、安心マグネットや連絡網の様式について話し合うことで、「連絡網は役員からみなさんへの一方通行になってはいけない」「安心マグネットは誰でも記載しやすいように必要最低限のものにする方がよい」などひとりひとりが自分事として捉え、地域に合ったものを作成することができました。近隣地域から安心マグネットの取り組みについて「うちの地域でも同じものをしたい」という声もありました。

・美咲町社会福祉大会にて、小地域福祉活動の実践報告を行ったことで、当日のアンケートでは、「本当にちょっとした手伝いで地域の中で心地よく暮らせる。そのためにほんの少しの手伝いをお互いにする。どの地域でも！」、「配食サービスやワンデイカフェの取り組みなど、みんなの居場所をつくる活動がとても参考になりました。自分の地域でも実践したいと思いました。（配食サービスはひきこもりのかたとの接点になる可能性があるなと思いました）」、「実践報告を聞いて、自分たちの地域では何ができるか考えてみたいです」、「見守り・支えあう地域福祉のネットワークづくり、地域に帰り実践したいと思います」、「自分の地区でも取り入れたいと気づかされるが多々あった」など、自分の住む地域でも行いたいという新たな気づきや前向きな意識づくりにつながりました。

#### 【課題】

・美咲町社会福祉大会にて、小地域福祉活動の実践報告を行いました。地域住民が主体となつて行う地域での活動の周知は十分とはいえない現状があります。「他の自治会が小地域ケア会議推進助成事業を活用してどんな小地域福祉活動をしているのか」という声もあり、助成金を活用している団体の活動内容を広めていく必要があります。

・内容が高齢者支援だけでなく、子ども、障がい児・者、若者、ひきこもり、生活困窮者など、多くの生活課題の協議ができていない地域もあります。

#### 【次年度に向けて】

・小地域ケア会議推進助成金を活用した団体の活動内容について、一覧にしたものを住民に周知し、地域での小地域福祉活動の推進を行います。

・第2回目の地域ケア会議(P. 42参照)では、「地域に広く情報を発信するための方法」について、グループワークでさまざまなご意見をいただきました。次年度では、情報の壁により情報やサービスが届いていない人がいないかを考えるために、小地域ケア会議での意見交換などを通して検討していきます。

・子どもや障がい児者、若者、ひきこもり、生活困窮者など地域に暮らすすべての人が安心して生活をおくることができるよう、小地域ケア会議で協議を行えるよう支援します。

・継続的に小地域ケア会議が開催され、各々の地域の福祉課題・生活課題の解決に向けて話し合いが行われるように、一層の働きかけを行っていきます。

## 2. 小地域福祉活動の支援

子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、地域で暮らす誰もが身近な場所で、気軽に集い、語り、ふれあい交流のできる居場所づくりや生きがいづくりを支援し、これらの機会を通して、見守り・声かけの意識の醸成にも努め、お互いに助け、助けられる関係づくりにも努めました。

### (1) ふれあいサロンの立ち上げ支援・運営支援

ふれあいサロン活動の継続支援として職員がサロン活動に参加しました。また、新規サロンの立ち上げの支援も行いました。

代表者研修会の開催、ふれあいサロン活動の運営支援のための助成を行い、ふれあい交流促進支援を行いました。

#### ① ふれあいサロンの活動状況

	地区名	サロン数	延べ参加者数	備考
中央 (43)	加美地区	14	1,402人	
	三保地区	13	1,425人	
	打穴地区	8	591人	
	大井和地区	8	556人	
柵原 (40)	北和気地区	10	1,115人	
	吉岡地区	10	1,342人	
	南和気地区	8	916人	
	本庁地区	8	1,834人	
	飯岡地区	4	636人	
旭 (20)	倭文西地区	4	361人	
	西川地区	4	1,051人	
	井和地区	8	1,130人	
	江与味地区	4	468人	
	子育てサロン	2	418人	
	障がい児者支援サロン	1	52人	
	笑いのサロン和(難病)	1	132人	
	計	107	13,429人	

② 令和7年度新規立ち上げサロン:サロンおかえり(大井和西地区)

③ ふれあいサロンの継続支援:年間合計41回参加/運営に関する相談:29件

④ ふれあいサロン代表者研修会の開催

#### 【令和7年度ふれあいサロン代表者研修会】

令和5年度から代表者研修会では、フレイル予防の柱である「運動」・「社会参加」・「栄養・口腔ケア」に関する講演を実施してきました。今年度は、フレイル予防の柱の一つである「運動」と「社会参加」に関する講義やサロンで取り組めるレクリエーションなどの活動の活性化に繋げるきっかけとなる内容を取り入れ、通いの場の代表者にも参加してもらい『地域の集いの場代表者研修会』として開催しました。

実施日	地区	参加者数	内容
令和7年 5月13日(火)	中央地区	32名	①「地域みんなで元気に！～簡単コロバン体操とゲーム～」(50分) 講師:特定非営利活動法人 元気寿命を創造する会 健康運動指導士 山神 和恵氏 ②「地域みんなで元気に！～地域フレイル予防について～」(15分) 担当:社協地域福祉課職員 ③ 助成金などについての事務連絡(地域福祉課)、お知らせ等(地域包括支援センター、役場保険年金課・健康推進課・岡山県安全安心教育講師団の花谷氏)
令和7年 5月16日(金)	旭地区	17名	
令和7年 5月19日(月)	柵原地区	37名	

### 【成果】

・地域住民が集う場に出向くことで、社協職員と顔の見える関係性を築き、相談のハードルを下げ、悩みを抱えた代表者がひとりで課題を抱え込むのを防ぎ、負担の軽減につながりました。実際にサロンの内容について悩まれているサロンに参加し、レクリエーショングッズを使用すると「また借りたいな」という声がありました。社会福祉協議会の事務所に来られることが難しい場合は、美咲町役場の支所等を利用し、受け渡しを行いました。

・大井和西地域で子どもから大人まで三世代で交流できる「サロンおかえり」の立ち上げを支援しました。サロンとして立ち上げる前から「ほたるを見る会」を独自で実施しており、立ち上げの働きかけを行いました。サロン開催日に社協職員も参加してレクリエーショングッズの紹介とともにレクリエーションを行いました。その際に、赤い羽根共同募金の活動助成も行い、実際の運営に役立ててもらうことができました。

・打穴里地域で活動を常会単位で行っているふれあいサロンが、参加人数が2人になり継続が難しくなっている相談を受け、令和8年度に常会単位ではなく自治会単位に広げたふれあいサロンを新規に立ち上げることになりました。小地域ケア会議や代表者との相談を通し、令和8年度に地域の皆さんの同意を得て常会規模から自治会全体に規模を広げたサロンを立ち上げることが決まっています。

・研修会を通して、代表者の負担軽減や運営支援に努めました。研修会後のアンケートでは、「フレイル予防についてよりよく分かった」「帰って地域の参加者に報告したい」「山神先生の講座が良く今後もこのような指導を希望する」などといった感想があり、代表者の皆さんに活動の刺激となっています。また、代表者のみにとどまらず参加する住民みなさんにも内容を伝えてもらい、フレイル予防の取り組みを地域にも広めてもらうきっかけとなりました。

### 【課題】

- ・活動が自主的に行われていて、社協に参加依頼のないサロンとは関わりが少ない現状があります。
- ・代表者や参加者の高齢化が進み、担い手の負担が大きくなり継続が難しいサロンもあり、活動を休止されるサロンも出てきています。代表者の負担軽減や、休止することで身近な居場所の一つがなくなる地域住民に対して、支援策を検討していく必要があります。
- ・研修会後のアンケートには、「こんな内容・人の講師派遣ができるという紹介が欲しい」という意見

もありました。

・新型コロナウイルスによる規制が緩和された時期から、令和4年以降の代表者研修会のアンケートや、第3期地域福祉活動計画アンケート、直接代表者とコミュニケーションをとる際などに、「他のふれあいサロンではどんな活動をしているのか知りたい」という意見が聞こえてきているため、代表者同士が交流・意見交換できる場作りが必要だと考えられます。

#### 【次年度に向けて】

・引き続きふれあいサロンへ出向き、フレイル予防講座・レクグッズ貸出などを行い、継続的に運営できるよう支援を行います。

・自主的に活動を行っている団体にも積極的にアプローチし参加していくことで、活動の現状把握や、社協にちょっとした悩み事の相談がしやすくなるような関係づくりを行います。

・令和8年度からの活動の休止を考えている、または休止が決まっている団体に対して、代表者の負担軽減に関する相談に継続的に応じ伴走支援を行っていきます。参加していた住民の様子を小地域ケア会議等で共有し、いつでも再開できるように地域住民との情報共有・地域の現状把握に努めます。また、休止する団体であってもこれまでの参加者が代わりに参加できる既存の居場所や新たな居場所づくりの支援に努めます。

・社協が運営している美咲町ボランティアセンター運営事業によるボランティア・お達者さんの活動コーディネートや、美咲町生涯学習課の登録制度である美咲町生涯学習人材バンクとの連携、美咲町役場のまちづくり出前講座の紹介などを通して、地域住民に講師やお達者さんの紹介を行っていきます。

・引き続き研修会を実施し、担い手不足や代表者の負担感などの課題解決に向けて情報提供やフォローアップができるよう支援を行います。

・令和8年度以降の研修会で、代表者同士が交流・意見交換できる場作りを実施できるよう努めます。

・受け手も担い手もないふれあいサロンの運営が行えるよう、研修会や小地域ケア会議を通してふれあいサロンについての啓発を行っていきます。

## (2) 新しい居場所づくりへの支援と継続支援

現在、地域にある居場所は参加者が限定されており、多様な人々が参加でき、かつ地域ニーズに即した新しい居場所の創出を住民と協働して行いました。令和5年度から開催している「みんなで食堂」を2か月に1回継続して開催し、様々な事業や個別支援で関わっている方の居場所にもなっています。

## 3. 障がい者支援事業

### (1) みしゃモンカレッジ2025

「きんちゃい☆多おーぷんカレッジ アート教室～わたしの世界～inみさき」

芸術活動を通して、障がいのある方が主体となって地域で活動していける「場」と地域住民と交流できる「場」を創出し、障がいのある方が生きがいのある生活を送れるよう地域の方々と連帯して自立した社会参加を行えるよう事業を実施しました。今年度は、参加しやすくするために、「みらいちゃれんじ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～」事業と同日開催し、参加者の募集を「みらいちゃ

れんじ」の体験生として行いました。

また、完成した作品は、「笑顔のお届け便」や生涯学習センター社協窓口前にて、活動の様子がわかる写真もパネルにて常時展示を行い、日頃の活動意欲の向上にも繋げる支援を行いました。

## (2)「みしゃモンカレッジ2025 みらいちゃれんじ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～」事業

(1期生7名・2期生6名・3期生2名・4期生2名・5期生2名・6期生4名・7期生6名 計29名)

障がいのある方が主になって地域で活動していける「場」を、本人や家族だけでなく、地域住民、障がい者福祉施設、行政と連携し、障がいのある方々に多くの夢をもってもらい、いきいきとした生活を送ってもらえることを目的に、地域で「学べる場」、「体験できる場」として3回シリーズで「みしゃモンカレッジ」を開講しました。

また、「みらいちゃれんじ」開催の際には、あいサポーター養成研修を受講された方を中心に、「カレッジサポーター」を募り、受講者の補助をしてもらうことであいサポーターの活躍する場にもなっています。

この度、美咲町社会福祉協議会が実施するみしゃモンカレッジの取り組みが評価され、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰をいただくことが出来ました。受賞と併せ、奨励活動として取り組みについての発表を文部科学省にて行いました。

日 時	令和7年 12月9日(火) 13:30～17:00	【第1回目】 令和7年 12月14日(日) 9:30～12:00	【第2回目】 令和8年 2月22日(日) 13:30～16:00	【第3回目】 令和8年 3月8日(日) 13:30～16:00
場 所	生涯学習センター 第2研修室	南和気荘	美咲町生涯学習センター 2階 多目的スペース	美咲町生涯学習センター 2階 多目的スペース
参加者	カレッジサポーター:14名 カレッジ関係者:17名 行政職員:6名 社協役職員:12名 元社協職員:5名 <u>合計54名</u>	カレッジ生:19名 重層ケース参加者:4名 カレッジサポーター:15名 社協職員3名 行政職員:1名 講師:3名(ご家族2名) <u>合計45名</u>	カレッジ生:19名 重層ケース参加者:3名 カレッジサポーター:12名 講師:1名 カレッジ生家族5名 社協職員7名 <u>合計47名</u>	カレッジ生:16名 重層ケース参加者:2名 カレッジサポーター:9名 社協職員3名 <u>合計30名</u>

内 容	
	『文部科学大臣表彰授賞式 ライブビューイング視聴会』 みしゃモンカレッジが文部科学大臣表彰を受賞し、その取り組み発表をカレッジサポーターや、今までお世話になった講師の方々と一緒にライブビューイングで視聴しました。
【第1回目】	●7期生入学式(6名) 体験と学び:タフティング体験～世界に一つのラグづくり～ 本格的なタフティングガンを使い、タフティング体験(ラグづくり)を行いました。 講師:地域おこし協力隊 市川武志 氏

【第2回目】	体験と学び:太鼓の達人リターンズ! バケツとガムテープでオリジナルの太鼓を作り、みんなでリズムを奏でることで音楽体験を行いました。講師の先生にご協力いただき、ドラマー体験やサイン会も開催しました。 講師:元THE BLUE HERTS 梶原徹也 氏
【第3回目】	●7期生卒業式(6名) 体験:学び:文部科学大臣表彰受賞のお祝い・お祝いの行事や食事を学ぼう みしゃもんカレッジが文部科学大臣表彰を受賞したことをみんなで祝いしました。町内の和菓子店やお弁当屋に協力していただき、おめでたいときに出る紅白饅頭や赤飯についても学ぶことが出来ました。
移動手段	町の障がい者外出支援の黄福タクシーを活用(イベントタクシー)

### 【成果】

- ・講師の選定について、美咲町内のボランティアや企業の方に協力をしてもらうことにより、地域の方と障がいがある方の交流の機会となっています。
- ・カレッジを支えてくださるカレッジサポーターについては、あいサポーター養成講座と連携して養成することで、あいサポーターの方が活躍する場となっています。
- ・「障がいがある方が学べる大学」として、平成29年から継続して取り組んできた取り組みが認められ、文部科学大臣表彰をいただくことが出来ました。継続して取り組みを行っていくことで、地域の中で障がいがある方々が主役となり、自分たちが学びたいと思ったことを学んだり、体験したりする場を作ることが出来ています。
- ・活動に参加しているカレッジ生、カレッジ生や活動を支えてくださるカレッジサポーター、講師の方、協力して下さる方々からは、「みしゃもんカレッジを多くの皆さんで支え、そしてみんなで表彰のお祝いができたことが特別嬉しい。また次回もみんなに会えたらいいな」「参加している皆様が本当に楽しそうで輝いて見えました。(家族が)カレッジ生としてその輪に入れることがとても嬉しく、また楽しみにしています」「カレッジが続くことを願っています。微力ですが応援します」「これからもお手伝いできる事はどんどんしていきたい」などさまざまなお声をいただき、障がい者への理解を深めるだけでなく、カレッジ生の頑張る姿を見て感動し、自分たちの活動にやりがいを持って参加して下さっています。受け手・支え手なくみんなで活動を行うことで、福祉共育の役割を担う活動となっています。
- ・継続した活動の中で、カレッジ生にとって生活の楽しみになっていたり、みしゃもんカレッジの活動に参加することで「自分にも仕事ができるかもしれない」「いつかバンドを組んでみたい」といった新たな夢を見つけることが出来たり、仲間づくりにつながっています。

### 【課題】

- ・障がいがある方々が参加しやすい体験や環境整備に配慮していますが、十分とはいえません。
- ・カレッジ生の「学びたい」「体験してみたい」という気持ちを今後も実現させていくためには、協力して下さる商店や企業を増やし、つながりをもてる事業の実施をしていく必要があります。
- ・年数を重ねるごとに、参加して下さるカレッジ生は増えてきています。それに伴い、サポートして下さるサポーターも増やしていく必要があります。

### 【次年度に向けて】

- ・障がいがある方が参加しやすい体験や環境になるよう、工夫を行っていきます。

- ・新たに協力していただける企業を増やすことができるよう、事業の周知に努めます。
- ・現在17名程のサポーターさんが協力して下さっていますが、地域の中に理解を広げるという意味でも、これからもサポーターさんを増やすことができるよう努めていきます。
- ・地域共生社会の実現には、みしゃモンカレッジにとどまらず、だれもが集えてだれもが役割をもてる居場所が必要です。事業をバラバラに実施するのではなく、連携協働し、みんなで食堂等につながる取り組みや、障がいの有無に関わらず地域住民同士が支援の受け手・支え手を超えて、活動そのものが共に学びあう福祉共有につながるような取り組みを行っていきます。

### (3) みしゃモンカレッジ2025きんちやい☆多おーふんカレッジ「笑顔のお届け便」

多くの住民に「赤い羽根共同募金」を啓発するために、赤い羽根商品を障がい者福祉施設・団体に作製していただき、地域で行われる行事などで募金活動を行い、障がい者福祉の向上及び住民同士の支えあい活動を地域全体で盛り上げていくとともに、事業や障がい者施設・団体の啓発に努めました。また、障がいのある方と地域住民が触れ合う場として「笑顔のお届け便出店」を行いました。 **募金額:223,589円**

●各障がい者福祉施設や作業所などが提供する商品を、地域住民が募金するごとに、各種団体が設定する割合が赤い羽根共同募金となる。みしゃモンシール(1シート100円)を商品に貼る。

参加事業所・団体	商品	実施場所
誕生寺支援学校・さくらの実・ワーク みさき・メンタル柵原・さやかなる苑・ ほっとスペースすみれ・あなぐま舎・ 美咲町障害者ネットワーク・つやま地 域生活支援センターつばさ・地域生 活支援センターネクスト津山・相談 支援事業所スマイルハート	パン・コーヒー・クッ キー・ポップコー ン・焼きそば・おこ わ・赤飯・ちらし寿 司・フランクフルト・ 焼き物・アクセサリ ー・ドライフラワーな ど	<b>【笑顔のお届け便出店】</b> 日時:令和7年12月18日(木)～12月19日(金) (2日間) 時間:11:00～13:00 場所:美咲町生涯学習センター前駐車場 障害者ネットワーク共催(協力)

#### 【成果】

- ・今年度より、出店会場が美咲町第2分庁舎のバス停から、生涯学習センター前駐車場へ変更となりました(役場の移転に伴い)が、会場の混乱、事故もなく無事に開催することができました。
- ・継続して「笑顔のお届け便」を開催し、障がいのある方と地域住民がふれあう機会を設けることで、地域住民と障がいがある方がお互いを理解する場を設けることができました。
- ・障がいがある方が販売を行うことで、地域の中で役割を持ち、活動・活躍する場をつくることができました。
- ・赤い羽根共同募金のイベント募金の実績の向上にもつながっています。

#### 【課題】

- ・誕生寺支援学校の生徒さんも出店してくださっていますが、コーヒーの販売場所が分かりづらかったため、案内、表示の仕方を検討していく必要があります。
- ・今年から出店会場が変わったことにより、風よけがなく寒さを感じられる方がおられました。また、雨天の場合はテント一張の販売スペースでは難しかったため、雨天時も想定した会場配置を検討

する必要があります。

**【次年度に向けて】**

・今後も赤い羽根共同募金の啓発と障がいのある方と地域住民がふれあう場として笑顔のお届け便を開催し、障がい者福祉の向上及び住民同士の支えあい活動を地域全体で盛り上げていけるよう取り組んでいきます。

**(4) 当事者団体の活動支援**

障がい児者、介護者家族などの当事者組織団体の活動支援、連携を図っていくことを目的に、活動支援に取り組み、在宅介護者・障がい児者本人の社会参加の場、勉強できる場、精神的ゆとりを生み出す機会づくりなどあらゆる面での支援につながるよう努めました。

**【活動支援状況】**

<p>美咲町介護者の会</p>	<p>認知症の方や要介護の方で介護が必要な高齢者、障がいなどにより在宅で介護をしている人、介護を経験(卒業)した人、介護に関心のある人が集まり、お互いの悩みや体験を共有し、また、体験や情報を分かちあう介護者相互の交流会です。 開会日:毎月第1木曜日開催 会 場:生涯学習センター・ミサキアエル・柵原文化センター・あさひなた他</p>	
<p>笑いのサロン和<small>(なごみ)</small></p>	<p>病を抱えている本人や支えている家族が、誰にも相談ができず自分で抱え込んでしまった時の心のよりどころ(居場所)として、「気軽に立ち寄れて話や相談ができる場」を目指して活動をしています。 開催日:毎月第4水曜日 13:30~15:30 会場:町内各所(生涯学習センターなど) <b>【社協職員の活動参加日】</b> ・11月26日(水)村上三子氏より講話 ・2月25日(水)介護保険について 他</p>	
<p>レインボータートル (本人の会)</p>	<p>○会長・副会長会 4月24日・6月18日・ 8月27日・11月5日・ 2月12日 ○交流会 5月18日小委員会 7月27日スポーツ大会 9月28日岡山イオンへ行こう 12月21日クリスマス会 3月29日サンドウィッチづくり・ 来年度の予定決め ○育成会役員会 6月29日・10月26日 ○育成会県大会 11月16日 ○育成会中四国大会in島根 10月18日・19日</p>	<p>○活動内容 心身に障がいがあっても、“自分らしく生きていこう”“自らの力を発揮していこう”という思いから、レインボータートル(本人の会)を立ち上げ、仲間同士でレクリエーション活動、映画鑑賞や買い物、またカラオケ、ボーリング大会など、自分たちがやりたいことを企画実行し、楽しく活動をしています。また、美咲町社協などの事業運営にも協力・支援を行い、積極的に地域交流活動も行っています。今年度は定期的集まることができるよう活動内容だけではなく、活動する月をみんなで決めることができました。そして、レインボータートルの会長が手をつなぐ育成会の中四国大会で表彰され、一緒に大会へ参加しました。</p>

#### (5) 障害者ネットワークとの連携

障がい者支援の各種関係機関団体と連携し、障がい者のニーズに即した支援や居場所づくりを行うため、障がい児者に関する下記の事業などに積極的に参画しました。

##### ① 自閉症啓発デー ウォーキング

4月2日(水)美咲町役場・物産センター・三金や間をウォーキングし、ティッシュやリーフレットを配る啓発活動に参画しました。

##### ② 障がい者本人の主張大会 inみさき

5月15日(木)の本人の主張大会に参画しました。

##### ③ あいサポーター養成研修

2月7日(土)のあいサポーター養成講座に参画しました。

#### 4. ボランティア活動の推進

住民のボランティア活動への参加促進を図り、地域課題に対して「何か自分にできることはないか」という住民の気持ちを形にできるきっかけづくり・機会づくりとして、人材育成のためのボランティア養成講座、ボランティア活動の情報提供、ボランティアコーディネート、ボランティア保険加入などの推進に努めました。

#### [美咲町ボランティアセンターの取組み]

##### (1) 赤い羽根ポスターコンクール P. 38参照

##### (2) みんなのアート展示会～わたしの世界inみさき～

赤い羽根共同募金の啓発の取組みである「赤い羽根手づくり募金箱」、「赤い羽根ポスターコンクール」の実施や、芸術活動を通じて、障がいのある方と地域住民が地域で共に活動できる場として「障がい者アート教室」を「みらいちゃれんじ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～」事業と同日開催し、世界に一つだけのアート作品を作製しました。

こうした美咲町社協の事業に参加していただいた方の作品と社協が関わりを持っている個人の書・絵・本の作品を展示しました。地域住民に作品に込められた想いを知っていただくとともに作品から発せられるパワーを感じてもらい、想いをつなぐことに努めました。当初は隔年開催の予定だった展示会についても、施設や個人の方の熱い想いを受け、毎年実施できるよう今年度も取り組むことができました。

日時 場所	①本人の主張大会inみさき 日時:令和7年5月15日(木) 場所:さくらの実 ②第14回美咲町社会福祉大会 日時:令和7年10月5日(日) 場所:柵原総合文化センター ③柵原文化祭 日時:令和7年10月30日(木)～11月2日(日) 場所:柵原総合文化センター
出展 内容	① みしゃモンカレッジの作品(世界に一つだけのイス・オリジナルバケツ太鼓) ② 個人の書・絵画・本

	③ 障がい者施設の作品
	④ 地域のサロン・通いの場・老人会などで作製した作品

### 【成果】

・事業を通して、障がいのある方の作品を見ていただくことができ、そのパワーを感じてもらうことができました。「障がい者＝かわいそう」「障がい者は何もできない」といった間違った認識を変え、正しい理解の啓発につなげることができました。

### 【課題】

・障がいの有無に関わらずアート教室や展示会を通して、より一層社会参加の促進や日頃の活動意欲の向上につながることを目指して、新たな展示場所の開拓や取り組みの検討が必要です。

・展示する作品について、新たな作品の募集が行えておらず、同じ作品の展示となってしまっています。地域の方との新たな出会いや、その人が持つ力(ストレングス)に着目し、アートをきっかけとして新たなつながりづくりを行えるよう工夫が必要です。

### 【次年度に向けて】

・開催について、単独での開催を行うのではなく、他の事業や行事に合わせて展示を行うことで、効果的に啓発が行えるよう工夫します。

## (4) 災害ボランティアに関する事業

### ① 災害ボランティア養成講座

近年、自然災害で被災した地域では、社協が災害ボランティアセンターの運営にあたり、地域内外のボランティアと共に被災地の復旧・復興に向け被災者に寄り添った支援活動を行うことが一般化してきました。美咲町社協においても、いつ起こるか分からない災害に備え、災害時に必要な被災者支援活動をオール美咲町社協で考えていく必要があることから令和7年度も講座を企画し実施しました。

日 時	令和8年3月20日(金) 10:00～15:30
場 所	旭地域多世代交流拠点施設 あさひなた 多目的ホール
参加者	町内外のボランティアに関心のある住民、市町村社協職員、町職員、防災士、消防団など 計78名 第1期～第9期131名(令和8年3月現在)
内 容	講義: 有事の際の避難所でのボランティアの力 ～体験を通して、考える～ 避難所体験 ・段ボールトイレづくり・段ボールベッドづくり ・新聞紙座布団づくり
講 師	講師: 日野ボランティアネットワーク 山下 弘彦 氏 協力: 美咲町防災士ネットワーク

### ② 他団体との連携強化

他団体との連携を強化しました。

#### 【日野ボランティアネットワーク】

第10期災害ボランティア養成講座講師に招き、避難所での経験をご講演してもらいました。実際の災害ボランティアをされた経験から平時からのつながりの重要性についてご講演いただきました。

### 【美咲町防災士ネットワーク】

第10期災害ボランティア養成講座にて6名の防災士に協力いただき、避難所体験講座の際に段ボールトイレ・段ボールベッド・新聞紙座布団の作製体験の指導や助言をしていただきました。

### 【成果】

- ・日ごろから取り組むことができる内容を盛り込むことで、地域の防災意識の向上を行うことができます。
- ・毎年災害ボランティア養成講座に取り組むことで、町内に多くの災害ボランティア登録者が生まれ、災害時に備え日頃から見守り、支えあう意識が広がっています。
- ・災害ボランティア養成講座や、災害時に備えた取り組みを行っていく中で、さまざまな団体と繋がりを持つことが出来ています。

### 【課題】

- ・コロナ禍以降、災害ボランティアセンターの設置訓練が行えておらず、実際に災害が起きた時のために設置訓練に取り組む必要があります。併せて、災害ボランティアセンターの設置マニュアルの作成を進めていく必要があります。
- ・災害ボランティアに登録されている方で、実際に災害ボランティアとして活動をしたことがない方もおられ、活躍できる場の検討が必要です。

### 【次年度に向けて】

- ・継続して災害ボランティアの養成講座を開催します。
- ・令和8年度には、災害ボランティアセンターの設置訓練に取り組めます。

### (5) シーズンボランティア2025

シーズンボランティア2025は、「“施設”ボランティア(施設でのボランティア体験)」と「“つ・く・る”ボランティア(季節を感じる作品を作るボランティア)」の2つを実施しました。

「“施設”ボランティア」と「“つ・く・る”ボランティア」の両方に参加し、ボランティア活動を頑張った生徒もおり、町内の施設にたくさんの素敵な季節を感じる作品を届けることができました。

また、施設からいただいたありがとうメッセージを冊子にまとめ、参加された生徒へ配布することで、直接会うことができなくても繋がりを築くことができました。

#### 《参加生徒》

●【“施設”ボランティア】 中央中学校13名、柵原学園(7～9年生)33名、旭学園4名、津山東高等学校1名、美作高等学校3名、津山工業高等学校4名、津山商業高等学校7名、ノートルダム清心女子高等学校1名、滋慶学園2名

合計68名

【“つ・く・る”ボランティア】 中央中学校2名、柵原学園(7～9年生)6名、津山東高等学校2名、津山商業高等高校2名

合計12名

#### 《受入施設》

●【“施設”ボランティア】 白寿荘、わかくさ児童クラブ、静香園、中央かめっこ保育園、さくらの実、中央ふれあいセンター、さやかなる苑、ケアハウス百壽、柵原東保育園、柵原西保育園、美咲ももたろ

うクラブ、エリシウム柵原、吉井川荘、かしのき荘、あなぐま舎、旭保育園、みさキッズあさひ

合計17施設

●【“つ・く・る”ボランティア】 白寿荘、わかくさ児童クラブ、静香園、中央かめっこ保育園、さくらの実、中央ふれあいセンター、中央児童館、みさき福祉園、ワークみさき、さやかなる苑、さつきの丘、ケアハウス百寿、柵原東保育園、エリシウム柵原、吉井川荘、柵原児童館、かしのき荘、美咲まめのき保育園、美咲町福祉の里あさひが丘、旭保育園

合計20施設

## 【成果】

- ・従来の施設ボランティアだけでなく、やつくるボランティアの取り組みなど、世間の状況に合わせて内容を工夫して実施することで、活動を絶やさず継続することができています。
- ・様々なボランティアの形をつくることで、自分に合った活動が行え、多くの方がボランティアに参加していただきました。
- ・つ・く・るボランティアで作品を施設に展示していただくことで、施設ボランティアの活動期間以外にも作品を見ていただくことができ、ボランティアと施設のつながりを持つことができました。
- ・以前より課題にあがっていた、つ・く・るボランティアに高校生の参加が少ないことに関しては、申込方法にQRコードを増やしました。
- ・つ・く・るボランティアは年に2回行っていたものを1回にしたことで、作品の季節よりも早くに施設に配布することができ、季節の作品を施設に飾ってもらえる期間が延びました。

## 【課題】

- ・高校生へのつくるボランティアのお知らせが高校の掲示板に貼っていただく方法なので、広く伝わっていません。
- ・ボランティアの体験の活動の中で施設側から、参加生徒の活動の仕方についてご意見、ご指摘をいただきました。これを踏まえ、事前研修の際にはボランティアについての分かりやすい説明と同時に、責任感を持って活動してもらえようような声掛けが必要です。
- ・中学生の参加に比べて、高校生の参加率は少なく、新たに取り入れたQRコードでの申し込みはいませんでした。

## 【次年度に向けて】

- ・施設ボランティアだけでなく、つくるボランティアの作品を楽しみにしてくださっている施設が増えているため、今後もシーズンボランティアとして継続していきます。
- ・中高生だけでなく、一般のボランティアの方にも広く募集をかけ、ボランティア活動に取り組んでもらえるようその機会を提供します。
- ・生徒の活動の質を高められるような事前研修を考えるとともに、ボランティアについての理解やボランティア体験を1つのかけがえのない経験として実感してもらえようような事後研修を行っていきます。
- ・高校生の周知方法として掲示板ではなく、施設ボランティアの周知と同じ機会につくるボランティアの周知やボランティア部等の団体に対しての周知を検討します。

## (6) ボランティア活動のコーディネート状況

活動件数／活動者数
福祉共育ボランティア 4件／3名
施設ボランティア 3件／4名

## (7) ボランティア保険加入状況

種別	加入団体数	加入者数(被保険者数)
ボランティア活動保険	23団体	1,182人
ボランティア行事用保険	5団体	1,828人
送迎サービス補償	0団体	0人
福祉サービス総合補償	1団体	735人

## 5. 福祉共育の推進

人を思いやり、お互いに支えあい・助けあう心を育み、自分と違う立場の人と認めあい、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力などの「ともに生きる力」をつけていく意識の醸成に努めました。

### (1) 小学校・学園における福祉共育の実践

日時	実施学校	対象	内容
令和7年 11月4日(火) 10:45～11:35	柵原学園	9年生 31名	高齢者を理解しよう 1日目 講師:藤田友敬 氏(かしのき荘管理者) 漆坂美津子 氏(かしのき荘利用者) 講座:高齢者について理解を深めよう
令和7年 11月10日(月) 9:30～11:10	柵原学園	9年生 31名	高齢者を理解しよう 2日目 講師:北和気通いの場の皆様 講座:高齢者について理解を深めよう
令和7年 11月17日(月) 13:45～14:35	旭学園	6年生 16名	高齢者を理解する 講師:金山まさ子氏(あさひが丘DS職員) 講座:お年寄りの方にとって笑顔・元気でいてもらえるようにしよう
令和8年 1月15日(木) 13:30～15:05	加美小学校	4年生 23名	身体障がいについて学ぼう! ゲストティーチャー:藤本満春 氏 体験:車いす体験(校内車いす走行) 講座:ともに生きる～車いすを使っている人について学ぼう～
令和8年 1月29日(木) 9:40～11:20	旭学園	4年生 8名	聴覚障がいについて学ぼう! ゲストティーチャー:山本 修 氏 講座:聴覚障がいについて 体験:手話で挨拶、指文字、手話以外のコミュニケーションについて

令和8年 2月9日(月) 10:40～12:20	旭学園	4年生 8名	視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:奥西 敦子 氏 体験:STT(サウンドテーブルテニス)体験 講座:視覚障がいとは ユニバーサルデザインについて
令和8年 3月12日(木) 10:35～12:15	美咲中央小学校	4年生 28名	視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:奥西 敦子 氏 体験:STT(サウンドテーブルテニス)体験 講座:視覚障がいとは ユニバーサルデザインについて

## (2) 福祉共育に関する研修会及び報告会

名 称	令和7年度 福祉教育セミナー
開 催 日 時	令和7年11月17日(月)13:00～16:00
場 所	きらめきプラザ3階 301会議室(ZOOM参加)
対 象	県内の市町村教育委員会、小中学校、特別支援学校等の教員、地域学校協働推進員、地域コーディネーター、社会教育士、コミュニティスクール関係者、市町村社協、社会福祉法人施設・事業所、その他教育／福祉関係者
内 容	第1部 基調講演 「いま、なぜ福祉教育か～子どもたちの『ともに生きる力』を育てる学校・地域づくり～」 講師 日本福祉大学 学長 原田正樹 氏 第2部 パネルディスカッション 「『岡山県版福祉教育ガイドブック』を活用した教育と福祉の連携・協働の可能性～子どもたちの主体性をより引き出す実践へ～」

名 称	全国福祉教育推進員研修
開 催 日 時	令和7年7月上旬～8月5日まで オンデマンド配信視聴(300分) 令和7年8月6日(水)9:45～17:00 全国オンライン研修
場 所	きらめきプラザ
対 象	・社会福祉法人・福祉施設職員 ・学校教員・教育関係者、社会教育職員(公民館等) ・NPO 職員、民生委員・児童委員 等
内 容	各市町村の福祉教育を地域社会に定着させ、創造的な実践の実施・推進に取り組む(福祉教育推進員)を養成します。

## (3) 地域に根付いた福祉共育の実践

「福祉共育＝学校」という考え方ではなく、地域福祉は福祉共育で始まり、福祉共育で終わるとの言葉どおり、学校にとどまらず、地域・家庭・施設にも目を向け、美咲町社協が実施する事業と連携しながら、地域のふれあいサロンや通いの場、小地域ケア会議、当事者の会などの場を活用し、福祉共育を実践しました。

#### (4) 美咲流(地域版・学校版)福祉共育プログラムの実施

車いす体験・高齢者疑似体験・視覚障がい(サウンドテーブルテニス、グラウンドソフトボール)・聴覚障がい(さまざまなコミュニケーションの方法)・ふくしについて・ボランティアについて・フレイル予防について・ヤングケアラー・ダブルケアについてなどの美咲流の福祉共育プログラムを実施しました。

#### (5) 各種団体・大学などにおける福祉共育の実践

開催日時	令和7年8月29日(金)15:00～17:00
場所	生涯学習センター 多目的ホール
対象	公民館・図書館職員16名、美咲町社会福祉協議会職員10名
講師	山本 修 氏 知枝子 氏 美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員
内容	公民館、図書館職員との合同研修で、山本修さん、知枝子さんと交流し、手話を学ぶことで聴覚障がいについて理解を深めることができるよう講座の開催を行いました。

開催日時	令和7年11月5日(水) 9:00～11:00/18:00～20:00
場所	生涯学習センター 多目的ホール
対象	美咲町職員延べ77名、美咲町社会福祉協議会職員延べ30名
講師	山本 修 氏 知枝子 氏 美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員
内容	福祉しあわせ課と協働し、行政職員・社協職員を対象に聴覚障がいについての福祉共育を行いました。 聴覚障がいについて学んだほか、手話で自己紹介を自分の所属部署からできるよう、講師から学びました。

開催日時	令和7年12月2日(火)9:00～11:00/18:00～20:00
場所	生涯学習センター 多目的ホール
対象	美咲町職員延べ77名、美咲町社会福祉協議会職員延べ30名
講師	山本 修 氏 知枝子 氏 美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員
内容	11/5に実施した講座との連続で、実際に窓口で聴覚障がいがある方が来られた時のシミュレーションを行いました。

開催日時	令和7年12月23日(木)12:40～14:10
場所	美作大学講義室 5号館2階525教室
対象	社会福祉学科2年生 30名
講師	山本 修 氏 美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員

内 容	NPO・ボランティア論の講義の1コマに講師として伺いました。 聴覚障がいがある山本さんは、手話で「こんにちは」「おはよう」などの挨拶や、学生一人ひとりの席をまわり、名前を指文字と手話で丁寧に教えました。 実際に学生とコミュニケーションをとりながら、手話やそのほかのコミュニケーションの際に気を付けてほしいことなど、山本さん自身の言葉で伝えてくださりました。
-----	--

開 催 日 時	令和8年2月2日(月)15:00 ~17:00
場 所	生涯学習センター 多目的ホール
対 象	美咲町職員2名、公民館・図書館職員16名、美咲町社会福祉協議会職員10名
講 師	奥西 敦子 氏 美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員
内 容	図書館との合同企画として福祉共育を行いました。 社協職員や図書館職員の他に、行政職員にもご参加いただき、奥西敦子さんとの交流を通して視覚障害について理解を深めることが出来ました。

### 【成果】

- ・学校の中だけで学ぶのではなく、地域へ出ていくことで、地域で暮らす高齢者についてより深く理解することが出来ました。
- ・高齢者や障がい者について、困ったことや出来ない事だけでなく、その方たちが生活している様子を知ってもらい、生活の中での趣味や生きがい、楽しみについて知ってもらうことで『高齢者や障がい者の〇〇さん』という目で当事者を見るのではなく、『〇〇さんは目が見えないことでこんなことに困るけど、こんなお手伝いをしてあげると安心して生活ができる』という考えを持ってもらうきっかけになりました。
- ・当事者の方をゲストティーチャーとしてお招きし、障がいを持った方とふれあう機会を持つことで、不自由さや不便さを理解するのではなく一緒に楽しみ、当事者の視点に立って理解する講座を実施することができました。
- ・ゲストティーチャーから意見を伺ったり、校長会や教育委員会役場関係課と連携したりすることで効果的な福祉共育の実践を行いました。

### 【課題】

- ・様々な内容で福祉共育の実践を積み重ね、美咲流の福祉共育プログラムを実施していますが、すべての学校で実施できてはいません。
- ・依頼があった際は、単に疑似体験をすることに留まらず、福祉について自分たちで考え、実践に移すことができるような内容を実施することができるよう担当教諭と協議を行っていくことが必要です。
- ・高齢者についての福祉共育では地域の通いの場にていくことで地域の中で自分たちの暮らす地域で共に生きる高齢者について知ってもらう講座の開催が行えましたが、他のテーマの講座ではまだ学校の中での福祉共育に留まっています。

### 【次年度に向けて】

- ・小中学校や教育委員会との連携を強化し、すべての小中学生が福祉について学ぶ機会が増えるよう取り組みます。

- ・事前に担当教諭と福祉共育の内容について協議を行うことが出来るよう、事前の申し込みシートを作成し、学校側の学んで欲しい想いとこちらから伝えたいことのすり合わせが行えるよう努めます。
- ・一回の福祉共育で終わってしまうのではなく、講座から学んだことを活かしていくことができるようにするため、福祉共育の振り返りの機会を持つことができるよう働きかけを行っていきます。
- ・「地域共生社会」の実現を目指し、美咲流福祉共育プログラムを作成し、実践していきます。
- ・効果的な福祉共育の実践を行うため、当事者やボランティア、各種関係団体と連携し、意見を聞きながら取り組みます。
- ・自分たちの生活する地域のあり方や地域課題、福祉課題の発見と新たな出会いから学びを深めるサービスマーケティングを取り入れた福祉共育の実践を行います。
- ・自分たちで考えて学ぶアクティブラーニングを取り入れます。

## 6. 子育て支援事業

子育て世代の居場所である「ひよこクラブ」「わんわんクラブ」は、ふれあいサロン活動の運営支援のための助成を行い、ふれあい交流促進支援を行いました。

また、令和5年度からみんなで食堂(P. 65参照)を開催し、子育て世代との関わりをもつきっかけとなりました。

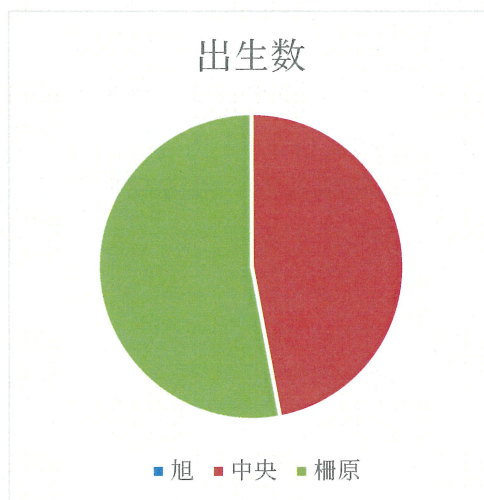
## 7. 赤い羽根コウノリ事業

令和6年度から、新規事業として赤い羽根コウノリ事業を実施し、子育て世代への支援を行いました。令和7年度は、赤い羽根コウノリ事業へ32件(うち10件は令和6年度生まれのお子さん)の申し込みがありました。昨年度同様、ご家庭への訪問時には育児の相談や、普段家族以外と話す機会がないからと雑談をする機会もありました。産後1年前後で仕事へ復帰される方も多く、育児と仕事の両立に不安を感じられている方もおられます。お父さんが育児休暇を取られている方も今年は多くおられ、生後1ヶ月ほど一緒に育児をしたという世帯も多くおられました。

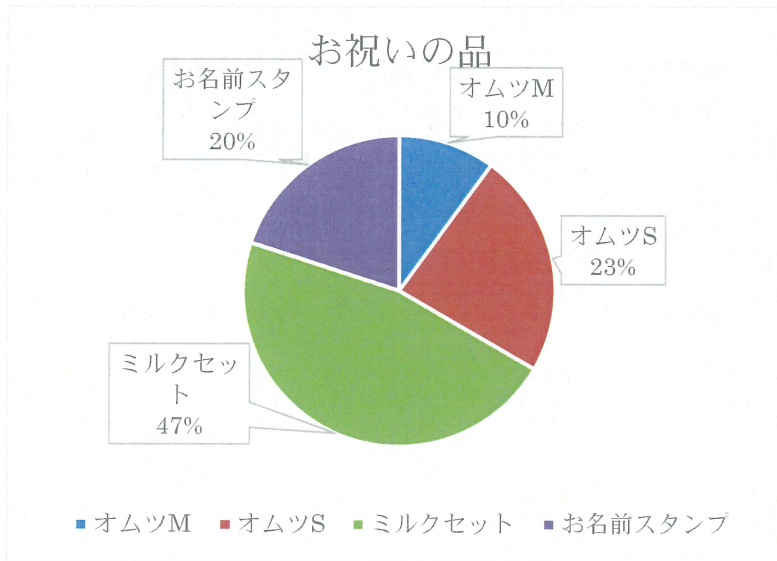
昨年度同様、みんなで食堂への案内を行い、昨年度コウノリ事業へお申込があった世帯からの参加もあり、子育て中のお話をお伺いする機会にもなり、参加者同士が同じテーブルに座り交流されている姿もありました。

《令和7年度 申し込み方法・件数》

・Googleフォーム…30件、来所…2件 合計32件(内令和6年度出生分10件)



お祝いの品については、28件は訪問時、2件はご家族に代わりお渡しをしています。  
2件は日程が合わず、年度内に訪問が出来ていません。



お申し込みされた方より、オムツ S サイズを選びたかったが、訪問日がわからず申込みすることができなかったという声も聞かれました。

オムツ、ミルク、おしりふきについては、物価高騰もあり「助かる」といった声を多く聞きました。

昨年度同様、保育園に入園が決まっているお子さんは、おなまえスタンプを頼まれる方もおられました。

### 【成果】

- ・子育て世代とつながりを持つきっかけとなりました。
- ・一度の訪問だけで終わってしまうのではなく、みんなで食堂などの事業へお誘いすることで、今年度訪問した家庭だけでなく、昨年度訪問した家庭とのつながりを継続していくことができています。
- ・手渡しを行うことで、「話し相手が少ない」「久しぶりに話をした」など、子育て世代の声を聴くことができました。また、子育てのことだけでなく、お母さんの好きなことや仕事の話など、育児とは違う話題も交えることで、子育て世代の本音を聞くことが出来ました。

### 【課題】

- ・町内では、子育て支援センターや親子サロン、ファミリーサポート・センターなど、子育て支援の取り組みが増えてきています。しかし、まだまだその情報が必要な方に届いていない部分もあります。
- ・子育て世代の中には、転入してきてまだ地域とのつながりがなく、話し相手や相談する相手がおらず子(孤)育てをしている方もおられます。
- ・コウノトリ事業にて訪問した方々との関わりを継続していくため、お茶会の開催を検討していましたが、育休後に職場復帰される方や、里帰り出産で戻られてしまう方もおられ、子育て世代との関り方を今後検討していく必要があります。
- ・出生率の低下に伴い、令和7年度で「わんわんクラブ」が活動を休止されました。現在町内で活動をされている親子クラブは「ひよこクラブ」のみとなっており、子育て世代同士が繋がれる機会の確保が必要です。

### 【次年度へ向けて】

- ・令和6年度、令和7年度で訪問させていただいたご家庭に対して、赤い羽根コウノトリ事業を利用についてのアンケート実施や、相談室のキッズスペースを活用し、親子で過ごせる場作りに努めます。
- ・引き続き事業を継続することで、子育て世代への支援に取り組んでいきます。
- ・訪問に合わせ、子育て支援についての情報もお届けすることができるよう努めます。
- ・他の事業や関係機関と連携することで、子(孤)育てとなってしまう方の早期発見・早期支援に努めていきます。

## 8. 社会福祉大会の開催

美咲町社協の活動理念のもと、子どもから高齢者・障がい者など、誰もが生き生きと暮らすことができる共生の地域づくりに努め、社会福祉の向上にご尽力された方を顕彰し感謝の意を表すため、また赤い羽根共同募金運動スタート式を行うため「第14回美咲町社会福祉大会」を開催しました。今年度は、美咲町合併・社協設立20周年記念として「永年ふれあいサロン活動を継続してこられた団体のみなさま」へ社会福祉協議会会長感謝表彰を119団体に行いました。

また、美咲町社会福祉法人等連絡協議会“あったかこころネットみさき”や、各種団体の協力を得て、社会福祉大会に出店をしていただきました。

日時:令和7年10月5日(日) 13:00～16:00

場所:柵原総合文化センター

式典:美咲町社会福祉協議会会長表彰他

実践報告:

「オーイ元気だぞ！みんなが主役のまちづくり」 発表団体:江与味自治会

「お弁当配達からつながる～事業所と地域の垣根を越えて～」 発表団体:塚角・書副・藤原配食ボランティアグループ、社会福祉法人鶯園さやかなる苑

「地域を支える生活支援サポーター～みんなの生活の1ピース～」発表者:生活支援サポーター  
エンディング: 里神楽の舞(プレ公開) NPO法人やまさくら さくらの実

出店団体:あなぐま舎、ひかり学園ひかりの丘、白寿荘、さやかなる苑、社会福祉法人等連絡協議会 あったかこころネットみさき【久米福祉会・さやかなる苑・白寿荘 各2名ずつ】、社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会(お手伝い:障がい者ネットワーク稲谷さん・草苺さん レインボー赤崎さん・片岡さん)、ほっとスペース「すみれ」、メンタル柵原、美咲町共同募金委員会

来場者数:345名

## 9. 共同募金事業の推進

美咲町共同募金委員会の行う共同募金への運動及び配分助成事業を計画に沿って行うなか、戸別募金の減少傾向に歯止めをかけ、募金活動を活性化するために、各種事業を展開しました。また、地域福祉の推進を目的とする共同募金に住民理解が得られるよう、募金手法や配分助成事業の公募・助成審査・決定に関する情報の開示、集められた募金の使途の明確化など、各種事業の機会を活用して住民と顔を合わせながら伝えるよう努めました。

### (1)美咲町共同募金委員会運営委員会(運営委員 12名、監事 2名)及び審査委員会(審査委員 9名)

	開催日時	協議内容
監 査	8月19日(月) 15:30～16:30	・令和6年度共同募金事業報告・決算、監査 監 事 2名出席 事務局職員1名出席 担当職員3名出席
運営委員会 (第1回)	9月2日(火) 15:00～17:00	【報告】 ・令和6年度岡山県共同募金会美咲町共同募金委員会事業報告ならびに決算、監査について 【その他】 ・赤い羽根手作り募金箱、ポスター受賞作品の選定について

	委員 11名出席	監事 2名出席
--	----------	---------

(2) 赤い羽根共同募金 募金運動について

10月1日から3月31日を運動期間として、各種募金運動を展開しました。

赤い羽根募金の実績

(目標額 2, 290, 000)

(単位:円)

募金種別	金額
戸別募金	1, 435, 550円
職域募金	221, 400円
企業募金	462, 000円
イベント募金	233, 485円
その他の募金	186, 171円
計	2, 538, 606円

歳末たすけあい募金の実績

(目標額 1,400,000)

(単位:円)

募金種別	金額
戸別募金	1, 349, 150円
イベント募金	211, 610円
その他の募金	25, 350円
計	1, 586, 110円

※その他の募金とは、寄付つき商品の売上、歳末時期のイベント募金、手作り募金箱等で集まったお金です。

募金運動	主な募金方法、募金ボランティア
共同募金運動 (期間:10/1~3/31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別募金(常会長、連絡協力員による。世帯を対象)</li> <li>・職域募金(職員を対象)</li> <li>・企業募金(企業を対象)</li> <li>・イベント募金(本人の主張大会/美咲町社会福祉大会/たまごまつり/旭文化協会ふれあいまつり/倭文西収穫祭/みさき秋まつり/笑顔のお届け便/みんなで食堂、図書館×社協フェスタ2025 他)</li> <li>・その他募金(募金箱、募金グッズなど)</li> </ul>

★募金にご協力いただきました企業さま 全110社(匿名希望16社含む/順不同・敬称略)

株式会社旭石油店	まきばの森	西川タクシー株式会社	あいでんフジワラ店
株式会社森脇興業	江与味製材株式会社	三休商会	大崎商店
たまご&ファーマーズ株式会社 美咲事業所	石原歯科医院	株式会社ナカツカ	有限会社丸美屋
本 田 事 務 所	アルスヘアー	アトム美咲店	おぎフォート
医療法人亀乃甲診療所	にぎわい市場三金や亀甲店	オクテヤ運送株式会社	池上美容室
株式会社タイラファイナンシャルパートナー	美咲町物産センター	有限会社日神山内装	日本緑研株式会社
有限会社美絹糸院	サロン・ド・My	有限会社三協緑産	株式会社久米観光バス
株式会社亀甲マイカーセンター	株式会社杉本建設	中央アルミ工業株式会社	有限会社山一製作所
有本観光バス株式会社	有限会社坂手商店	株式会社中央建設	有限会社内田石材店
小 島 梨 園	株式会社中央ブチカントリークラブ	松岡建築	共和建設有限会社
ファミリーマート 岡山美咲町店	ビューティーサロン・カゲヤマ	農事組合法人 アグリモモ人安味	株式会社ミツカ 美咲ブルーファーム寒竹
ハリキ精工株式会社 岡山工場	社会福祉法人篤園ケアハウス百壽	株式会社マルケイ工業	有限会社寒竹建設
株式会社寒竹工務店	日本興業株式会社 柘原工場	有限会社アイミック	有限会社稲家石材
株式会社ヒカリテック	株式会社野上石油店	松尾設備工業株式会社	有限会社直原商会
田 口 医 院	柘原オートセンター株式会社	有限会社鈴鹿モータース	有限会社山荘やなほら
石 戸 歯 科 医 院	有限会社脳石油店	つ ぼ や	株式会社大阪合成有機化学研究所
DOWAエフテック株式会社	有限会社トラヤランドリー	株式会社デイサービスみさき	株式会社トンボ美咲工場
タ ナ カ 美 容 室	医療法人三憲会 柘原病院	鳥越建具店	有限会社柴原石油店
株式会社月の輪建設工業	エコシステム山陽株式会社	有限会社昭和堂	株式会社脇木工
菊 井 歯 科 医 院	社会福祉法人篤園さやかなる苑	Hair Leaf	北和気郵便局
ツボテック工業株式会社	有限会社壺阪自動車	有限会社梶尾建設	K i t o B i t o
株式会社シーモス	久米郡商工会	柴田電気管理事務所	株式会社 BEAGLE
株式会社ココロメディアデザイン	有限会社ひろはた	日笠商事株式会社	三要電熱工業株式会社
株式会社三勝	有限会社創示社		

## 『みんなあつまれ！図書館×社協フェスタ2025』の実施

美咲町生涯学習センターの中にある中央図書館と美咲町社会福祉協議会が協働・連携するために初めて一緒にイベントを企画しました。「図書館 de やってみよう！～イースターカードを作ろう♪～」「スタンプラリー～フクシとトショカン～」「喫茶みしゃモン&みさっぴ」の3つのブースを用意し、スタンプラリーブースでは共同募金についてのクイズも含めた問題を解きながら福祉や図書館に触れてもらう機会としました。喫茶ブースでは来場者に募金をしていただき、ホールスタッフとしてボランティアで参加してくれた方との交流も行いながら、来場者同士でも楽しめるイベントとなりました。

募金額:3,475円

開催日時・参加者	実施場所	内容
3月28日(土) 10:00～12:00  【参加者】 来場者:47名 社協職員:13名 図書館職員:3名 ボランティア:4名 計67名	生涯学習センター2階 研修室1・2、 視聴覚室、調理室	「図書館 de やってみよう！イースターカードを作ろう♪」 図書館司書の山本さんが講師となり、参加者みなさんが世界に一つだけのオリジナルの作品をつくりました。子どもから大人まで年齢問わず参加してくださいました。 「スタンプラリー～フクシとトショカン～」 生涯学習センター内にある福祉や図書館に関する問題を解きながらスタンプを集めて回り、スタンプをすべて集めてくれた方には景品をお渡ししました。子どもさんにも大変喜んでいただけました。 「喫茶みしゃモン&みさっぴ」 ホットケーキとコーヒーなどの飲み物を用意し、ボランティアの方にも注文・配膳のお手伝いをしてもらいました。 自分たちでホットケーキのトッピングをしてもらったり、待ち時間にコースターに絵を描いてもらったりと、参加者にも一緒に楽しんでもらえる喫茶店になりました。

### (3) 共同募金活動の充実

①手づくり募金箱大募集！！～わたしのまちの赤い羽根募金箱～

②赤い羽根ポスターコンクール

共同募金のしくみが見える化するため、子ども、障がい者施設・団体、高齢者施設、サロンなど幅広い世代へ手づくり募金箱作成の募集と赤い羽根ポスター作製の募集を行いました。10月から始まる共同募金運動では、公共施設や企業などに設置させていただき、共同募金運動を盛り上げていただきました。また、第14回美咲町社会福祉大会にて優秀作品を表彰しました。共同募金期間終了後もみんなのアート展示会～わたしの世界inみさき～にて町内巡回展示会を実施し、共同募金の周知に努めました。

(応募募金箱27点 手づくり募金箱への募金額54,046円／応募ポスター13点)

## 募金箱の設置にご協力いただいた企業・公共施設の皆さま

ビューティーサロン・カゲヤマ、株式会社美咲物産（食堂かめっち）、美咲警察署、晴れの国岡山農業協同組合（中央支店）、にぎわい市場三金や亀甲店、株式会社ナカツカ、美咲町物産センター、株式会社亀甲マイカーセンター、株式会社久米観光バス、亀甲駅、オクデヤ運送株式会社、有限会社三協緑産、久米郡商工会、ドライブイン寿、株式会社中央プチカントリークラブ、株式会社杉本建設、東伸金属工業株式会社 柵原工場、株式会社脇木工、北和気郵便局、晴れの国岡山農業協同組合（柵原支店）、農事組合法人アグリモモ人安味、エコシステム山陽株式会社、やさい畑、卯根倉鋳業株式会社 西部事業所、石戸歯科医院、Hair Leaf、山下ぶどう園、松尾設備工業株式会社、株式会社マルケイ工業、田口医院、アサヒ防災工事株式会社、みち停あさひ、まきばの森、役場本庁舎、旭総合支所、柵原総合支所、生涯学習センター、各地区福祉センター（中央・柵原・旭）  
（全40箇所/順不同・敬称略）

### (4) 新たな募金グッズ制作及び募金実績向上につながる事業の展開

募金の使途や地域への還元のおくみをより幅広い世代へ周知し、また募金実績向上につながることを目的に、これまでに制作してきた募金グッズを地域の皆さんが集う様々な場所で啓発・持参し、新たな募金グッズを制作し、寄付者の開拓に努めました。

また、令和6年度末に作製したオリジナル付箋と、スマートエマージェンシーボトルの周知を行い、募金実績の向上に努めました。

共同募金 グッズ	みしゃモンオリジナルトートバッグ／みしゃモン不織布マスク(大人・子ども)／スマートエマージェンシーボトル／みしゃモンオリジナル付箋／木製アニマルブローチ・木製鉛筆立て・木製ティッシュケース(木工ボランティア) /ドライフラワーアレンジメント(ほっとスペースすみれ)など
-------------	--

### (5) 支えあい活動の支援

住民が自発的に行う社会貢献活動を支援するため、ボランティア団体やNPO法人が行う福祉活動などに対し公募方式により募集を行いました。また、美咲町共同募金委員会の行う共同募金運動及び配分助成事業を計画に沿って実施しました。

### (6) 災害見舞金と災害義援金への協力

美咲町内で、火災などで被災した住民に対し災害見舞金を支給しますが、今年度はありませんでした。また、国内での自然災害などが発生した場合、岡山県共同募金会と連携のもと、義援金の募集などに努めました。

#### 【成果】

- ・町内で共同募金運動を行うことで、「じぶんの町をよくするしくみ」のスローガンのもと、多くの募金が集まっています。集まった募金に関しては、計画に沿って町内の福祉団体への助成や地域福祉事業に活用することで還元することができています。
- ・募金の使途を明確にし、住民の理解を得るために、様々な事業と連携して共同募金についての啓発を行った結果、多くの住民より理解を得られ、多くのイベント募金にご協力いただくことができま

した。

- ・町内の企業と連携し、イベントの際に共同で子ども向けブースを運営することで、募金実績の向上につながったほか、隣接した共同募金ブースにも多くの方が訪れるきっかけづくりになりました。
- ・共同募金についてのパネルを作成し、共同募金ブースと一緒に設置するほか、共同募金運営委員にも協力していただき、町内で開催されたイベントに募金箱と一緒に設置していただくことで、共同募金の実績向上と啓発を行うことが出来ました。
- ・町内及び社協と取引のある町外の企業へ法人募金の協力をお願いするなど、多様な募金方法の推進に努めた結果、赤い羽根及び歳末助けあいのどちらも目標額を達成することができています。

### 【課題】

- ・共同募金は「じぶんの町をよくするしくみ」として、地域福祉活動や民間の社会福祉事業などに活用されていますが、社会情勢の変化に伴い、募金額は減少傾向にあります。
- ・募金額減少に歯止めをかけるためにも、若年層を含めた幅広い住民に共同募金が何に使われているのか明確に周知するとともに、新たな取り組みを生み出していくことが必要です。
- ・共同募金で各団体に助成を行う公募事業に対して、2年続けて申込がない状態になっています。共同募金が「じぶんの町をよくするしくみ」として住民のみなさんに周知し、活用していただくためにも応募要件の見直しと啓発の方法を検討していきます。

### 【次年度に向けて】

- ・より多くの地域住民の方に赤い羽根共同募金について周知して理解を得られるよう、様々な募金手法の検討や募金使途を分かりやすく伝えるなど、引き続き工夫をしながら取り組みます。
- ・若い世代へも共同募金の理解を広げることができるよう、社協だよりやホームページの他にFacebookやInstagram、ラインも活用し周知を進めていきます。
- ・募金実績の向上を目指し、オリジナルグッズの作製を行うほか、町内のイベントや企業が行うイベントに積極的に参加し、共同募金の啓発と実績の向上を目指します。

## 9. 社協会員の加入促進

美咲町社協の地域福祉事業活動の推進の財源として活用し充実に努めました。令和6年度まで区分のひとつであったふるさと会員区分を廃止し、企業や施設等と連携・協働していくために新たに法人会員会費区分を新設しました。

普通会員			特別会員			法人会員		
件数	金額	口数	件数	金額	口数	件数	金額	口数
353	533,000	531	63	258,000	89	2	10,000	2
合計								

## 10. その他福祉事業の推進

### (1) 福祉団体活動支援事業

町の補助により、福祉団体の自主的運営に対して助成を行い、自主活動の支援を行いました。

支援団体：4団体

(美咲町身体障害者福祉協会・美咲町遺族会・美咲町保護司会・美咲町更生保護女性会)

## (2) 広報活動の促進

広報紙「社協だより」を毎月発行し、美咲町社協が実施する福祉事業について周知を図るとともに、福祉活動や福祉情報などを提供してきました。また、ホームページ・フェイスブックを活用して情報をタイムリーに幅広く発信していくことにも努めてきました。

## (3) 貸出事業(レクリエーショングッズ、福祉用具他)

レクリエーショングッズ貸出件数:123件【貸出先:ふれあいサロン、通いの場 など】

1位:モルック/2位:ポッチャ/3位:お手玉・釣りっこゲーム・脳トレかるた

福祉用具貸出件数:14件【福祉用具:車いす13回、高齢者疑似体験セット1回】

その他【スクリーン1回、ホットプレート2回】

## (4) 視察研修会の受け入れ及び実践発表

開催日時	令和7年5月1日(木)10:00~12:00
場所	美咲町生涯学習センター
対象	矢掛町行政職員2名 矢掛町社会福祉協議会職員2名 美咲町社協2名、美咲町役場3名
講師	美咲町社会福祉協議会 地域福祉課職員
内容	アウトリーチについて(目的、訪問場所(サロン・公民館等)・時刻・頻度・訪問する社協職員及び住民メンバー、話し合う内容、引きこもり・困窮者・認知症・独居など気になる人の情報を入手した際の社協や行政の対応等)

開催日時	令和7年12月9日(火) 13:00~16:30
場所	文部科学省東館3階第一講堂
対象	文部科学大臣表彰受賞者・オンライン
発表者	美咲町社会福祉協議会 地域福祉課 課長 小林奈緒
内容	美咲町社会福祉協議会が取り組む『みしゃモンカレッジ』の紹介 『みしゃモンカレッジ~今、そしてこれから!みらいチャレンジ!~』 意見交換

## (2) 生活支援体制整備事業

住み慣れた地域で生活を継続していくために、高齢者の日常生活における生活支援・介護予防について、多様なサービスの提供体制など基盤整備を構築するため、地域において支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して、支援体制の充実・強化に努めました。

### 1. 生活支援に関する情報収集と課題把握、多職種との連携

(1) 小地域ケア会議をはじめとする地域包括ケアシステムを構築している会議への参加

① 小地域ケア会議 P. 16参照

## ②地域ケア会議

第1回			
地 域	中央地域	旭地域	柵原地域
月 日	令和7年9月5日(金)	令和7年9月10日(水)	令和7年9月4日(木)
会 場	生涯学習センター2階 多目的ホール	あさひなた2階 中会議室	柵原総合文化センター 多目的ホール
時 間	13:30~15:00	13:30~15:00	13:30~15:00
内 容	テーマ「地域で取り組めるささえあい活動」 ・3つのケア会議について、令和6年度地域ケア会議の振り返り ・地域包括ケア会議の報告 ・ささえあい活動の事例紹介 ・グループワーク ① それぞれの地域で取り組まれているささえあい活動の共有 ② 今後、どのようなささえあい活動ができるか		

第2回			
地 域	中央地域	旭地域	柵原地域
月 日	令和8年2月27日(金)	令和8年2月19日(木)	令和8年2月13日(金)
会 場	生涯学習センター2階 多目的スペース	あさひなた 多目的ホール	柵原総合文化センター 多目的ホール
時 間	15:00~16:30	13:30~15:00	13:30~15:00
内 容	テーマ「地域に広く情報を発信するための方法」 ・地域包括ケア会議の報告 ・役場、社協が実施している情報発信について紹介 ・グループワーク ① 現在、地域・役場・社協で行っている情報伝達方法の共有 ② 今後、より広く情報を発信するために必要な取り組みや工夫について		

## ③地域包括ケア会議

	開催日時	協議内容
第1回	令和7年7月29日(火) 13:00~16:00	委嘱状交付、委員長の互選・副委員長の指名 報告事項及び協議事項 (1)美咲町の現状と美咲町版地域包括ケアシステムの目指す地域福祉の推進 (2)町から地域包括ケア会議の進捗報告 ①配食サービス事業の現在の状況は？ ②黄福タクシー制度を知らない住民に変更点も併せて周知が必要では？ ③地域福祉計画を作ったが絵にかいた餅にならないよう周知を ④重層的支援体制整備事業の周知を！何度でも必要では？ ⑤福祉避難所運営における物資のフローの明確化や一般避難所への福祉の要素を取り入れてみたら。 ⑥地域の担い手不足に行政が努力していることは分か

		る。その後の進捗を。
第2回	令和7年11月21日(金) 13:00～15:00	報告事項 (1) 前回会議であがった事項の報告 (2) 今回の報告事項 ① 介護サービス事業所の経営悪化に対する美咲モデルの創設を！ ② 老人クラブ活動の持続性の検討 ③ 福祉の意識の壁・情報の壁を取り払うためにできることは(キーワード「なかなか情報が伝わってこない」) 協議事項 (1) 福祉の意識の壁・情報の壁を取り払うためにできることは(キーワード「なかなか情報が伝わってこない」) (2) 空き家対策と地域への伝達について
第3回	令和7年3月24日(火) 13:00～15:40	報告事項 (1) 前回会議であがった事項の報告 (2) 今回の報告事項 ① 介護サービス事業所の経営悪化に対する美咲モデルの創設を！ ② こども家庭センターの創設について ③ 福祉避難所の運営について ④ 空き家対策補助金の見直しについて ⑤ 地域包括支援センターからの報告 ⑥ 重層支援体制整備事業の振り返り 協議事項 (1) 主任児童委員の役割の明確化について

以上の会議に参加もしくは参加した地域担当との情報共有を行い、地域にある生活ニーズの把握に努めました。

## (2) ボランティアセンターとの連携と情報共有

美咲町内にある生活支援に関係する社会資源の情報収集と情報共有を行い、社会資源の見える化に向けて検討を行いました。

## (3) 各専門職や行政機関が連携を行う場への参加

### ① 在宅医療・介護連携協議会の部会への参加(毎月第2火曜日開催)

多職種・行政機関との連携を図るため介護・医療連携協議会の部会に参加し、各活動状況の報告を行った他、活動の中から見えてきた課題の共有・協議を行いました。

### ② 在宅医療・介護連携推進協議会への参加

多職種・行政機関との連携を図るため、在宅医療・介護連携推進協議会に参加し、地域での小地域ケア会議や通いの場の活動状況について情報共有を行いました。

### ③ 地域ケア個別会議への参加(毎月開催に参加) 要支援者に対する支援の検討、現在ある社会資源の活用方法の検討を行うため地域ケア個別会議に参加しました。

### ④ 地域課題共有会議への参加

美咲町地域みらい課とNPO法人みんなの集落研究所との会議に参加し、主に小規模多機能自治・まちづくり協議会に関わる協議や各地域の活動状況の共有、小地域ケア会議であがった課

題についての共有と解決方法の検討を行いました。

⑤生活支援コーディネーター定例会への参加

1層・2層生活支援コーディネーターが連携を図るために、今年度は毎月定例会を行いました。日頃の情報共有や、今年度開催した1層・2層協議体に関する協議・打ち合わせを行いました。

(4) 地域の中で行われる会議などへの参加

地域の中での自治会総会、民生委員支部会(中央・旭・柵原)、協働のまちづくり会議、防災会議などへの参加や自治会長をはじめとした地域の役員の方と情報共有を行い情報収集に努めました。P. 16参照

**2. 美咲町全体の生活支援体制整備のサービスの資源開発を推進**

(1) 配食サービスの普及、配食ボランティアの育成

①美咲町配食サービス事業の推進

【さやかなる苑配食サービス実績】

配食ボランティア数	12名(生活支援サポーター及び、配食見守りボランティア登録者)
食数	1日5食まで(夕食のみ)
配食範囲	さやかなる苑より15分圏内
配食可能日	月曜～金曜日
自己負担(弁当料)	400円(配食利用者が負担)
サポーターへの報酬	サポートふ・く・しのポイント制を利用 財源は町の配食事業を活用し1件あたり700円(令和7年8月より)200円はさやかなる苑の事務費、500円はポイントでサポーターへ美咲町社協から渡している。 ※令和7年より、商品券に代わるポイントカード受け渡しが適切に行われているかを記録として残すため、ポイントカード受渡・受取確認表やポイントカード引換券を作成し、活用している。
実績数	348回

【笑う門配食サービス実績】

配食ボランティア数	12名(生活支援サポーター登録者)
食数	要相談
配食範囲	要相談
配食可能日	要相談
自己負担(弁当料)	500円(配食利用者が負担)
サポーターへの報酬	サポートふ・く・しのポイント制を利用 財源は町の配食事業を活用し1件あたり700円(令和7年8月より)200円は笑う門の事務費、500円はポイントでサポーターへ美咲町社協から渡している。 ※令和7年より、商品券に代わるポイントカード受け渡しが適切に行われているかを記録として残すため、ポイントカード受渡・受取確認表やポイントカード引換券を作成し、活用している。

実績数	82回
-----	-----

【配食ボランティア交流会の実施】

開催日時	令和7年7月17日(木) 13:30~14:30
場所	柵原総合文化センター 多目的ホール
対象	配食ボランティア9名、さやかなる苑1名、保険年金課2名、社協4名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービス事業について説明</li> <li>・配食サービス事業におけるそれぞれの役割について説明</li> <li>・緊急時の対応について、振り返りと確認(緊急時フローチャートの作成)</li> </ul>

開催日時	令和7年9月18日(木) 19:00~20:30
場所	北公民館
対象	生活支援サポーター15名、笑う門1名、保険年金課2名、社協3名
参加者	大学生3名、みんなの集落研究所1名、地域みらい課1名、福祉しあわせ課1名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配食サービス事業について説明</li> <li>・配食サービス事業におけるそれぞれの役割について説明</li> <li>・地域の声から始まった配食サービスの歩みについて</li> <li>・日頃の配食ボランティア活動に関する意見交換とグループワーク</li> </ul>

開催日時	令和7年11月9日(日) 14:00~15:30
場所	広末公民館
対象	配食ボランティア10名、笑う門1名、社協2名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の活動の振り返り</li> <li>・ポイントカードに関する説明(料金改定に伴うもの)</li> </ul>

【配食サービス事業に関する協議】

昨年度に引き続き、配食サービス事業に関わる役場・社協・包括職員が情報交換、事業に関する確認・共有事項についての会議を行いました。

日時	令和7年6月25日(水) 10:00~11:00
場所	生涯学習センター ボランティア室
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担当者自己紹介</li> <li>②配食サービス事業の現状について(現在の配食利用者一覧・新規事業者について、新規利用者の共有方法について、開始の流れフローチャートの見直し等)</li> <li>③配食サービス事業について(緊急時対応の確認、新規事業者への働きかけ等)</li> <li>④その他(利用者緊急時の連絡網作成、緊急時対応のマニュアル見直し、事業者への委託料改定予定について)</li> </ul>
参加者	役場保険年金課職員3名、社協地域福祉課職員4名、包括職員2名

【配食サービス事業委託料改定に関する協議】

近年の物価高騰の現状をうけ、令和7年3月に配食事業者から「現在の配食サービス事業の受託による料金(1回500円)では事業を運営できない。」と申し出がありました。これを受け、美咲町

保険年金課と料金改定に向けて協議を行いました。また、料金改定にともない下記の通りサポートふ・く・しポイント制に関わる久米郡商工会、美咲町保険年金課との協議を行いました。

日 時	令和7年8月8日(金) 10:00～11:00
協 議 内 容	①配食サービス事業の支払いの流れについて ②確認事項 (1)商工会からの請求書の宛名について (2)商工会からの請求者名について ③その他
参 加 者	久米郡商工会職員1名、役場保険年金課職員2名、社協職員2名

## ②配食事業者の新規事業者開拓

令和7年7月1日から、新たに中央地域の「まんま庵」が配食事業者として登録されました。社協が関わる方で、家族と同居しているが食事を作るのが困難な65歳以上の世帯に対して利用の働きかけを行いました。利用者はその後入院されていますが、実際にサービスを利用することが出来ました。

## ③配食サービスの新規利用者と配食ボランティアのコーディネート

小地域ケア会議などで、配食のニーズがあれば、配食事業者と配食ボランティアとのコーディネートを行いました。本人が安心して食事を届けてもらえ、配食ボランティアとも関係づくりが行えるよう、顔合わせの調整も行いました。また、配食サービス利用が必要ではないかという住民や民生委員、小地域ケア会議などの声を受けて、本人や家族、担当ケアマネジャーなどに実態把握を行いました。

(令和7年度新規利用者:①塚角地区2名/配食事業者さやかなる苑/塚角・書副配食ボランティアグループ)

配食ボランティアを伴わない事業者利用の方のアセスメント同行件数:6件

## ④配食サービス事業に係る事務

ボランティアを伴う配食事業者の「配食サービス事業実績報告」より実績の確認・集計、サポートふ・く・しポイントカードへ実績分のポイント押印、月次報告書への入力、配食ボランティアシフト表の作成と配食事業者への共有、ポイントカード受取確認表・引換券の作成、ポイントカードが配食ボランティアのみなさんに渡すよう配食事業者や配食ボランティアグループリーダーとの連絡調整等を行いました。

## (2)通いの場の運営支援

<支援内容>

### ①地域・団体の状況に沿い、介護予防の取組みが行えるよう支援者と協議

高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施事業への参加

高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施事業の中でも、ポピュレーションアプローチとして通いの場を対象としたフレイル予防教室に参加しました。フレイル予防教室の開催に関わる会議

に3回、フレイル予防教室の新規が1会場(打穴西)2回、フォローアップが2会場(江与味、塚角・八神)各1回に参加し、通いの場の参加者とのつながりを活かし、運営の補助等を行いました。

②通いの場の運営についての相談支援

③継続して開催を行っている場所に対する運営支援(年間合計6回参加)

④参加者の生活状況・ニーズ把握

⑤通いの場代表者研修会及び情報交換会の開催

ふれあいサロンとの合同研修会として、「地域の集いの場代表者研修会」を企画し、代表者同士が交流できる場、活動の活性化のための研修会を行いました。

【通いの場開催状況】

地域	団体名	会場(地域)	開催曜日	備考
柵原	八神・塚角元気村	塚角コミュニティハウス	毎週火曜日	
	高下通いの場	高下公会堂	毎週水曜日	
	飯岡地区通いの場	晴れの国岡山農業協同組合 飯岡支店跡地	毎週金曜日	
	さつき通いの場	久木コミュニティハウス	毎週金曜日	
	南和気通いの場	南和気コミュニティハウス	毎週木曜日	
	北和気健康の集い	北和気コミュニティハウス 羽仁公会堂	毎月第2・4月曜日 毎月第1・3火曜日	
	スポレク柵原	柵原総合支所	毎週水曜日	
中央	錦織通いの場	錦織ふれあい館	毎週月曜日 毎月第4木曜日	
	打穴上通いの場	打穴上集会所	毎週火曜日	
	打穴通いの場	打穴西公会堂 普光寺	毎月第1金曜日 (ワンデイカフェ) 第2・4火曜日 (コロバン体操) 毎月第3火曜日 (写経)	
	打穴北通いの場	大谷コミュニティ 定国公会堂 秋政公会堂	毎週水曜日	
	大併和通いの場	大併和老人憩いの家/ 大併和ふれあいプラザ	毎週金曜日	
旭	虬通いの場	虬コミュニティハウス	毎週水曜日	
	栃原通いの場	揚名会館	毎週水・土曜日	
	上口通いの場	上口公民館	毎週月曜日	
	西川健やかクラブ	西川コミュニティセンター	毎週月曜日	
	みなみ通いの場	南公民館	毎週土曜日	
	併和元気ハツラツ 通いの場協議会	併和コミュニティセンター	毎週水曜日	
西併和通いの場	西併和公民館	毎週火曜日	令和2年度か	

				ら開催なし
	江与味にこここ会	江与味コミュニティセンター／友楽館	毎週月・金曜日	
	6時だよ全員集合	滝の畝公民館	毎週土曜日	

(3) ふれあいサロンの立ち上げ支援・運営支援  
地域福祉事業(P. 19参照)

### 3. ネットワークの構築(1層、2層協議体)

#### (1) 1層(美咲町全体)協議体でのネットワークの構築(行政実施主体)

1層協議体の立ち上げに参画しました。美咲町生活支援サービス検討会(2層協議体)との合同研修会として、1層生活支援コーディネーターと協働して企画・実施しました。1層・2層の生活支援コーディネーターが連携を図る定例会にて、日頃の情報共有とあわせて協議体開催に向けて打ち合わせを行いました。

#### (2) 美咲町生活支援サービス検討会(2層協議体)の開催

令和4年度には3地域合同で、美咲町における生活支援体制整備事業や総社市の実践事例などを説明・紹介し美咲町の移動・買い物に関する課題の共有や、あると良い仕組みについて考える場を設けました。また令和5年度には今後の活動の参考として、先進的に住民主体の移動支援や買い物支援などに取り組まれている新見市への視察や、町内で取り組まれている福祉活動について知ってもらえる機会として小地域福祉活動報告会へ参加しました。

今年度は、令和4年度・令和5年度の協議体のテーマとして取りあげた移動・買い物についての流れを踏まえて、町主体の1層協議体の立ち上げにあわせて研修会を企画しました。以前から参加していただいた生活支援サービス検討会(2層協議体)のメンバーと、新たに配食サービス事業者として登録された方にも集まってもらい、移動や買い物をテーマに実際の生活支援につながる活動に向けて取り組むために生活支援体制整備事業や協議体についての共通認識を図る場として研修会を実施しました。

開催日時	令和8年1月27日(火)13:30~15:30
開催場所	生涯学習センター 多目的スペース
参加人数	51人(地域住民36人・社協役場職員15人)
内 容	①生活支援体制整備事業について ②美咲町における生活支援サービス検討会の歩み ③グループワーク「今後の美咲町における生活支援サービスについての意見交換」 1. 「あったら良い取り組み」についての意見交換 2. 「これだったらできるかも？」という取り組みを具体的に考えてみよう ⑤まとめ

#### 【成果】

- ・1層協議体の開催の働きかけを行い、1層・2層合同研修会として開催することが出来ました。
- ・旧町単位で分かれて行ったグループワークでは、地域住民のみで検討する地域ケア会議と違い

タクシー会社、商店、金融機関、配食サービス事業者など、地域住民と関わる幅広い機関・団体にさまざまな視点から意見をいただきました。移動と商店での買い物がコラボできる形や、既存施設の活性化や利用が住民と企業等が協働してできないか、など協議体ならではの意見をいただきました。

**【課題】**

・美咲町内では通いの場やサポートふ・く・し、配食ボランティア事業や黄福タクシーなど、様々な生活支援の社会資源があります。しかし、地域によって社会資源にばらつきや今後の継続が難しい活動があります。

・協議体の立ち上げと研修会を実施することができ、グループワークやアンケートを通してさまざまな意見をいただきましたが、実際に地域住民・企業等と連携してどの取り組みが実現出来るかを検討していく必要があります。

**【次年度に向けて】**

・令和7年度には1層・2層協議体、そして2層協議体も旧町3地区の合同研修として開催したため、次年度は各旧町地区の社会資源を活かし、地域課題に沿った取り組みを行うことが出来るよう2層協議体の具体的活動について検討します。

**4. サポートふ・く・しについて**

美咲町社協が、少子高齢化や核家族化・単身化が問題視される中、見守り・ちょっとしたお手伝いや相談を地域に関わるすべての人・団体の力を借り、またそれらの力を活かし、すべての地域住民が、お互いの支えあいのもと、安心して暮らせる地域づくりに努めました。

**(1)生活支援サポーター数（令和8年3月31日現在）**

登録者数	中央 141名	柵原 100名	旭 102名	計343名
------	---------	---------	--------	-------

※今年度は生活支援サポーター意見交換会を機に生活支援サポーターの見直しを行いました。

**(2)活動回数**

①契約訪問について

買い物付き添い〈1件3回〉・生活支援(ごみ捨て・草取りなど)〈7件177回〉※180回

②サポートふくしのコーディネートについて

サポーターと利用者がうまく支援が展開できるように、必要に応じて、生活支援サポーター、本人や家族、ケアマネジャー等とともに地域支援会議や個別会議などを行いました。また、新規・継続ともに生活支援サポーターが円滑に活動できるよう相談支援を行いました。

**(3)生活支援サポーター会合の推進**

地域で活動する生活支援サポーター同士が情報交換を行い、円滑に活動が行えるようにサポーター会合の推進に努めました。

打穴西地区	原田地区
-------	------

開催回数 参加延人数 内 容	4回(うち職員参加は1回) 60人 地区の活動状況について 気になる方の見守り情報交換	開催回数 参加延人数 内 容	3回 17人 各地区の気になる方の見守り 情報交換
----------------------	--	----------------------	------------------------------------

#### (4)生活支援サポーター養成講座及びフォローアップ講座の開催

近年、“生活支援サポーター養成講座を小地域単位で実施してほしい”という声が多く挙がっていたため、自治会・旧小学校区を単位として、令和7年度は1地区で開催しました。2日間で総勢30名の方に参加していただき、この度、新しく22名の生活支援サポーターが誕生しました。

開催日時 場 所	令和8年1月24日(土)13:30～16:30 旧飯岡JA	令和8年2月14日(土)10:00～12:30 旧飯岡JA
対 象	飯岡地区	飯岡地区
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「生活支援サポーターとは?～生活支援サポーターの活動を覗いてみよう!～」 美咲町社会福祉協議会</li> <li>* 認知症について NPO法人おかやま地域福祉研究所 COM 理事長 小坂田稔 氏</li> <li>美咲町地域包括支援センター職員 美咲町役場 保険年金課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 傾聴について 美作大学社会福祉学科 堀川涼子 氏</li> <li>* 「障がいの理解」 美咲町社会福祉法人等連絡協議会 あったかこころネットみさき</li> <li>* 生活支援サポーター登録式</li> </ul>

#### 【飯岡地区】

まち協単位での手上げ方式で行っているため、開催地区に即した内容にすることができました。今年度は、美咲町役場保険年金課や地域包括支援センターと連携し、寸劇を交えた認知症に関する講座や、傾聴講座、美咲町社会福祉法人等連絡協議会 “あったかこころネットみさき”より各施設職員と協働して障がいの理解に関する講座と車いす体験講座を行いました。

#### 【生活支援サポーター意見交換会】

##### ①加美地区生活支援サポーター意見交換会

加美地区住民アンケートから福祉部お助け隊が立ち上がり、見守り活動推進のため、令和6年11月17日加美地区全体で新たに生活支援サポーターを養成しました。講座より以前から登録されていたサポーターさんとも連携・協働し今後の活動を考えていくために全体意見交換会を開催しました。

開催日時	令和7年4月20日(日)10:00～12:00
開催場所	生涯学習センター 多目的スペース
参加人数	38人(生活支援サポーター30人・民生委員1人・NPO法人みんなの集落研究所1人・役場2人・社協4人)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①開催の経緯について</li> <li>②小規模多機能自治について</li> </ul>

	③生活支援サポーターの役割と活動事例について ④グループワーク「私たちが生活支援サポーターとしてできること」 ⑤その他 1. 役員の選出について 2. 今後の活動の方向性
--	---

## ②旧町地域単位での意見交換会

約8年ぶりとなる生活支援サポーター意見交換会を旧町3地域の各会場で開催しました。

実施日	地区・場所	参加者数	内容
令和7年 12月17日(水)	中央地区 生涯学習センター多目的スペース	26名	(1)生活支援サポーターの役割と活動事例について (2)グループワーク
令和7年 12月24日(水)	旭地区 あさひなた 中会議室	21名	①自己紹介 ②生活支援サポーターになって「意識したこと」や「活動したこと」
令和7年 12月25日(木)	柵原地区 柵原総合文化センター	16名	③生活支援サポーターとしてやってみたいこと・できること

## 【成果】

- ・サポートふ・く・しの契約訪問件数が令和7年度より増加しています。ケアマネジャーから担当する利用者が介護保険サービスでは対応できないちょっとした困りごとについて相談のあるケースもあり、生活支援サポーターと協働して困りごとを抱えた方の支援を行っています。
- ・買い物の付き添いや生活支援(ごみ捨てなど)に関する困りごとの相談を受け、生活支援サポーターとのマッチングを行うことで、支えあいの推進を行うことができました。
- ・毎月の活動報告を元に、ポイント制度の運営を行うことで、サポーターの活動を把握し、フォローアップを行うことができました。
- ・サポーター会合へ継続的に参加することで、サポーターが活動のフォローアップを行うことができました。また、困りごとの相談受付・コーディネートを、関係機関・生活支援サポーターと連携して行いました。
- ・生活支援サポーター養成講座では、傾聴や障がいの理解などの地域全体の生活課題を考えていくための内容を企画・開催し、スキルアップ講座としても周知・募集を行いました。その結果、新たに22名の生活支援サポーターが誕生しました。また、美咲町社会福祉法人等連絡協議会あったかこころネットみさきと連携して障がいに関する講座を行うことが出来ました。
- ・生活支援サポーター意見交換会では、以前からの登録者の「生活支援サポーターになったけど、何をしたらいいの?」「同じ地区で生活支援サポーターの方はいるのか?」「他の方はどのような活動をしているのか?」「知識を増やしたい!」などという声から、生活支援サポーターとして意識していることや実際におこなった活動、これからやってみたいことなど想いを語りあう場を作ることが出来ました。90代の参加者もいましたが、「年齢的にも引退しようかと思っていたが、隣の家のことを気にかけるだけでもいいんだと思うことが出来た」とサポーターを継続する意思を示してくださいました。参加された方同士で活動の再確認が出来ました。

## 【課題】

- ・生活支援サポーターの養成はまち協単位での手上げ方式で行っていましたが、開催した地区数が増えたことにより、地区からの申し込みが減少しています。また、在住地区で受講できなかった方が他の機会を受講したいと申し出がある方もいます。
- ・生活支援サポーターとして、養成後にサポーターが活躍できる場を増やしていく必要があります。
- ・生活支援サポーターの意見交換会を開催しましたが、事後アンケートにも「参加者が少なくて残念だった」という声もありました。登録者の高齢化や年末の平日開催だったこともあり、開催日時については検討が必要です。
- ・活動の啓発を行うために、意見交換会やサポーター会合の推進、フォローアップ講座の実施や配食ボランティア・小地域ケア会議への参加の呼びかけを行っていく必要があります。
- ・今後も活動の状況に合わせその都度見直しを行っていく必要があります。

#### 【次年度に向けて】

- ・引き続き、生活支援サポーター養成講座・スキルアップ講座に取り組み、地域住民主体の見守りや支えあい活動の支援を行います。
- ・次年度より地区ごとの手上げ方式でなく全町や旧町単位対象で行い、生活支援サポーターに登録したいという声に対応できるよう開催方法を検討します。
- ・サポーター会合や小地域ケア会議などの場や個別に相談や悩みごとの聞き取りなどを行い、生活支援サポーターの活動支援に努めます。
- ・すでに取り組みされている支援活動やサービスの改善や拡充を図るとともに、新たな支援活動やサービスの創出に取り組みます。

#### (5) 生活支援に係る研修会への参加

生活支援コーディネーターの資質向上や情報交換等のため、研修会への参加や講座を受講しました。また、

開催日時	第1回目 令和7年6月6日(金) 13:30～16:30 第2回目 令和7年7月18日(金) 13:30～16:30
開催場所	きらめきプラザ 401会議室(岡山市北区南方2丁目13-1)
対象	生活支援コーディネーター、その他関係者(地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員等(生活支援コーディネーター2名参加))
内容	『令和7年度 岡山県生活支援コーディネーター研修』 テーマ:「あなたの活動をもっと効果的に！通いの場の支援から考える PDCA サイクル」 講師:東京都健康長寿医療センター 研究所 倉岡 正高氏 ねらい:生活支援コーディネーターが地域づくりを計画的に進めるとともに、その取組を住民及び関係者に効率的に伝えられるよう、通いの場の支援を例に、PDCAサイクルによる活動計画の立て方等を実践的に学ぶ。 【第1回アセスメント・計画編、第2回 実施・評価編】

開催日時	9月22日(月) 8:10～16:50
場所	岡山市方面
参加者	民児協 旭支部視察研修

内 容	○石井十次記念館・新天地育児院 岡山孤児院を創設した「児童福祉の父」ゆかりの施設見学 ○岡山刑務所 刑務所の現状、社会的役割を理解し、犯罪者や非行少年の処遇について学ぶ。受刑者が出所した後の生活再建支援について理解を深める。
-----	---

開 催 日	令和7年12月9日(火)	令和7年12月10日(水)
場 所	文部科学省 東館3階 第一講堂(東京都千代田区霞が関3丁目2-2)	駄菓子屋「猫もん」 (東京都狛江市猪方4-10-2)
参加者	地域福祉課職員1名、地域包括支援センター職員1名	地域福祉課職員1名、地域包括支援センター職員1名
内 容	令和7年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰式及び事例発表会への参加	狛江市シルバー人材センターが認知症高齢者等に就業場所を提供するために運営する駄菓子屋の視察、シルバー人材センターの事業内容聴取と見学

開 催 日 時	令和8年1月28日(水) 13:30～16:30
開 催 場 所	きらめきプラザ 401会議室(岡山市北区南方2丁目13-1)
内 容	『福祉移送ネットワーク講座』 【第1部】 行政説明・基調講演 ①「介護予防・日常生活支援総合事業の多様なサービス・活動における移動支援について」 岡山県子ども・福祉部長寿社会課 総括参事 福寄 康明 氏 ②「許可・登録を要しない運送のガイドラインについて」 国土交通省中国運輸局岡山運輸支局 運輸企画専門官 剣持 成明 氏 ③「各地の実践から見えてくる移動支援の課題について」 NPO法人全国移動サービスネットワーク事務局長 伊藤 みどり 氏 【第2部】 活動発表及びパネルディスカッション 「住民のニーズに応じた移動支援」 パネリスト ・NPO法人陣屋 山本 安恵 氏 ・NPO法人岡山県視覚障害者自立支援センター 奥村 俊通 氏 ・NPO法人ハーモニーネット未来 宇野 均恵 氏 ・移動支援ふくたに(総社版ライドシェア) 上野 覚 氏 コーディネーター ・NPO法人全国移動サービスネットワーク副理事長 兼 NPO法人移動ネットおかやま理事長 横山 和廣 氏 アドバイザー ・NPO法人全国移動サービスネットワーク事務局長 伊藤 みどり 氏

### (3) 権利擁護事業・生活困窮者自立支援事業

本人の意志を尊重した支援の提供が行えるよう、意識した支援に努めました。また、複雑化・多様化しているニーズに応えていくために他の事業や機関と柔軟に連携し支援に努めました。

従来の地域福祉事業に加え、美咲町地域包括支援センター事業、重層的体制整備事業との連携のなかで、あらゆる世代への総合相談に努めました。特に、障がいや病気のみならず、就労できない、他人との交流が苦手など生きづらさを抱えた世帯への支援を福祉、司法関係の機関や地域との連携のなかで検討することができるように努めました。

#### 1. 美咲町権利擁護センター事業への参画(行政直営)

##### (1) 運営委員会への参画

区分	第1回	第2回	第3回
日時	5月20日(火) 13:30～15:00	9月16日(火) 1:30～15:00	3月17日(火) 13:30～15:00
議案	議案第1号 美咲町権利擁護センター 支援検討委員の指名につ いて  議案第2号 令和6年度美咲町権利擁護 センター事業報告について  議案第3号 令和6年度美咲町権利擁護 センター決算報告について	議案第1号 権利擁護・成年後見制度の 利用促進・啓発について ※市民後見人の養成 ※市民後見人活動のフォロ ーアップ ※成年後見制度申し立てに 対する支援	議案第1号 令和8年度美咲町権利擁護 センター事業計画について  議案第2号 令和8年度美咲町権利擁護 センター事業予算について

##### (2) 支援検討委員会への参画

区 分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日 時	5月20日 (火) 15:00～ 16:30	7月15日 (火) 13:30～ 15:00	9月16日 (火) 15:00～ 16:30	11月11日 (火) 13:30～ 15:00	1月20日 (火) 13:30～ 15:00	3月17日 (火) 15:00～ 16:30
検討ケース (内後見制度 に関するケー ス)	1件	2件 (内1件)	3件 (内1件)	3件 (内1件)	4件 (内1件)	これまでの ケースの振 り返り

##### (3) 『けんりようご意見交換会～まあるくなあれ～』のへ参画及び市民後見人お話し会への参加

市民後見人への活動支援を目的に、情報共有・相談ができる場への参画を行いました。意見交換会開催後には、市民後見人同士での情報や課題の共有を行う場が設けられており、参加しました。

##### 【けんりようご意見交換会～まあるくなあれ～への参画】

第1回	第2回	第3回(欠席)	第4回
8月18日(月) 13:30～15:00	10月14日(火) 13:30～15:00	12月16日(火) 13:30～15:00	2月17日(火) 13:30～15:30
①権利擁護センターの今後の取り組みについて ②重層支援センターについて	①消費者トラブルについて	①相談援助技術と傾聴について 講師:美作大学 准教授 田中 涼 氏	①事例の共有 事例提供:市民後見人 柴田 俊一 氏

### 【成果】

- ・昨年ひきつづき運営委員会や支援検討委員会についての協議を引き続き行う事ができました。
- ・運営委員会や支援検討委員会でも、内容を引き継ぐことによって、課題やケースを引き続き検討を行う事ができ、ケースについて途切れることなく専門職からのアドバイスを受けることができています。

### 【課題】

- ・生活課題の多様化・複雑化が進んできており、権利擁護支援の重要性は高まっています。その中で、権利擁護センターの役割も重要なものとなってきており、今後も連携を図りながら美咲町の権利擁護の推進に取り組んでいく必要があります。
- ・権利擁護センターをはじめ専門職と連携しながら支援を行っていくためにも、困難なケースについて支援検討委員会にてケースを検討し専門職のアドバイスをいただきながら支援に取り組んでいく必要があります。
- ・高齢化や核家族化が進む中、権利擁護支援を必要としている方も単身世帯が増加しています。これまでは親や兄弟がサポートをすることで潜在化していたその方の課題が単身となることで顕在化します。さらに顕在化したときには本人や周りの親族も高齢となっていることで課題が重度化していることがあります。課題が重度化する前に、権利擁護支援につなげることができるよう予防的権利擁護の取り組みを進めていく必要があります。さらに、重度化してしまっている課題に対して、権利擁護センターと連携を図りつつ、支援検討委員会にてアドバイスを頂きながら支援を行うことで、適正な支援の質を担保していくことが重要です。
- ・他機関と連携しながら支援を行っていく中で、意思決定支援が十分浸透しているとはいえない場面があります。美咲町内で意思決定支援の徹底をしていくためには、支援者に対して継続的に意思決定支援の啓発を行っていく必要があります。

### 【次年度に向けて】

- ・引き続き美咲町権利擁護センターと重層支援センター等と連携し、権利擁護の推進に努めます。
- ・地域福祉課が支援を行っている支援が困難なケースについて、積極的に支援検討委員会にて検討していただき、専門職からのアドバイスをいただくとともに、連携を図りながら支援することができるよう努めます。
- ・権利擁護センターの運営委員会や支援検討委員会・“けんりようご意見交換会”に参画することで意思決定支援の啓発や予防的権利擁護の取り組みを推進していく必要があります。

## 2. 権利擁護・成年後見制度の啓発・利用促進

権権利擁護制度の周知を目的として、社協だよりへの掲載、ふれあいサロンや小地域ケア会議などへ出向いて広報活動を行いました。

### (1) 社協だより・ホームページを活用しての啓発

社協だよりを活用し、ふくしの相談会やあったか心バンクなどの事業についての記事を掲載しました。

#### 【社協だより掲載実績】

月	内 容	掲載ページ
5月号	ふくしの相談会inかがみの	2ページ
7月号	あったか心バンク(みんなで食堂野菜の募集)	表紙
12月号	ふくしの相談会inつやま	裏表紙

#### 【成果】

・社協だよりを活用し、あったか心バンクや福祉の相談会の周知を行い、事業や取り組みについて理解を広げることができました。

#### 【課題】

- ・情報の発信に努めていますが、まだまだ情報を必要としている人に十分情報が届いているとはいえません。
- ・支援を必要としている人の意思が尊重される支援を徹底していくためには、権利擁護についての情報や制度についての情報発信と合わせて、意思決定支援についての啓発を行っていく必要があります。

#### 【次年度に向けて】

- ・引き続き社協だよりの活用を行うほか、Facebookやインスタグラムを活用して権利擁護についての制度や情報の発信に努めます。
- ・小地域ケア会議などで権利擁護についての啓発を行えるよう、短時間で権利擁護についての啓発を行える内容の検討を行います。
- ・支援を必要としている方へ必要な情報を届けることができるよう、アウトリーチに努めます。
- ・意思決定支援についての啓発に努めます。

## 3. 意思決定支援の適切な実施と地域住民と専門職との一体的な支援

本人の想いに寄り添い、意思に沿った支援が行えるよう関係機関と連携を図り支援を行いました。

#### 【支援実績】

分 類	電話 相談	連絡 調整	来所 相談	訪問	他機関 同行	支援 会議	同行 支援	日援 支援日	法人後 見財産 保全支 援日	みんな で食 堂 ぷらっ と その他
認知症など	241	243	10	84	1	8	13	83	21	16

高齢者										
知的障がい者など	341	69	68	33	1	11	6	49	22	31
精神障がい者など	48	40	8	18	1	4	1	44	1	12
その他・不明	46	41	21	37	0	9	3	0	1	21
合計	676	393	107	172	3	32	23	176	45	80

総計 1,707件

#### 4. 日常生活自立支援事業の促進

福祉サービスに関する情報提供、助言、手続きの援助、日常的金銭管理、書類などの預かりサービスを行い、自立した日常生活が送れるよう支援をしました。事業実施にあたり成年後見制度への移行や福祉サービス利用内容の変更などに対応するため、他機関との連携と生活支援員への報告・連絡体制の充実に努めました。

##### (1) 利用状況

(単位:人)

区分	認知症など 高齢者	知的 障がい者など	精神 障がい者など	合計	内生活保護受給者
昨年度末時点 契約者数	4	3	3	10	2
令和7年度 新規契約者	3	2		5	1
※解約	2			2	
合計利用者	5	5	3	13	3

生活支援員 登録者数 2人

##### (2) 県社協監査の実施

事業の適正な運営を行うため、岡山県運営適正化委員会より実施状況調査を受け、記録や預かり物件の管理などについてチェックを受け、指導を頂きました。

日時	場所	内容
令和7年12月1日 (月)	地域福祉センター ボランティア室	①支援ケースの対応状況について ②金銭管理、書類など預かりサービスについて ③その他

##### 【成果】

- ・適正な預かりサービスと日常的な金銭管理を行う事で、利用者が安心して日常生活を送ることができています。
- ・本人の意思を尊重し、日常的な金銭管理を行うことで、利用者が自分の収入に見合った金銭感

覚を身に着け、安定した生活を送ることができるようになったり、安定して医療サービスを受けることができています。

- ・本人の想いに寄り添い必要な支援に対して丁寧に説明を行い、関係者と適正な連携を図ることで、令和7年度では新たに5名の方が事業の利用につながっています。
- ・生活支援員の確保に努め、声掛けを行うことで1名の方が生活支援員として活動を始めてくださり、2名の方に説明を行い、活動を前向きに検討してくださっています。
- ・ケアハウスに入所していたが、体調を崩して亡くなってしまった方の死後の対応について、事前に施設や親族、関係者と連携を図ることで、推定相続人の同意を得ることでお預かりしていた通帳や印鑑といった財産をスムーズに返還することができました。
- ・病気療養で長期入院のため契約解除となった方について、地域住民や支援者と連携を図り、会議を重ねることで直前まで本人の希望であった在宅での生活を送ることができ、日頃から親族と連絡をとり状況を共有していたことで入院となった際にスムーズに預かり物品の返還とその後の金銭管理を引き受けていただくことができました。

### 【課題】

- ・日援のニーズは年々増加しており、各ケースの課題も複雑化・複合化してきており、ケースと向き合う時間の確保が必要です。
- ・増加しているケースの中には、本人の特性や想いが強く支援が困難な方も増えてきており、本人の想いを丁寧に聴き、実現できるように支援していくことが必要です。そしてそれを一職員の努力だけではなく、体制として実現させていくためには、現在の記録や計画だけでフォローを行うには不十分です。
- ・現在生活支援員が2名と少なく、反対に利用者は増加してきており、生活支援員の確保を早急に行う必要があります。
- ・現在日援を利用されている方も高齢の方が多く、何かあったときの対応についてあらかじめ親族や関係者と連携を図っておく必要があります。
- ・監査の際に指摘されている預かり物品の記録整備や、本人に何かあった時に預かり物品の受取人を指定しておく「返還合意書」など、書類上でまだまだ整備できていない部分があります。また、そういった書類の取扱いについて、明確に定められていないため、協議の上明確なルール付けを行っていく必要があります。

### 【次年度に向けて】

- ・社協だよりでの募集や声掛けなど、生活支援員の確保に向けた取り組みを行います。
- ・事務処理を適正かつスムーズに行うための美咲町社協独自の事務処理マニュアルの作成を行います。
- ・親族と連携し本人の支援を行っていくための返還合意者の同意をとります。また、返還合意書を作成できていない方について、理由の説明が行えるように記録の整備を行っていきます。

## 5. 法人後見事業(5件)

支援検討委員会において、美咲町社協の受任がふさわしいケースと認められ、家庭裁判所から審判を受けたケースについて、美咲町社協にて本人の意思に沿った生活を送れるように支援を行っています。

### (1) 法人後見受任状況

区分	後見	補佐	補助	合計	備考
昨年度末時点 受任件数	3		2	5	
令和7年度新規 受任件数					
終了					
合計利用者	3		2	5	

※うち、市民後見人との複数後見 2件

### (2) 法人後見運営委員会の開催

法人後見業務の実施にあたり、成年被後見人の権利を擁護するとともに業務の公正性及び専門性を確保するために法人後見運営委員会を立ち上げました。

区分	第1回
日時	3月17日(火)16:30~18:00
場所	生涯学習センター ボランティア室
議案	第1号議案 美咲町社会福祉協議会法人後見運営委員会委員長及び副委員長の互選について  (その他) 美咲町社会福祉協議会 法人後見事業の運営状況について

#### 【成果】

- ・法人後見業務では、本人の気持ちに寄り添い、安心して生活が送れるよう支援しました。
- ・後見人を受任している70代男性の債務について、時効援用の申立を行うことで、3件あった内の2件の債務について時効援用を行うことが出来ました。
- ・法人後見運営委員会を立ち上げたことで、法人後見の運営について委員の方からも意見や助言をいただき、公正な事業運営を行える体制の整備を行うことが出来ました。

#### 【課題】

- ・緊急時や死後の事務について、推定相続人となる親族と連絡がとれていない被後見人や被補助人がいるため、連絡をとり書面で残していく必要があります。
- ・受任している方の支援について、本人の想いや支援の方針などを示したものが無く、前任からの引継ぎが口頭や支援記録しかなく、担当者が変わると支援の方針が変わってしまい、支援体制が整っていません。

#### 【次年度に向けて】

- ・被後見人や被補助人の推定相続人との連携に努め、緊急時や死後事務が必要になった際に本人の想いが尊重した支援ができる体制づくりを行います。
- ・本人の想いや状況をアセスメントし、支援の方針を示した「支援計画」の作成を行っていきます。

## 6. 金銭管理・財産保全サービス(1件)

判断能力に関わらず、金銭管理及び書類などの保管を適切に行うことが困難であると認められるものと契約し、当事者が自ら行えるように支援を行いました。

### (1) サービス利用状況

利用件数(3月末時点)
1件

### (2) 利用者内訳

利用者区分	年代	利用サービス	備考
認知症など高齢者	80代	書類など預かりサービス	令和7年度新規契約

## 7. ふくしの相談会の実施

県北の権利擁護のネットワークの連携を強化することを目的に、津山市・鏡野町・久米南町と美咲町の4つの社会福祉協議会が共同で開催し、より身近な専門職による相談の機会の提供とワンストップの相談支援に努めました。相談内容は、相続や借金に関わることや、親の介護、障がいについてなどさまざまな相談が寄せられました。今後も継続して取り組み、福祉のニーズの掘り起こしに努めていきます。

### 【ふくしの相談会開催状況】

区分	ふくしの相談会 inかがみの(第30回)	ふくしの相談会 inみさき(第31回)	ふくしの相談会 inつやま(第32回)
日時	6月17日(火) 13:30~15:30	10月15日(水) 13:30~15:30	1月14日(水) 13:30~15:30
会場	鏡野町 中央公民館大集会室	生涯学習センター	津山市総合福祉会館 4階大会議室
相談件数	8件 (内美咲町分 0件)	6件 (内美咲町分 6件)	12件 (内美咲町分 2件)
相談員などスタッフ	15名	9名	17名

### 【成果】

- ・近隣社協と連携し、相談会の開催を行うことで権利擁護のネットワークを強化することができました。
- ・各市町村で相談会を行うことで福祉に関する相談窓口の充実を図ることができました。
- ・小地域ケア会議や、個別支援を行っている方に周知や案内を行うことで、相談につなげることが出来ました。また、当日参加している職員が事前にある程度相談内容を把握していたり、本人と話をしていることで、相談者も安心して相談することが出来ました。

### 【課題】

- ・昨年に比べ、美咲町内で相談に来られる方が増えてきていますが、まだまだ情報を必要としている方に充分情報が届いているとは言えません。ふくしの相談会は無料で弁護士や司法書士に相談面できる貴重な機会ですが、社協だよりや告知放送だけではその部分が伝わりきっていません。困りごとを抱えている方にしっかりと情報を届けるために、アウトリーチと合わせて情報をお届けできるよう工夫していく必要があります。

## 【次年度に向けて】

・社協だよりなどを通じて広報を行うことと合わせ、小地域ケア会議やふれあいサロンなどを通じて地域へ向けて周知を行っていきます。また、あらたな啓発方法の検討も行っていきます。

## 8. 生活困窮者など支援事業の実施状況

生活に困窮している方やひきこもり状態の方、コロナ禍で失業・減収してしまった方などに対して、本人に寄り添いながら課題を整理し、フォーマル・インフォーマルの支援ネットワークを構築して自立促進を図るように努めました。また、就職につながった後のアフターフォローや一時的な食料支援、リサイクル家電の提供など、幅広い生活ニーズに対応できるように取り組みました。

### (1) ぷらっとほーむみさき事業

ひきこもりや障がいなど、さまざまな要因で社会とのつながりが薄れ、生きづらさを抱えた人が社会に順応していくためには、まずは自分のペースで家の外に出ることから始める必要があります。

本人の「やってみたい」「行ってみたい」という気持ちを大事にし、社協事業への参加の促しを中心に取り組みました。

さらに自立した生活を送るためには、生活環境を整える必要もあり、地域住民の協力を得て、対象者宅の清掃など住環境の整備も行いました。

### 【実施状況】

種類	日時 (場所)	内容	参加人数
居場所支援	4月8日(火) (生涯学習センター)	面談 今年度自分が取り組んでみたいことや、興味があることについて、一緒に考えていこうと話をしました。	20代男性 1名 社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
	6月5日(木) (津山市内)	カラオケ カラオケに行きたいという思いがあっても、なかなか外に出られない方と一緒にカラオケに行きました。	70代女性 1名 40代女性 1名 社協職員 1名  <u>計 3名</u>
	6月12日(木) (生涯学習センター)	カレー作り 自分でカレーを作ったことがない方たちと一緒にカレーを作りながら交流しました。	40代男性 2名 50代男性 1名 80代男性 1名 社協職員 3名  <u>計 8名</u>
	6月16日(月) (生涯学習センター)	面談 自分に何ができるのか、どういうことが向いているのか知るために、いろいろなことに挑戦したいと言われ、次回から高卒認定試験の過去問に挑戦することになりました。	20代男性 1名 社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
	7月29日(火)	面談	20代男性 1名

(生涯学習センター)	高卒認定試験の過去問を一緒に見ながら、1教科ずつ挑戦していくように話をしました。	社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
8月21日(木) (生涯学習センター)	たこ焼きパーティー たこ焼きを自分で作ったことがないと言われる方と、たこ焼きパーティーを通してみんなで交流しました。	50代男性 1名 60代男性 1名(重層ケース) 80代男性 2名 80代女性 1名(重層ケース) 社協職員 3名 実習生 1名  <u>計 9名</u>
9月11日(木) (生涯学習センター)	面談 前回に持って帰っていた高卒認定試験の過去問の採点を一緒にしながら、次に挑戦する問題について話をしました。	20代男性 1名 社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
9月30日(火) (生涯学習センター)	ハンバーグ・シチューづくり 参加者が好きだと言われたハンバーグとシチューをみんなで作って食べ、交流しました。	50代男性 2名(内1名重層ケース) 60代男性 1名(重層ケース) 80代男性 1名 80代女性 1名(重層ケース) 社協職員 3名  <u>計 8名</u>
11月5日(水) (生涯学習センター)	面談 前回もって帰った問題(数学)は、苦手だったのか解けずに持参されなかったため、今回は他の問題に挑戦してみようと、国語の問題を用意し、次回に解いてもって来るように約束しました。	20代男性 1名 社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
1月8日(木) (最上稲荷)	初詣 子どもの頃に親といった以来、初詣に行っていないと言われる方たちと一緒に初詣に行きました。	40代男性 1名 50代男性 2名 60代男性 1名(重層ケース) 社協職員 2名  <u>計 6名</u>
1月21日(水) (生涯学習センター)	カレー・焼きそばづくり 参加者の方の好物を作りながら交流を図りました。	40代男性 2名(内1名重層ケース) 社協職員 2名  <u>計 4名</u>
1月27日(火) (生涯学習センター)	面談 前回もって帰った国語の採点を行うのと合わせ、最近の生活の様子について話をしました。	20代男性 1名 社協職員 1名 行政職員 1名  <u>計 3名</u>
3月18日(水) (生涯学習センター)	たこ焼きパーティー 就職に向け頑張っている方を元気づけるため、みんなでたこ焼きパーティーをしました。	40代男性 3名(内2名重層ケース) 50代男性 1名 社協職員 3名  <u>計 7名</u>

参加支援	5月11日(日) (福祉の里あさひが丘)	みんなで食堂 あさひが丘デイサービスのリニューアルと合わせてみんなで食堂を開催し、そこに参加することで普段交流する機会の方にとの交流を図りました。	20代男性 1名 40代男性 1名 50代女性 1名 50代男性 3名  <u>計 6名</u>
	5月15日(木) (さくらの実)	本人の主張大会 大会に誘うことで、社会参加を促しました。また、今年はぷらっとの参加者が発表者として、自分の夢について発表しました。	40代男性 1名 40代女性 1名  <u>計 2名</u>
	7月19日(日) (生涯学習センター)	みんなで食堂 みんなで食を通じて交流できるよう、参加を促しました。また、夏祭りをテーマに開催し、かき氷やクジ引きなどをぷらっとの対象者にも手伝ってもらいながら取り組みました。くじ引きの箱を持つ係や配膳を行う等の役割をもって参加してもらうことができました。	20代男性 1名 40代女性 1名 40代男性 1名 50代男性 4名(内1名重層ケース) 50代女性 1名 60代男性 1名(重層ケース) 70代女性 1名  <u>計 10名</u>
	8月2日(土) (柵原総合文化センター)	みんなで食堂 前回と同じく役割をもって参加してもらうため、配膳やクジ引き等の係をうけもってもらいました。自宅の畑で育てたスイカやカボチャなどを寄付してくれた方は、参加者から「とてもおいしい」と感想を言われ、嬉しそうな笑顔になっていました。	20代男性 1名 40代男性 1名 50代女性 1名 50代男性 4名(内1名重層ケース) 60代男性 2名(内1名重層ケース) 80代女性 1名(重層ケース)  <u>計 10名</u>
	11月8日(土) (あさひなた)	みんなで食堂 みんなが役割をもって参加し、食を通じて交流を行いました。 今回は食事以外にも、レクリエーションを行うことで、子どもと一緒に楽しんで過ごすことができました。	30代男性 1名(重層ケース) 40代男性 1名 50代男性 5名(内1名重層ケース) 50代女性 1名 60代男性 1名(重層ケース) 80代男性 1名 80代女性 1名(重層ケース)  <u>計 11名</u>
	12月14日 (日) (南和気荘)	みしゃモンカレッジ 他のカレッジ生と一緒にタフティング体験を行い、楽しみました。	30代男性 1名(重層ケース) 40代女性 2名(重層ケース) 50代男性 3名 60代男性 1名(重層ケース)  <u>計 7名</u>
	2月7日(土) (生涯学習センター)	みんなで食堂 みんなで食堂に参加し、交流を行いました。	40代男性 2名(重層ケース) 50代女性 1名 50代男性 3名

			80代女性 1名(重層ケース) 80代男性 1名(重層ケース) <u>計 8名</u>
	2月22日(日) (生涯学習センター)	みしゃモンカレッジ 太鼓の達人リターンズに参加して、オリジナルの太鼓づくりとドラム体験を通じて交流を行いました。	30代男性 1名(重層ケース) 40代男性 3名(内1名重層ケース) 40代女性 1名 50代男性 3名 60代男性 1名(重層ケース) <u>計 8名</u>
	3月8日(日) (生涯学習センター)	みしゃモンカレッジ 文部科学大臣表彰受賞祝賀会に参加してみんなでオードブルを食べました。	40代男性 2名(内1名重層ケース) 50代女性 1名 50代男性 4名 60代男性 1名(重層ケース) <u>計 8名</u>
	3月28日(土) (生涯学習センター)	社協×図書館フェスタ フェスタに参加してもらうことで他の参加者の方と交流したり、“喫茶みしゃモン”のお手伝いをしてもらうことで役割をもって参加することが出来ました。	40代男性 2名(内1名重層ケース) 50代男性 1名 60代男性 1名(重層ケース) 80代男性 1名 80代女性 1名(重層ケース) <u>計 6名</u>
環境整備支援	6月22日(日) (本人宅)	自宅の片づけ 前年度から自宅の片づけに向けて準備を行っていた方の自宅の片づけを行いました。	70代男性 1名(重層ケース) 地域住民 4名 社協職員 6名 行政職員 8名 <u>計 19名</u>
就労準備支援	3月4日(水) (たまご&ファーマーズ)	職場見学 就労に向けて、希望する職場(たまご&ファーマーズ)の見学に同行しました。	40代男性 1名(重層ケース) 社協職員 1名 <u>計 2名</u>
	3月18日(水) (生涯学習センター)	就労準備 生涯学習センターに来所し、就労に向けて面談を行いました。	50代男性 1名(重層ケース) 社協職員 1名 行政職員 1名 <u>計 3名</u>
	3月24日(火) (生涯学習センター)	就労準備 生涯学習センターに来所し、就労に向けて面談を行いました。	50代男性 1名(重層ケース) 社協職員 1名 行政職員 1名 <u>計 3名</u>
	3月26(木) (生涯学習センター)	就労準備 生涯学習センターに来所し、就労に向けて面談を行いました。	50代男性 1名(重層ケース) 社協職員 1名 行政職員 1名 <u>計 3名</u>

実施回数 計28回

## (2) みんなで食堂の実施

美咲町には、自宅でまともなご飯を食べることができない子どもや、生活に余裕がなかったり、生きづらさを抱えたり、社会とのつながりが薄れている方がおられます。

そういった方々が、気軽に参加でき、参加者同士と交流しながら温かいご飯を食べることができる機会となっているのが「みんなで食堂」です。また、参加者一人一人が役割を持ち、みんなで協力して食を通じて交流できる居場所づくりを行える機会となっています。

## 【開催状況】

日 時	場 所	献 立	参加人数
5月11日(日) 11:30~13:00	福祉の里 あさひが丘	・ちらし寿司 ・豚汁 ・甘納豆蒸しパン	大人 101名 子ども 7名 ボランティア 8名 計116名
7月19日(土) 11:00~14:00	生涯学習センター	・そうめん ・おにぎり ・スタミナ炒め ・フランクフルト ・お楽しみデザート(かき氷)	大人 27名 子ども 27名 ボランティア 8名 美大ボランティア 4名 社協職員 5名 計 71名
8月2日(土) 11:00~14:00	柵原総合文化センター	・夏野菜を使った牛すじカレー ・野菜サラダ ・フランクフルト ・お楽しみデザート(かき氷・スイカ)	大人 18名 子ども 14名 ボランティア 7名 社協職員 3名 ヘルパー 2名 計 44名
11月8日(土) 11:00~14:00	あさひなた	・おにぎりバイキング ・ビーフシチュー ・ポテトサラダ ・お楽しみデザート(大学芋)	大人 22名 子ども 10名 ボランティア 8名 社協職員 3名 ヘルパー 1名 計 44名
2月7日(土) 11:00~14:00	生涯学習センター	・ちらし寿司 ・すまし汁 ・唐揚げ ・オリジナルパフェ	大人 24名 子ども 25名 ボランティア 8名 社協職員 4名 ヘルパー 1名 計 62名

開催回数 5回

延べ参加人数 337人

## 【成果】

・イベントや行事などへの参加を積極的に促しました。参加者同士の交流の中で就労に対する意

欲の向上につながっており、話を聞いたことにより就活に取り組み始めた参加者もおられます。自信と意欲の向上を図ることができ、2名の方が就活を始めました。すでに就労されている方についても仕事の合間の楽しみになっています。

- ・参加者に合わせた社会参加を促すことで、生活の中での楽しみになっています。
- ・生活環境を整えることでヘルパーの利用ができるようになったり、自宅を片付けることで自分が持っているものを把握しやすくなったり、不要なものの購入を控えることができるようになった方もいます。
- ・“ぷらっとほーむみさき”や“みんなで食堂”を継続して取り組むことで、これまで社会とのつながりが薄れ、ひきこもり気味だった方が継続して外に出ることが出来るようになっていきます。

### 【課題】

- ・日付の設定が直前になってしまい、案内が間に合わず参加したいが参加できない方がおられ、年間を通してのスケジュールが欲しいと言った方がおられます。余裕をもった日付の設定と案内を行っていく必要があります。
- ・参加支援を行うなかで、活動先の多くが“みんなで食堂”や“みしゃモンカレッジ”等の社協事業となっています。本人の興味があることへの参加や、地域との交流も行っていくことができるよう、参加できる取り組みの幅を広げていくことができるよう取り組んでいく必要があります。そのためには、社協だけでなく、ボランティアや地域との連携が必要となります。

### 【次年度に向けて】

- ・本人が「やってみたい」と思える気持ちを引き出せるよう、本人のペースに合わせた関わりと情報の提供を行っていきます。
- ・仕事の体験ができる企業などの開拓に努めます。
- ・本人の想いやペースに合わせた参加支援が柔軟に行えるよう、地域の居場所や事業と連携し取り組みます。
- ・「みんなで食堂」について、必要としている方の参加やボランティアの方々が無理なく参加・協力していただくことができるよう、計画的な開催を行っていきます。

### (3) あったか心バンク事業の取り組み

地域の方々の支えあう気持ちをつなげることができるよう、生活に困窮している方を対象に地域の方から寄付していただいた、お米・生活用品・家電製品などの無償提供を行い、自立した生活が送れるように支援しました。

#### ①提供実績

月	件数	内 容	提 供 先	備 考
4月	1件	①食料品	①50代男性	①重層ケース
6月	1件	①洗濯機	①40代男性(5人世帯)	①重層ケース
8月	2件	①食料品 ②電子レンジ	①40代男性 ②80代男性	
10月	3件	①お米 ②そうめん ③冬布団・毛布	①50代男性 ②50代男性 ③60代男性	①重層ケース ③重層ケース
11月	1件	①お米・炊飯器・電子レンジ	①80代男性(3人世帯)	①重層ケース

12月	5件	① 冬布団 ② 冬物衣料 ③ 食料品 ④ 洗濯機 ⑤ ホットカーペット	① 80代女性 ② 50代女性 ③ 80代女性 ④ 80代男性 ⑤ 80代女性	③重層ケース
1月	4件	① 食料品 ② お米 ③ お米 ④ 食料品	① 50代男性 ② 60代男性 ③ 50代男性 ④ 50代男性	①重層ケース ②重層ケース ④重層ケース
2月	3件	①シルバーカー ②食料品 ③食料品・日用品	①80代男性 ②50代男性 ③50代男性	②重層ケース ③重層ケース
3月	2件	①布団一式 ②食料品	①30代男性 ②80代女性	①重層ケース ②重層ケース

総提供件数:22件

## ②受入実績

### 【家電・介護用品など】

月	件数	内 容
4月	3件	冷蔵庫、日用品、子ども服、切手 など
5月	2件	紙パンツ、お米 など
6月	2件	衣類、ハガキ
7月	1件	衣類
8月	6件	お米、ハガキ、介護用品、エアコン、電子レンジ、乾パン、
9月	4件	ポット、紙パンツ、セニアカー、テレビ、
10月	3件	靴、メダカ、シャインマスカット
11月	3件	絵本、お米、
12月	4件	布団、肌着、食料品、タオル
1月	6件	レトルト食品、子ども服、おもちゃ、吸水パット など
2月	3件	介助用品、紙パンツ、肌着
3月	1件	お米
合計	38件	

### 【みんなで食堂(野菜など)受入実績】

	件数	内 容	寄 付 者
5月	4件	豚肉、たまご、ごぼう、ニンジン、こんにゃく、れんこん、干しシイタケ、えんどう、山椒、桜の花、米酢	地域住民 たまご&ファーマーズ 石井食品
7月	13件	きゅうり、なす、スタミナどり、たまご、トマト、ゴーヤ、玉ねぎ、そうめん、ジャンボピーマン、ピーマン、ニンジン、キャベツ、ズッキーニ、めんつゆ	地域住民 たまご&ファーマーズ

			石井食品 JA中央支店 (株)Malare
8月	7件	スイカ、ホワイトコーン、かぼちゃ、じゃがいも、キャベツ、ブルーベリー、玉ねぎ、なす、たまご、きゅうり、にんじん、牛すじ	地域住民 たまご&ファーマーズ 石井食品
11月	2件	にんじん、玉ねぎ、じゃがいも、	地域住民
2月	4件	ねぎ、ごぼう、玉ねぎ、ゆず、大根、ニンジン、カットわかめ、そうめん、たまご、油	地域住民
合計	30件		4社 延べ寄付者26名

※寄付を受けた野菜で、調理に使用しなかったものは参加者へ配布を行いました。

### 【成果】

- ・社協だよりを活用し広報を行うことで事業に対する理解を広げることができ、多くの方から寄付をいただいています。
- ・生活に困窮されているが関わりを持つことが難しい方を支援につなげるきっかけとなりました。
- ・緊急時に物資を提供することで、その後の継続的な支援につなげることができています。
- ・「みんなで食堂」でも食品等を募集することで、参加者が自宅で作った野菜を寄付して下さり、他の参加者から「美味しかった」との声をいただき、寄付した方も役割をもって参加することができました。

### 【課題】

- ・生活困窮者へ物的な支援を行う際には、どのような生活を目指し、支援を行うのかということをよく検討する必要があります。そのため、新規の方へ支援を行う際には、その方の状況や「なぜ必要になったのか」ということをしっかりと把握し、今後同じ状況にならないように本人と計画を立てていく必要があります。
- ・期限のある食料や、子ども服、限定的な用途の家電など、頂いた寄付であっても必要としている方へお渡しできていないものがあります。

### 【次年度へ向けて】

- ・引き続き事業に取り組むことで、支援をしたい気持ちを持った方と支援を必要としている方をつなげていきます。
- ・みんなで食堂をはじめ他の事業と連携をすることで、ご寄付いただいた方の気持ちを無駄にすることなくお届けできるよう努めていきます。
- ・ご寄付をいただくだけでなく、物資を受け取った方にメッセージなどを書いていただくことで、ご寄付いただいた方へ感謝の気持ちを伝えることができるよう取り組んでいきます。
- ・社協だよりやSNSを活用することで、子ども服や限定的な用途の家電など、物品の情報を発信していくことで必要としている方へお届けできるよう工夫を行っていきます。

## 9. 生活福祉資金貸付事業(県社協の事業)の状況

低所得者・障がい者・高齢者などの生活困窮の世帯に対し、生活福祉資金の貸付・償還などの

必要な援助指導を行うことを通して、その自立を支援することに努めました。また、特例貸付制度利用者については、窓口として受付を行ったのみでその後の関りを持ちにくいという課題があります。そのため、今後の関りを持つきっかけづくりとして「みんなで食堂」の周知や他の事業との連携を図り、相談窓口の周知と相談しやすい雰囲気づくりに努めています。

(1) 貸付利用延べ件数(令和8年3月末現在)

新規相談	新規貸付	償還済	利用件数
4件	0件	0件	13件

(2) 相談内訳

相談者種別	件数	資金種別	相談件数
高齢者	0件	教育支援資金(教育支援費・就学支度費)	1件
障がい者(世帯)	2件	福祉費(必需品購入費)	1件
低所得者	1件	総合支援資金	2件
ひとり親	1件		
合計	4件	合計	4件

(3) 特例貸付利用延べ件数(令和8年3月末現在)

緊急小口資金	総合支援資金(初回)	総合支援資金(延長)	総合支援資金(再貸付)
69件	46件	22件	32件

(4) 生活福祉資金相談実績

	TEL	連絡調整	来所	訪問	他機関同行	会議	同行支援	支援日	食料支援	その他
本則	9	0	2	0	0	0	0	0	0	2
特例	2	0	0	6	0	0	0	0	0	1
合計	11	0	2	6	0	0	0	0	0	3

10. 福祉資金貸付事業(美咲町社協実施制度)の状況

生活困窮者を対象に一時的な貸付を行う場合に、生活費などの貸付を行うとともに、生活相談や日常生活援助指導を行いました。また、滞納者には償還指導に努めました。また、「みんなで食堂」の開催の際には通知の送付を行い、参加を促すとともに生活状況の把握に努めました。

(1) 貸付・償還状況

新規貸付	償還済	利用件数(3月末現在)
6件	1件	12件

(2) 償還指導状況

送付月	送付件数	備考
3月	7件	※督促状送付対象者4名

		※残高確認書送付対象者3名 訪問または、郵送にて通知及び償還指導を行う。
--	--	---

### 【成果】

- ・貸付についての相談を受け付けることで、他の関わり方では支援を受け入れることが難しい方が支援を受けるきっかけとなっています。
- ・貸付の相談をきっかけとし、その方の家計を見直すことで本当の生活課題を見直すことにつながっています。また、本当に必要なお金なのかどうかを一緒に考えることで、借入を行わずに問題を解決することにもつながっています。
- ・本当に必要としている方に貸付を行うことで、その場をしのぎ、生活を立て直していくきっかけとなっています。

### 【課題】

- ・貸付の相談に来られる方の多くが「お金だけ貸してもらえればいい」といった内容で相談に来られます。しかし、そういった方のほとんどが生活が自転車操業になってしまっており、お金以外にも解決しないといけない課題が重複しているなど、貸付を行うのみでは改善が見込まれないこともあります。

### 【次年度へ向けて】

- ・自立へ向けた支援を行っていく際には、どのような生活を目指していくのかを一緒に考え、置かれた状況を理解し、相談者の強みを生かしながら一緒に課題に向き合っていくことで、課題の解決を図ります。また、困難事例について、他機関と協議ができる体制の整備に努めます。
- ・償還が滞ってしまっている特例貸付の利用者については、県社協と情報を共有しながら、支援につなげることができるよう電話や訪問などでアプローチを行っていきます。

## 11. 研修・情報交換会への参加

職員の資質向上のため、下記の研修会へ参加しました。

開催日時	令和7年4月22日(火)10:30～15:30
場所	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 3階 介護実習室
対象	生活福祉資金特例貸付担当職員
内容	令和7年度第1回市町村社協相談支援体制強化推進事業 情報交換会 ・相談支援体制強化事業に求められる役割・令和7年度取り組み方針について

開催日時	令和7年11月21日(金)9:30～17:00
場所	津山市中央公民館
内容	食品衛生責任者養成講習会 ・食品衛生法、公衆衛生学、食品衛生学 ・理解度確認試験

開催日時	令和8年1月26日(月)13:30～15:30
場所	生涯学習センター 2階 多目的ホール

対	象	地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、行政職員、町内の居宅介護支援事業所・介護保険事業所職員等
内	容	「アルコール依存症への理解と対応」 講師:NPO法人 岡山県津山断酒新生会 理事長 高森政道 氏

開	催	日	時	令和8年2月27日(金)13:30~16:00
場	所	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 3階 介護実習室		
対	象	日常生活自立支援事業担当職員		
内	容	(1) 県社協説明 『日常生活自立支援事業における補助金等の考え方について』 『「新たな事業」について』 『日常生活自立支援事業における審査依頼について』 (2) 意見交換・質疑応答 他		

#### (4) 重層的体制整備事業 ※別紙参照

### 【地域福祉事業の成果・課題・次年度に向けて】

今年度は、社協は設立20周年を迎え、社会福祉大会での活動報告会、ふれあいサロンへの会長感謝を行い、住民の皆さんと一緒に歩んできた20年を振り返ることが出来ました。

また、みしゃもんカレッジではその取り組みが認められ、文部科学大臣表彰をいただくことができ、カレッジ生やカレッジサポーター、今までカレッジに関わって下さった方々と一緒に喜びあうことが出来ました。

社協では重層的支援体制整備事業や生活支援体制整備事業、日常生活自立支援事業や生活福祉資金特例貸付事業など、多くの受託事業を行っています。これらの受託事業は、赤い羽根共同募金や社協会員の取り組みと併せて地域福祉事業を財源の面で支えることが出来ています。また、その一つ一つの事業に追われるのではなく、美咲町社協が今まで取り組んできた事と組み合わせることで事業の目的を果たし、「住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり」につながっています。

個別の支援としては、新たに重層的支援体制整備事業に取り組み始めたことで、行政や関係機関との連携が強化され、今まで社協で取り組んできた事業と組み合わせながら支援を行いました。そのため、支援を必要としている方が様々な社会資源とつながることができ、自立に向けた一歩を踏み出しています。

また、日常生活自立支援事業や法人後見事業でも、小地域ケア会議やふれあいサロン、その他さまざまな事業を通して住民と顔の見える関係性を築いてきたことで、地域の方と連携して利用者を支えることができるようになっていきます。

美咲町社協の地域福祉事業では、多くの事に取り組んでいるだけに、それぞれの事業や取り組みで得られた成果を振り返ったり、課題や問題の振り返りが充分ではありません。限られた人数や時間等の条件の中、今後も事業や取り組みを発展させていくためには、事業や取り組みから得られた成果や課題を共有し、PDCA サイクルを回していくことで事業や取り組みを発展させ、さらなる地域福祉の推進を目指します。

### ◎職員体制

- ・地域福祉課職員 社会福祉士 6名(うち1名令和7年10月～採用)  
社会福祉主事 1名(令和8年2月～)  
保育士 1名

## 令和7年度 美咲町業務委託事務事業実績報告書

### 1. 事業所情報

事業所名	美咲町社会福祉協議会
担当部署(主管部署)	地域福祉課
担当者名	小林 奈緒
電話番号	0868-66-7223
メールアドレス	<a href="mailto:m-syakyo-tiiki3@cyerry.net">m-syakyo-tiiki3@cyerry.net</a>

### 2. 業務概要

業務名	美咲町重層的支援体制整備事業参加支援事業業務委託
事業実施期間	令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日
取組内容 ※関係機関との連携など、可能な限り具体的に記載すること	<p>①みしゃモンカレッジ みらいちやれんじ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～を開催します。障がいのある方が主になって地域で「学べる場」「体験できる場」としてみしゃモンカレッジを開講しました。</p> <p>【第1回目】 日時: 令和7年12月14日(日)9:30～12:00 場所: 南和気荘 内容: タフティング体験～世界にひとつのラグづくり～講師: 地域おこし協力隊 市川武志氏 サポート市川愛氏・市川あかね氏 参加者: カレッジ生19名、カレッジサポーター15名、<u>重層ケースから参加4名</u> 社協職員3名・行政職員1名・講師3名・ご家族2名 計47名</p> <p>【第2回目】 日時: 令和8年2月22日(日)13:30～16:00 場所: 生涯学習センター2階多目的ホール 内容: 太鼓の達人リターンズ! 講師: 元THE BLUE HEARTS ドラマー梶原徹也氏 参加者: カレッジ生19名、カレッジサポーター12名、<u>重層ケースから参加3名</u> 社協職員7名・講師1名・ご家族5名 計47名</p> <p>【第3回目】 日時: 令和8年3月8日(日)11:00～13:00 場所: 生涯学習センター2階多目的ホール 内容: 文部科学大臣表彰受賞のお祝い・お祝いの行事や食事を学ぼう 参加者: カレッジ生16名、カレッジサポーター9名、<u>重層ケースから参加2名</u> 社協職員3名 計30名</p> <p>②みしゃモンカレッジ 笑顔のお届け便～障がい者と地域をつなぐ架け橋～を開催しました。 地域住民に町内の障がい者福祉施設・団体を知ってもらい、「障がいのある方への理解・啓発」「障がいのある方と地域とのつながりづくり」を目的に実施しました。 日時: 令和7年12月18日(木)～12月19日(金)(2日間) 時間: 11:00～13:00 場所: 生涯学習センター前駐車場 出店団体: 誕生寺支援学校・さくらの実・ワークみさき・メンタル柘原・さやかなる苑・ほっとスペースすみれ・あなぐま舎・さつきの丘・美咲町障害者ネットワーク</p> <p>③ぶらっとほーむみさき事業を実施しました。 i. 生きづらさを抱えた人が自分のペースで社会に順応できるよう居場所づくりを行いました。(料理・初詣など) ii. 本人の興味があることに一緒に挑戦し、一歩を踏み出すことができるよう支援しました。(みしゃモンカレッジやみんなで食堂への参加など) iii. 社会に順応するため準備を支援しました。(住環境の整備1件、履歴書の書き方や職場見学など就労準備4件) iv. あったか心バンク事業を実施しました。 生活困窮者へ、地域住民からいただいた物品などを提供しました。食料や生活に必要な家電などの支援を行い、その後の自立した生活へ向け一緒に考えていききっかけになるよう取り組みました。</p> <p>④みんなで食堂を開催しました。【事業報告参照】 みんなで食堂とは…大人でも子どもでも誰でも参加でき一緒に食事を楽しむことのできる居場所です。</p>

事業所の人員体制 ※支援員の配置状況を含む	小林奈緒(兼務)、中塚節子(兼務)、岡本祐依(兼務特例貸付)、井上恵理(兼務予算執行)
利用者数等の実績	参加支援事業利用者12名 延べ35名 ※12名のうち2名は重層ケースとして支援会議にあげていないケースも含む 【事業別】※複数事業への参加者もあり ①みしゃモンカレッジ4名延べ9名 ②みんなで食堂9名延べ13名 ③ぶらっとほーむみさき5名延べ10名
業務の評価	人員不足の中、重層センターや各種関係機関と連携し、複合化・複雑化したニーズに対し積極的にアウトリーチを行い、クライアントに寄り添いストレングスを活かしながら生活全体を支援しました。その中でも参加支援につながっているケースも多くあります。社協の民間性を活かした柔軟な取り組みができていると思います。
次年度への取り組み内容	本人(世帯員)の個別因子を踏まえたアセスメントを行い、経歴や趣味・特技などを活かしながら、地域社会の一員として孤立・孤独を感じることなく、役割をもち、いきいきと活躍できるよう、既存の地域資源と丁寧なマッチング、受け入れ先への支援などの必要な支援を行います。

(注) 実施した業務の事業項目・客体・事業の実施方式等を具体的かつ詳細に記入すること。当該欄に記入困難な場合は任意様式で提出することも可。

また、業務の実施に当たって参考となる資料があれば添付すること。

### 3. 業務実績

月	事業内容	利用者
4月		
5月	①5/11 みんなで食堂(1回目)IN旭	①参加者計108名※重層ケースなし
6月	②6/22 ぶらっとほーむみさき環境整備 ・③6/12ぶらっとほーむみさきカレー作り	②70代男性1名※重層ケース・地域住民4名社協職員 6名・行政職員8名計19名 ③参加者計7名※重層ケースなし
7月	④7/19 みんなで食堂(2回目)IN中央	④参加者計71名※うち重層ケース3名
8月	⑤8/2 みんなで食堂(3回目)IN柵原・⑥8/21ぶらっとほーむたこ焼きパーティー	⑤参加者計44名※うち重層ケース2名⑥参加者9名※うち重層ケース2名
9月	⑦9/30ぶらっとほーむみさきシチュー作り	⑦参加者8名※うち重層ケース3名
10月		
11月	⑧11/8 みんなで食堂(4回目)IN旭	⑧参加者44名※うち重層ケース4名
12月	⑨12/14 みしゃモンカレッジ(1回目)・12/18-12/19 笑顔のお届け便	⑨参加者44名※うち重層ケース4名
1月	⑩1/8 ぶらっとほーむみさき初詣・⑪1/21ぶらっとほーむみさき焼きそば作り	⑩参加者6名※うち重層ケース1名 ⑪参加者4名※うち重層ケース1名
2月	⑫2/7みんなで食堂(5回目)IN中央・⑬2/22みしゃモンカレッジ(2回目)	⑫参加者62名※うち重層ケース4名 ⑬参加者47名※うち重層ケース3名
3月	⑭3/8みしゃモンカレッジ(3回目)・⑮3/1ぶらっとほーむみさきたこ焼きパーティー⑯3/28ぶらっとほーむみさき(図書館フェスタ合同開催)パンケーキ喫茶	⑭参加者30名※うち重層ケース2名 ⑮参加者7名※うち重層ケース2名 ⑯参加者6名※うち重層ケース3名

# 令和7年度 美咲町業務委託事務事業実績報告書

## 1. 事業所情報

事業所名	美咲町社会福祉協議会
担当部署(主管部署)	地域福祉課
担当者名	小林 奈緒
電話番号	0868-66-7223
メールアドレス	<a href="mailto:m-syakyo-tiiki3@cyerry.net">m-syakyo-tiiki3@cyerry.net</a>

## 2. 業務概要

業務名	美咲町重層的支援体制整備事業アウトリーチ等を通じた継続的支援事業業務委託
事業実施期間	令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日
取組内容 ※関係機関との連携など、可能な限り具体的に記載すること	<p>①相談の来所を待つのではなく、社協職員であるCSWIは、積極的にアウトリーチを行い、本人・家族との信頼関係をつくり、地域住民、専門職など多職種と連携・協働し、潜在化したニーズの早期発見、早期支援に取り組みました。</p> <p>②小地域ケア会議やまちづくり協議会などの定例会議などに積極的に出かけ、ニーズの早期発見を行うとともに、各分野の機関・団体・専門職や地域住民と顔の見える関係づくりを行いました。また、重層委託事業の内容を第3期地域福祉活動計画の周知を併せて実施しました。【地域づくりコーディネーター・生活支援コーディネーターとの連携】③社協事業である日常生活自立支援事業や貸付事業などの事業を活用し、支援しました。日援2件/貸付2件/福祉バイク1件</p> <p>④専門的な知識・技術・理論が備わった専門職の育成と向上を目指し、各種研修に参加しました。また、行政と連携し、町職員や関係団体職員の研修を企画実施しました。【下記業務実績参照】⑤支援会議の実</p>
事業所の人員体制 ※支援員の配置状況を含む	小林奈緒(兼務)、中塚節子(兼務R7. 10~採用)、2名人員不足
利用者数等の実績	(別紙1)
業務の評価	人員不足の中、重層センターや各種関係機関と連携し、複合化・複雑化したニーズに対し積極的にアウトリーチを行い、クライアントに寄り添いストレングスを活かしながら生活全体を支援しました。その中でも参加支援につながっているケースも多くあります。社協の民間性を活かした柔軟な取り組みができていると思います。
次年度への取り組み内容	CSWは、個別支援と地域づくりを一体的に、継続的に行う役割を持つ専門性の高い地域福祉実践者です。CSWの配置により、多くの専門職が活動しやすい仕組みを整え、さらにケースワークやケアマネジメント、コミュニティワークなどの援助技術や知識などの専門力を向上させ、多様な生活問題・課題の解決に向けた取り組みを効果的に推進できるよう支援体制を構築します。

(注) 実施した業務の事業項目・客体・事業の実施方式等を具体的かつ詳細に記入すること。当該欄に記入困難な場合は任意様式で提出することも可。

また、業務の実施に当たって参考となる資料があれば添付すること。

### 3. 業務実績

月	事業内容	利用者
4月		
5月	5/1矢掛町社協視察受け入れ・5/21重層委託会議①	5/1 矢掛町社協4名・社協2名・行政3名 5/21行政4名・社協5名
6月	個別支援へのアウトリーチ 随時	
7月	調整会議・支援会議 随時実施	
8月	8/14・8/21重層委託会議②③	行政4名・社協4名
9月	9/9・9/24重層委託会議④⑤	行政4名・社協4名
10月	10/7重層研修会(第1回目)・10/28重層委託会議⑥	10/7地域福祉課職員6名出席 10/28行政4名・社協4名
11月	11/10 重層研修(県社協主催)・11/13・11/27重層委託会議⑦・⑧	11/10地域福祉課職員3名出席 11/13・28行政4名・社協4名
12月	12/4 研修の打ち合わせ 12/15重層研修会(第2回目)	12/15地域福祉課職員3名出席
1月	1/23 研修の打ち合わせ 1/15 支援会議(別紙)	
2月	2/3 相談援助演習(基礎)に参加・2/4重層研修会(第3回目)	2/3 CSW1名参加 2/4 地域福祉課5名出席
3月	3/12支援会議・3/16支援会議(別紙)	

# 令和7年度 美咲町業務委託事務事業実績報告書

## 1. 事業所情報

事業所名	美咲町社会福祉協議会
担当部署(主管部署)	地域福祉課
担当者名	小林 奈緒
電話番号	0868-66-7223
メールアドレス	m-svakvo-tiiki3@cverry.net

## 2. 業務概要

業務名	美咲町重層的支援体制整備事業生活困窮者等地域づくり事業業務委託
事業実施期間	令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日
取組内容 ※関係機関との連携など、可能な限り具体的に記載すること	<p>①小地域ケア会議を活用しての支え合いの地域づくりの推進 小地域ケア会議は、平成22年度から継続して自治会単位で実施されており、昨年69自治会でしたが、新たに3自治会立ち上げを行い、現在72自治会で開催ができています。地域住民と専門職が協働して、地域課題・課題について話しあい、その解決及び支援について検討しました。この小地域ケア会議を活用して、個別支援から見えてきた地域問題・課題について、地域住民が我がこととして理解し、専門職とともに協議し、支えあっていく地域づくりを進めました。また、開催できていても立ち上げて間もない自治会や継続が難しい自治会にも出向き支援しました。常日頃から地域から小地域ケア会議の内容の相談や会議の開催方法などの相談支援も併せて行ってきました。小地域ケア会議の開催が難しいところには、ふれあいサロン活動、通いの場、サポーター会合などに出席し、情報共有・連携の強化に努めました。</p> <p>②美咲流(地域版・学校版)の福祉共育の推進 住民の『意識の壁』をなくし、「お互い様」意識を醸成していくために、個別支援により明らかとなった地域生活問題・課題について理解と共感を深めるとともに、自分たちに何ができるかを考えるサービスラーニングやアクティブラーニングとしての福祉共育を実践しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柵原学園福祉共育 9年生31名 日時:11月4日(火)3時間目 内容:「高齢者の気持ちを理解しよう」講師:かしのき荘利用者1名・かしのき荘職員1名・社協職員2名 日時:11月10日(月) 2・3時間目 内容:「北和気通いの場参加者との交流」講師:北和気通いの場の参加者10名・社協職員2名</li> <li>2. 旭学園福祉共育 6年生16名 日時:11月17日(月) 5時間目 内容:「お年寄りの方にはずっと笑顔・元気でいてもらえるようにしましょう」講師:あさひが丘職員1名・社協職員2名</li> <li>3. 旭学園福祉共育 4年生8名 日時:1月29日(金)2・3時間目 内容:「山本おさむさん、山本ちえさんと交流しよう」 ゲストティーチャー:山本修氏・山本知枝子氏 ・社協職員2名 日時:2月9日(月) 3・4時間目 内容:「奥西敦子さんと交流しよう」 ゲストティーチャー:奥西敦子氏 ・社協職員2名</li> <li>4. 美作大学福祉共育 社会福祉学科2年 30名 日時12月23日(火) 3コマ目 内容:「手話講座」 ゲストティーチャー:山本修氏 ・社協職員2名</li> <li>5. 加美小学校福祉共育 5年生23名 日時:1月15日(木)4・5時間目 内容:「車いすを使っている人について学ぼう」 ゲストティーチャー:藤本満春氏 ・社協職員2名</li> <li>6. 美咲中央小学校福祉共育 4年生28名 日時:3月12日(木) 3・4時間目 内容:「視覚障がい者の気持ちになって考えよう」 ゲストティーチャー:奥西敦子氏 ・社協職員2名</li> <li>7. 図書館・公民館職員向け福祉共育 図書館・公民館職員16名・社協職員10名※住民を対応する職員向け 日時:8月29日(金)15:00~17:00 内容:「聴覚障がい者の気持ちになって考えよう」 ゲストティーチャー山本修氏・山本知枝子氏 ・社協職員1名 日時:2月2日(月)15:00~17:00 内容:「視覚障がい者の気持ちになって考えよう」 ゲストティーチャー:奥西敦子氏 ・社協職員1名</li> <li>8. 行政職員・社協職員向け福祉共育 行政職員延べ77名・社協職員延べ30名※住民を対応する職員向け 日時:11月5日(水)9:00~11:00/18:00~20:00 日時:12月2日(火)9:00~11:00/18:00~20:00 内容:「聴覚障がい者の気持ちになって考えよう」 ゲストティーチャー山本修氏・山本知枝子氏 ・社協職員1名 ・行政職員3名</li> </ol>

事業所の人員体制 ※支援員の配置状況を含む	小林奈緒(兼務)、中塚節子(兼務)
利用者数等の実績	<p>【小地域ケア会議】</p> <p>①開催単位:72/81自治会 開催率88.9%</p> <p>②令和7年度新規立ち上げ自治会 【錦織西自治会・打穴中自治会・尾崎高山自治会 計3自治会】</p> <p>③年間合計開催数:187回</p> <p>【福祉共育】</p> <p>※上記実績含め記載</p>
業務の評価	<p>委託初年度ということもあり、手探りの状況でのスタートでしたが、小地域ケア会議は新規立ち上げ自治会は年間1自治会の目標値ですが、目標を上回る3自治会も開催することができました。福祉共育では、学校での講座だけでなく、児童が地域へ出向いて実施する講座に展開し、サービスラーニングとしての福祉共育を実践することができました。</p>
次年度への取り組み内容	<p>小地域ケア会議では、話し合う問題・課題の多くが高齢者のことになっているため、次年度は、子ども、障がい児者、若者、ひきこもり、生活困窮者など、幅広い問題・課題について理解を進め、支え合いの地域づくりに向けて、コミュニティソーシャルワーカーとしての専門性に基づいた活動に取り組んでいきます。未だに小地域ケア会議が設置・開催できていない自治会もあり、設置・開催に向けて、一層の働きかけを継続的に行っていきます。福祉共育では、単発での依頼が多く、学校側考える福祉共育と社協が展開していきたい福祉共育とのずれがあります。福祉共育プログラムの整備を行い、地域の実情に即した福祉共育内容を小中学校への働きかけを行います。</p>

(注) 実施した業務の事業項目・客体・事業の実施方式等を具体的かつ詳細に記入すること。当該欄に記入困難な場合は任意様式で提出することも可。

また、業務の実施に当たって参考となる資料があれば添付すること。

### 3. 業務実績

月	事業内容	利用者
4月		上記へ記載
5月		
6月		
7月	小地域ケア会議、民生委員会、まちづくり協議会等へ出席 随時	
8月		
9月		
10月		
11月		
12月	学校・地域・職員向け福祉共育 随時(8月~3月)	
1月		
2月		
3月		

### Ⅲ. 包括的支援事業

美咲町地域包括支援センターは、美咲町から美咲町社会福祉協議会が業務委託を受け運営しています。

地域包括支援センターの主な業務として、包括的支援事業(第1号介護予防支援事業、総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業)及び指定介護予防支援事業を実施しました。

また、地域包括ケアシステムを構築するためには医療と介護の連携は重要であり、医療機関及び行政、社会福祉協議会、関係機関と連携しながら、医療・介護・生活支援等の体制づくり及び施策・事業の展開に努めました。

## 1. 包括的支援事業

### (1) 第1号介護予防支援事業(介護予防ケアマネジメント事業)

①-I 介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)は、介護認定要支援者及び基本チェックリストの記入内容が事業対象の基準に該当した方を対象としています。

事業目的は、介護予防及び自立支援です。認定結果や相談に応じて、訪問や面接を通じて状態や生活環境を把握し、本人や家族の希望に応じて、必要な支援に努めました。

①-II 要支援1.2の認定を受けてサービス利用のない人に対して訪問をして生活の実態把握を行い、介護予防及び福祉サービス等が必要と認められる場合は、その支援につながるように努めました。

また、訪問以外では、美咲町社協が支援している小地域ケア会議に出席しました。

小地域ケア会議では、地域の中で気になる高齢者の情報が住民より集まり、その情報をもとに地域包括支援センターとして実態把握を行い、住民の支援につなぐことができています。また、実態把握及び支援の際には、民生委員児童委員と連携を行うことも増えています。

①-III 短期集中介護予防で教室では、専門職により、健康チェック、筋力の向上を目的とした体操、事業前後のアセスメント評価等を行うことで身体機能向上を目的として事業実施をしています。教室の参加者は、介護保険要支援認定者及び生活機能チェックリストの対象者を訪問し、参加を促しています。令和7年度生活機能チェックリストの実施者のうち、事業対象者としての参加者は7名です。

区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
短期集中 介護予防教室	4クール 中央会場 30人 柵原会場 12人 合計42人	4クール 中央会場 10人 柵原会場 11人 旭会場 9人 合計 30人	4クール 中央会場 18人 柵原会場 13人 旭会場 10人 合計 41人
フォロー教室	17人	9人	5人

## 【課題と今後の対応】

短期集中介護予防教室利用により、よい生活習慣の獲得ができた利用者は、6 か月で卒業することが期待されますが、卒業後の生活の維持は困難で繰り返し教室利用されている方が多い状況です。フォロー教室への移行や教室卒業のタイミングについて、支援者間で共有し、本人の身体機能の維持・向上を目指しながら介護予防につなげていきます。

### ①-IV 通いの場での介護予防取組み状況について、

参加者のモチベーションアップや支援対象者の把握のため運動機能評価を実施しています。運動機能評価は TUG 測定(タイムドアップゴー測定、高齢者の転倒リスクを把握するための簡便な評価方法)を行い、約3年ごとに前回計測した会場へ評価の声かけをしています。また、新たな会場へ声かけをしていますが今年度は新規会場の評価はできませんでした。引き続き新規会場へ声かけを続けていきます。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運動機能評価 の実施	西川	江与味畝	錦織北

また、集団の健康教育として、希望のあった各団体の要望に応じて、「地域包括支援センターについて」や「フレイル予防」の講話を行っています。(令和7年度は、通いの場1か所(錦織北)、サロン3か所(大戸上、百々、打穴西)実施)



### ① -V 高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業について

高齢者の健康を維持し、フレイル予防を保健事業と介護予防が一体的に行うため、保険年金課、健康推進課、社会福祉協議会及び地域包括支援センターが連携し、低栄養予防教室各2回、次年度に第3回目の低栄養予防教室を実施しています。地域包括支援センターは第1回、第2回の教室へ参加、介護予防としてフレイルチェックリストを実施し、その結果を伝えています。また、フレイルチェックリストの結果から介護予防・日常生活支援総合事業の対象者3名へ個別の声かけまたは訪問を行いました

	令和6年度	令和7年度
低栄養予防教室(第1回、第2回)	江与味 塚角 大埴和	打穴西
低栄養予防教室(第3回)		江与味 塚角 大埴和



### 【課題と今後の対応】

高齢者の保健事業と介護予防の一体化学業は、令和6年度から取り組みを始めています。地域フレイルについて、連携した取り組みが継続できるように、各課の方向性を共有し、目標を統一していきます。また、介護予防につながるようにフレイルのチェックリストを継続していきます。

### (2) 総合相談支援事業

高齢者やその家族の介護の悩みや福祉、健康、介護予防等の困りごとに対して、よりよい解決ができるように、電話や訪問等により相談に応じ、包括支援センターの専門職(主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士等)が連携しながら、総合的な支援に努めました。

(令和7年度相談件数)

区分	相談内容	令和6年	令和7年
1	介護相談	133	129
2	福祉相談(介護相談を除く障がい、生活困窮等)	3	5
3	介護予防	13	13
4	認知症	31	45
5	健康医療	20	20
6	虐待、権利擁護	21	39
7	その他	11	62
8	高齢者以外(再掲)母子、障がいのある人	9	36

### 【課題と今後の対応】

地域の中で、気になっているが生活の様子がわかりにくい方についての相談が多くなってきています。

電話相談だけでなく、積極的な訪問や小地域ケア会議等の関係機関からの情報収集による状況把握により、早期対応に努めます。

高齢者のみならず、家族全体に問題を抱えているケースが増えてきました。

地域包括支援センターだけでなく、重層支援センターなど行政及び関係機関等と連携し、役割を決め支援を行っていきます。

### (3) 権利擁護事業

地域住民、民生委員児童委員、介護支援専門員等の支援だけでは十分に問題が解決できない困難な状況にある高齢者が、生活を維持し安心して生活することができるよう、行政、権利擁護センター及び関係機関等と連携し、高齢者の権利擁護に必要な支援に努めました。

#### ③-I 高齢者虐待の防止及び対応

高齢者虐待の予防と早期発見・早期対応・再発防止を図るため、保険年金課、権利擁護センター及び関係機関等と連携し取り組みました。

令和7年度の虐待通告(新規)については、介護支援専門員が48%を占めています。日頃の関わりの中での観察力、また、虐待に関する高い意識を感じ、通報も速やかにできています。

養護者(虐待者)は、息子、娘が多く、令和7年度では、12件(57%)を占めています。また、虐待を受けた高齢者の性別は、女性が19人(90%)と圧倒的に多く、疾患は、認知症が8件(38%)を占めています。虐待通告後は、速やかに現状把握を行い、コア会議の開催に努め、虐待有無や緊急性の判断、各関係者の支援の役割分担を行い、対応が速やかにできるように努めました。令和7年度は、一時保護したケースは1件となっており、介護保険サービスを利用し距離をとりながら入所したケースも3件ありました。また、養護者自身に精神的疾患や発達障害、アルコール依存症などを抱えているケースは5件(21%)であり、養護者の支援が大きな課題であり、関係機関との連携をはかりながら支援していく必要性を感じます。専門的な助言が必要なケースについては、契約弁護士や権利擁護センター等に相談・連携しながら対応しました。

区 分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
虐待相談通告件数	27	26	21
虐待分類			
①身体的虐待	20	19	13
②介護・世話の放棄、放任	4	1	0
③心理的虐待	12	5	12
④経済的虐待	4	1	2
⑤性的虐待	0	0	0

\*重複あり

(相談者、通報者)

区 分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
介護保険支援専門員	13	16	13
介護保険サービス事業者等	4	1	3
権利擁護支援センター	3	1	0
警察	2	1	0
行政	0	0	4
民生委員	0	1	0
医療機関	0	0	1

本人	1	2	0
家族・親族	2	3	2
養護者	1	0	0
その他	1	1	3

\*重複あり

(養護者(虐待者)について)

高齢者との続柄	令和5年度	令和6年度	令和7年度
配偶者	4	7	5
息子	14	14	11
娘	3	3	2
婿	1	0	1
嫁	2	1	2
孫	2	1	2
兄	0	0	0
本人(セルフネグレクト)	0	0	0
甥	1	0	0

\*重複あり

高齢者虐待防止研修会については、講師の先生と内容を事前に協議し、研修の中で疑問が解決できるように努めました。当日は32名の参加があり、研修後のアンケートでは、内容の理解については「理解できた」が77%、「やや理解できた」を含めると97%でした。感想としては、「虐待の疑いがあれば通告

する」「虐待通告の流れが理解できた」との意見が多く、虐待を自分自身で判断するものではなく市町村が判断するので「虐待疑いがあればまず相談」という意識を高めることができています。

虐待の視点の学び、支援・連携体制の構築の必要性の重要性を感じており、学びの多い研修が開催できたと感じています。

日時	会場	参加者	内容
12月12日(金)	生涯学習センター 2階多目的スペース	32名	「知って防ごう！高齢者虐待～誰もが安心して地域で暮らすために～」 講師：美作大学 生活科学部 社会福祉学科 松尾 彰 氏

#### 【課題と今後の対応】

複合的な課題を抱えた家庭が増加しており、関係機関の役割分担が不明瞭になっています。今後は本人及び養護者が安定した生活を送れるよう、各関係機関の役割を明確にして協力し合って支援することが必要です。



### ③-Ⅱ 成年後見制度の活用促進

成年後見制度利用等の相談を受けた場合、権利擁護センター及び保険年金課、福祉しあわせ課等の関係機関と連携しながら支援に努めました。

また、成年後見制度を幅広く周知させるため、関係機関とともに広報啓発を図りました。

#### 【課題と今後の対応】

制度や事業の内容が難しく、地域への周知が困難です。

制度や事業をわかりやすく住民へ伝える方法や伝える場を検討する必要があります。

### ③-Ⅲ 老人福祉施設への措置支援

緊急に虐待の理由で保険年金課、福祉しあわせ課と協議のうえ、老人福祉法上の措置が必要と判断したケースは2件ありました。

### ③-Ⅴ 消費者被害防止

令和7年度は、住民に向けての消費者被害研修につきましては、団体等に働きかけをし、警察署からの講話、NPO 法人美咲ももたろうクラブと協力し寸劇を通じて啓発を行いました。社協だより、小地域ケア会議で広報及び周知に努めました。消費者被害の相談を受け訪問し、消費者被害の啓発を行いました。

#### 【課題と今後の対応】

住民への周知が徹底できていないため、行政・警察等と協力しながら研修会の開催や、小地域ケア会議等に参加した際に、引き続き注意喚起を行う必要があります。

### ③-Ⅵ 機関連携会議(令和7年度開催)

権利擁護支援等について関係機関と情報や課題を共有し、連携体制の構築をすることが目的です。また、支援を要する住民の早期発見、早期支援につなげていく事も目指しています。

関係機関として、美咲警察署、津山圏域消防組合久米南分署、中国銀行久米支店、亀甲郵便局、農協中央支店、行政担当課、社会福祉協議会地域福祉課での連携を目指しており、令和7年度は包括支援センターの相談窓口への啓蒙カードを関係機関へ設置しました。

日 時	会 場	参加者	内 容
令和7年 6月27日(金) 13:30～15:00	生涯学習 センター	15名	①地域包括支援センター業務について ②各関係機関が感じている課題、連携等の現状 について（グループワーク） ③意見交換 関係機関ができることについて

#### 【課題と今後の対応】

社協や関係機関の役割理解と連携強化を図るため、機関連携会議や研修を継続開催するとともに、経済的虐待等の早期発見・早期支援につながる体制づくりや、地域住民にも分かりやすい啓発を進めていく必要があります。

#### （４）包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の高齢者が住みなれた地域で安心して生活することができるよう、介護支援専門員の連携及び多種職や関係機関と連携を図り、個々の高齢者の状況や変化に応じた包括的・継続的ケアマネジメントを実現するため、介護支援専門員の後方的支援に努めました。

##### ④-I 日常的な個別指導・相談

日常業務に対して介護支援専門員が抱えている困難事例について面接や電話、事業所の訪問で相談を受けながら指導と支援に努めました。小地域ケア会議での地域の情報を介護支援専門員に伝え、自治会長や民生委員などの地域の支援者との関係を繋いだり、支援者の思いや考えを伝えることで、支援を再度検討しました。

また、介護支援専門員が抱える困難事例については、包括支援センターで事例検討をしながら再アセスメントし、今後の方向性については関係機関を含めた会議を開催し検討することで介護支援専門員のみではなく、各関係機関の役割が明確化し支援のネットワークが広がりました。さらに、家族や支援者である地域住民を含めた会議を開催し、介護支援専門員のケース支援を行いました。

年 度	介護支援専門員からの 個別相談	事業所の訪問
令和7年度	82件	4ヵ所（町内7事業所）

##### ④-II 事例検討会の実施

介護支援専門員から支援困難事例を提示し、美作大学 堀川涼子教授からアドバイスをいただきました。介護支援専門員が事例を提供し、事例を通して、疾患の理解、アセスメント力をさらに深め、問題解決のための視点を養い、気づきを持ち、支援の組立てを学ぶことにより、介護支援専門員の資質向上及び相談援助技術向上に努めました。

開 催 日	令和7年6月13日(金)	令和7年9月17日(水)	令和8年2月16日(月)
内 容	介護支援専門員が担当している困難事例の検討を実施し、支援の在り方の検討を行う。		

参加者	美咲町の要支援・要介護者を担当している介護支援専門員等 美咲町内のケースを担当する町外の介護支援専門員 美咲町保険年金課、社会福祉協議会地域福祉課職員、美咲町地域包括 支援センター職員		
参加人数	25名	15名	20名

#### 【課題と今後の対応】

主任介護支援専門員が日頃から介護支援専門員に対して、相談ができる関係性を保つこと、また、介護支援専門員の研修参加への主体性を育てることが必要です。

#### ④-Ⅲ 介護支援専門員等研修会の実施

介護支援専門員がケアマネジメント力の向上、相談援助技術のスキルアップにつながるための研修会を実施しています。今年度はストレスとの向き合い方や心の整え方を学び、自分や相手のストレスを理解しケアマネジメントに活かせるための内容でした。また、意見交換をして介護支援専門員同士の交流をはかりました。

日時	会場	参加者	内容
令和7年 10月2日(木) 13:30~15:30	みさキラリ生涯 学習センター	20名	「仕事もプライベートもやさしい気持ちになれる ～こころの整え方～」 講師:メンタルヘルスケア Adjust アジャスト 原 公美子 氏

#### 【課題と今後の対応】

介護支援専門員と相談をしながらの資質向上につながる研修内容の企画が必要です。

#### ④-Ⅳ 介護給付適正化研修会参加（行政主体）

開催日	令和7年11月25日(火)
開催場所	美作県民局第1庁舎5階大会議室
講演	「ケアプラン点検の基礎的理解」 講師:一般社団法人岡山県介護支援専門員協会 会長 柴田 倫宏 氏
参加者	1名(保険年金課担当者と出席)

開催日	令和8年2月17日(火)
開催場所	美咲町役場
内容	令和7年度 ケアプラン点検 アドバイザー:岡山県より1名、岡山県介護支援専門員協会より1名 町内介護支援専門員2名のプラン点検
参加者	1名(保険年金課担当者と出席)
開催日	令和8年3月18日(水)

開催場所	美咲町生涯学習センター 2階 会議室
内容	令和7年度ケアプラン点検会 ・町内介護支援専門員から提出されたケアプランを「岡山県版一次点検シート」を用いて点検 ・介護予防支援計画について
参加者	1名(保険年金課担当者と出席)

### 【課題と今後の対応】

研修内容を介護支援専門員にフィードバックができていません。ケアプランの適正化につながるためには研修内容を共有する必要があります。

## 2. 事業・会議等

### (1) 地域包括支援センター運営協議会への参加(行政主体)

地域包括支援センター運営協議会は2回実施でした。地域包括支援センターの運営における事業の実施状況や事業計画等について、協議会メンバーが一同に会し、それぞれの活動の枠を超えて地域の課題を共有し、解決に向けた話し合いや連絡調整、連携・協力が行われる場となっています。地域の課題解決を推進する役割を担っています。

### (2) 在宅医療・介護連携推進事業の推進(行政主体)

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、医療機関と介護サービス事業者等が連携を図っていくことを目的とした事業です。

令和7年度は在宅医療・介護連携協議会を1回、研修会を1回開催しました。また、協議会での協議事項等について必要な検討を行うため、医療関係者及び行政関係課等で毎月1回部会を設け協議・検討を行いました。

### (3) 地域ケア会議等の充実

#### ③-I 地域ケア会議(事前準備としての意見交換会)の開催

日常生活圏域(中学校区)で、自治会長、民生委員児童委員、小地域ケア会議の構成員、行政職員、社会福祉協議会職員等から構成し、地域課題等について協議してきました。

令和7年度は、第1回は「ささえあい活動の紹介」について、第2回は「役場・社協が実施している情報発信」について共有する機会として開催いたしました。

#### 第1回地域ケア会議「ささえあい活動の紹介」

開催日	令和7年9月10日 旭地域	令和7年9月5日 中央地域	令和7年9月4日 柵原地域
参加人数	33名	49名	54名

内 容	① 地域ケア会議の説明 ② 地域包括ケア会議の報告 ③ ささえあい活動の紹介 ④ グループワーク ⑤ 発表、まとめ
参 加 者	自治会長、民生委員児童委員、小地域ケア会議の構成員、行政職員、社会福祉協議会職員 等

## 第2回地域ケア会議「役場・社協が実施している情報発信」



開 催 日	令和8年2月13日 柵原地域	令和8年2月19日 旭地域	令和年8年2月27日 中央地域
参加人数	50名	26名	43名
内 容	① 地域ケア会議の説明 ② 地域包括ケア会議の説明 ③ 地域包括ケア会議の報告 ④ 役場・社協が実施している情報発信について紹介 ⑤ グループワーク ⑥ 発表、まとめ		
参 加 者	自治会長、民生委員児童委員、小地域ケア会議の構成員、行政職員、社会福祉協議会職員 等		

### 【課題と今後の対応】

高齢者に限らず、障がい者やひきこもり等の多様な課題が増えてきており、重層的な支援が必要です。

#### ③-Ⅱ 地域ケア個別会議の開催

介護認定要支援者及び事業対象者の自立支援に資する計画となるよう地域包括支援センター職員が作成する個別ケースのアセスメントシートとサービス計画を提示し、多職種(医師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士等)による専門的視点から、支援目標及び福祉サービス・社

会資源等について検討を行いました。

	回 数
地域ケア個別会議 (毎月1回Zoom開催)	10回実施

### 【課題と今後の対応】

個別のケースから地域課題の明確化、社会資源との結びつけなど課題です。  
課題の整理や分析をおこない地域ケア会議へ展開していく必要があります。

### ③-Ⅲ 小地域ケア会議への参加

社会福祉協議会地域福祉課が開催支援する小地域ケア会議に参加し、地域課題及び個別課題の支援等について、情報共有及び検討を行いました。

小地域ケア会議で把握した個別課題及び地域の課題等については地域ケア会議へと展開し、その課題解決に向けて情報共有・検討を行いました。

### (4) 地域包括ケア会議（行政主体）への参画

令和7年度は、地域包括ケア会議は3回開催しました。

地域包括ケア会議は、住み慣れた地域で自立した生活を最期まで送ることができるように、高齢者・障がい者・子ども等、全ての世代で支え・支えられるまちづくりが求められており、介護・育児・障がい・生活困窮などに対応した包括的な生活支援を切れ目なく提供できる体制（地域包括ケアシステム）づくりを推進するため、行政及び地域包括支援センター、社会福祉協議会、関係機関とともに地域課題及び展開している事業等について共有・協議する場です。

	第1回	第2回	第3回
日時	7月29日(火) 10:00~12:00	11月21日(金) 13:00~15:00	3月24日(火) 13:00~15:00
内容	<b>【報告事項】</b> ・配食サービスについて ・黄福タクシーについて ・第2次地域福祉計画・第3期地域福祉活動計画の推進について ・重層的支援体制整備事業の周知について ・福祉避難所の運営と周知について ・民生委員活動の継続性の検討について	<b>【報告事項】</b> ・介護サービス事業所の経営悪化に対する美咲モデル創設 ・老人クラブ活動の持続性の検討 ・福祉の意識の壁・情報の壁について。 <b>【協議事項】</b> ・福祉の意識の壁・情報の壁を取り払うためにできることは。「情報が伝わってこない」 ・空き家対策と地域への伝達について	<b>【報告事項】</b> ・介護サービス事業所の経営悪化に対する美咲モデル創設を！ ・こども家庭センターの創設について ・福祉避難所の運営について ・空き家対策補助金の見直しについて ・包括ケア会議の報告 ・重層支援体制整備事業の振り返り <b>【協議事項】</b> ・主任児童委員の役割の明確化について

## (5) 認知症総合支援事業（行政主体）

認知症の人や家族が安心して暮らせる優しいまちづくりを目指し、認知症の状態に応じた適切な医療や介護サービスが提供される仕組みづくり及び認知症の人や家族に対する総合的な支援に努めました。

### ⑤-I 認知症事業連絡会への参画

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、行政及び関係機関、団体等と連携するとともに、認知症事業についての情報共有及び検討を行い、認知症に関わる事業や啓発活動を推進しました。

	第1回
日時	8月18日(月) 13:30～15:30
内容	① 認知症啓発活動について ② オレンジカフェについて ③ チームオレンジについて

### ⑤-II 認知症啓発活動の推進支援

認知症について正しい知識を持ち、認知症の人の視点に立って認知症への理解を深めることを目的に、啓発活動に取り組みました。

○9月アルツハイマー月間に合わせて啓発活動

社会福祉協議会職員がオレンジポロシャツを着用、パネルの展示、認知症キャラバンと行政とともに啓発用ティッシュの配布（物産センター、大戸ローソン、みち停あさひ）、認知症月間の普及啓発、美作大学主催「認知症とともに、まちづくりセミナー」への協賛を行いました。



### 【課題と今後の対応】

認知症に対する知識の普及・啓発を認知症キャラバンや行政、みまさか圏域と協力して行います。

### ⑤-III 認知症カフェ(オレンジカフェ)の推進支援

認知症の人やその家族・地域住民・専門職等、誰もが住み慣れた地域でいつまでもその人

らしい生活ができるように、仲間づくりや生きがい支援、介護する家族の負担軽減、認知症や介護の相談支援の場としてのオレンジカフェをももたろうクラブが主催で開催しています。

地域包括支援センターは相談機関として毎回参加しています。参加者の見守りを行い、必要に応じて支援につなげています。

年度	開催回数	参加者数(延べ)	スタッフ参加者数(延べ)	認知症サポーターの参加(延べ)
令和5年度	34回	372名	169名	7名
令和5年度(合同カフェ)	1回	49名	/	
令和6年度	36回	429名	193名	29名
令和7年度	36回	986名	217名	31名



### 【課題と今後の対応】

オレンジカフェへの参加し、相談支援や参加者の見守りを継続します。

#### ⑤-IV 認知症サポーター養成講座の開催

認知症を正しく理解する人を増やし、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをすすめるため、認知症サポーターを養成しています。認知症キャラバンメイトとともに講座や寸劇とGW、介護体験のお話などを実施しました。

団体等	受講者数
飯岡生活支援サポーター養成講座	29名
小原自治会	32名

### 【課題と今後の対応】

「新しい認知症観」を広めていくために、GWなどを交えて、わかりやすく伝えていくことが必要です。そのために、支援に関わる従事者の理解を深める必要があります。また、サポーターの活躍の場の検討が必要です。

#### ⑤-V 認知症初期集中支援チームによる支援

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の

人やその家族へ早期診断・早期対応、日常生活上の助言等の支援に努めました。

令和7年度は、2名の支援を実施し、医療機関への受診支援が2名、継続支援が1名でした。

### 【課題と今後の対応】

認知症初期集中支援チームについて、対象者が少ない状況があります。対象者の状況に応じて早期支援できる体制づくりが必要です。

#### ⑤-VI認知症見守り声掛け模擬訓練の実施

認知症の理解を地域で広めるために認知症見守り声掛け訓練を実施していますが、令和7年度は実施していません。

#### (6) みまさか認知症疾患医療センター・認知症疾患医療連絡協議会への参加

医療と介護を中心とした臨床倫理的課題の克服を目指し、尊厳や人権を重視した支援が行えるよう、みまさか認知症疾患医療センター(積善病院)が開催する連絡協議会及び研修会等に参加し、相談支援の質の向上を図りました。

#### ⑥ 認知症臨床倫理研究会

みまさか圏域臨床倫理研究会月例会 9回参加(ZOOM研修)

みまさか圏域臨床倫理研修会

日時	会場	参加者	内容
6月14日(土) 9:30~15:00	津山保健センター ホール	7名	【講義】意思決定支援を基礎から考える 【臨床倫理コンサルテーション】 事例①母に認知症状があり、今後は心配 事例②運転の危険がある、軽度認知症の独居の女性
10月26日 (日) 9:00~15:00	津山市医師会会 議室	2名	【講義】1 意思決定支援を学ぶために 2 臨床倫理のアプローチ 【臨床倫理コンサルテーション】 事例①本人の意思と本人の窮状の境の見定め が難しい 事例②多職種の強みと弱み
3月7日(土)	津山市医師会会 議室	2名	【倫理コンサルテーション】 事例①短期記憶障害が顕著なケースと親族や支 援者への関り方について 事例②近隣トラブルがあり、サービス調整がうまく いかず対応に苦慮している事例

### 【課題と今後の対応】

令和6年度にみまさか版認知症意思決定支援のガイドラインを作成しました。ガイドラインの活用方法を検討しながら認知症倫理研究会の研修方法や事例の検討方法について、みまさか地域で検討していきます。

### 3. 指定介護予防支援事業

介護保険における予防給付の対象となる要支援者及び事業対象者が、介護予防サービス等の適切な利用を行うことができるよう、その心身の状況と置かれている環境等を勘案し、介護予防サービス計画を作成するとともに、当計画に基づく指定介護予防サービス等の提供が確保されるよう、介護予防サービス事業者等の関係機関と連絡調整を行いました。

サービス計画を作成する際、困難と思える事例については、多職種で構成する地域ケア個別会議でアドバイスを受ける等、適切なサービス計画を作成するよう努めました。

#### ① 介護予防支援サービス計画作成実績

##### ① - I 介護予防支援サービス計画作成実績(前年度実績件数)

(単位:件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	82(149)	79(149)	79(153)	88(151)	85(147)	93(152)
(委託)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	91(153)	91(161)	97(163)	98(164)	94(163)	94(160)
(委託)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

##### ① - II 介護予防支援サービス相談支援(前年度実績件数)

R6年度 (R5年度)

	実績
訪問・面接	737(1,956)件
電話	455(764)件
サービス担当者会議	133(231)件

#### 【課題と今後の対応】

令和7年度は職員の退職により前年度と比べ1名減の職員体制となり、丁寧なサービス提供を実施することが困難となりました。

そこで、要支援認定者へのサービス提供を停滞させるわけにはいかないため、中央居宅支援事業所や白寿荘居宅介護支援事業所へ介護予防のサービス計画作成をお願いする状況となり、サービス計画作成実績やそれに伴う訪問等の業務実績も激減しました。

令和8年度については職員体制で1名の増員がなされ、丁寧で細やかな面接や訪問対応を維持しつつ、全ての介護予防のサービス計画の作成とそれに伴う業務を実施できるものと考えています。

## ◎職員体制

行政から2名派遣、社会福祉協議会の専門職等の5名の計7名で業務を行いました。

- ・センター長 1名（行政職員）
- ・センター長代理 兼 主任介護支援専門員 1名（社協職員）
- ・保健師 1名（行政職員）
- ・社会福祉士等 2名（社協職員）
- ・介護支援専門員等 2名（社協職員）



## IV. 介護保険事業

美咲町で暮らす誰もが、安心して暮らし続けることができるよう、通所介護事業・訪問介護事業・居宅介護事業・地域密着型特別養護老人ホーム事業の運営に積極的に取り組みました。

## 1.通所介護事業(デイサービス事業)

日常生活に支援が必要な人、要介護状態にある人が、できる限り住み慣れた地域・我が家において、安心して日常生活を過ごすことができるよう、介護保険法による通所介護事業を積極的に取り組みました。また、利用者の心身の状況に応じた通所介護計画書を作成し、多職種との連携を図り、利用者支援に努めました。

(事業実施事業所)

### (1)美咲町中央ふれあいセンター

#### ①事業実施の概要

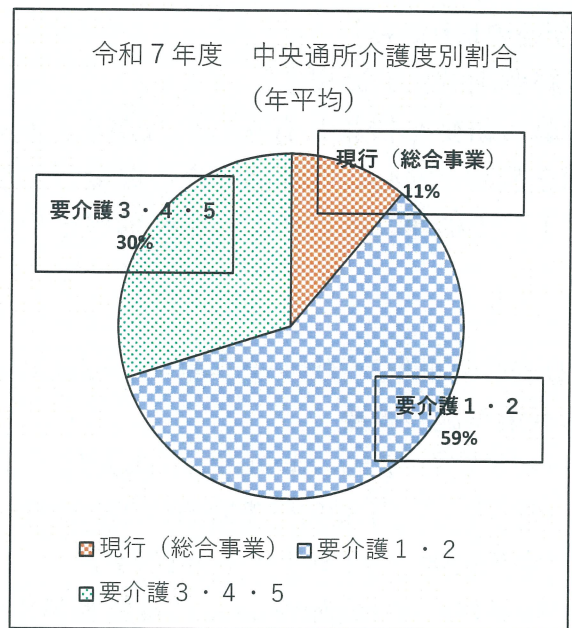
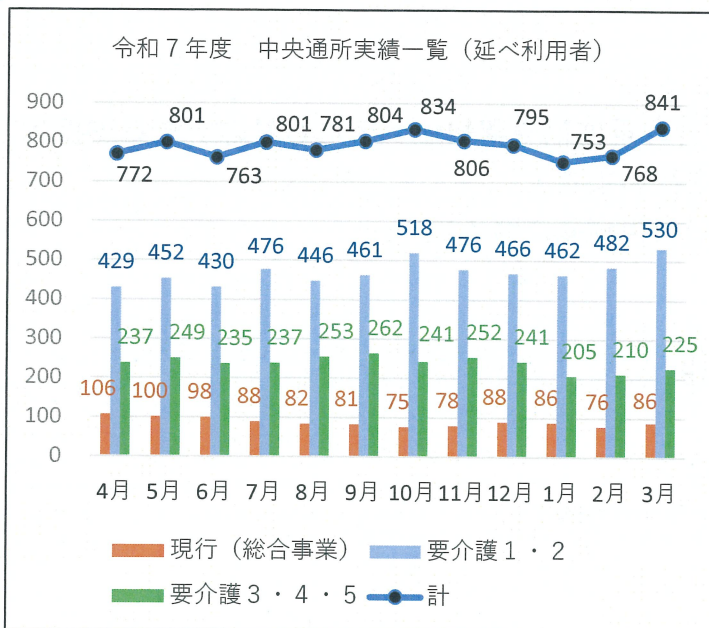
- ・利用定員 40人
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後5時
- ・職員体制 常勤職員9名、非常勤職7名  
 管理者1名(兼務)、生活相談員2名(兼務2名)、看護職員2名(兼務2名)、  
 機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護職員10名(兼務3名)、  
 介護助手1名、調理員3名(兼務1名)

#### ②事業実施状況

##### i)介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 77.5%

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 Ⅰ～Ⅱ	要介護 Ⅲ～Ⅳ	1日 平均
R7. 4	26日	772人	106人(13.7%)	429人(55.6%)	237人(30.7%)	29.7人
R7. 5	27日	801人	100人(12.5%)	452人(56.4%)	249人(31.1%)	29.7人
R7. 6	25日	763人	98人(12.8%)	430人(56.4%)	235人(30.8%)	30.6人
R7. 7	27日	801人	88人(11.0%)	476人(59.4%)	237人(29.6%)	29.6人
R7. 8	26日	781人	82人(10.5%)	446人(57.1%)	253人(32.4%)	30.0人
R7. 9	26日	804人	81人(10.1%)	461人(57.3%)	262人(32.6%)	30.9人
R7. 10	27日	834人	75人(9.0%)	518人(62.1%)	241人(29.0%)	30.9人
R7. 11	25日	806人	78人(9.7%)	476人(59.1%)	252人(31.2%)	32.2人
R7. 12	24日	795人	88人(11.1%)	466人(58.6%)	241人(30.3%)	33.1人
R8. 1	24日	753人	86人(11.4%)	462人(61.3%)	205人(27.2%)	31.3人
R8. 2	24日	768人	76人(9.90%)	482人(62.8%)	210人(27.3%)	32.0人
R8. 3	26日	841人	86人(10.2%)	530人(63.0%)	225人(26.7%)	32.3人
合計	307日	9,519人	1,044人 (11.0%)	5,628人 (59.1%)	2,847人 (29.9%)	31.0人



令和6年度は人員不足により、一時的に利用者受け入れを制限しながら運営を行ったことで稼働率低下や利益減少につながりましたが、令和7年度は職員配置が整い、新規利用者の確保に加え、利用継続につながるサービス内容の充実や空き状況の迅速な案内を行い、稼働率向上に努めました。

また、送迎地域を広げ、これまで対象外となっていた地域からの相談や受け入れにも柔軟に対応することで新規利用者の獲得につなげました。

利用者を楽しみを持って通所していただけるよう、喫茶コーナーの実施や弁当の持ち帰り対応など新たな取り組みを行い、利用者満足度向上と収入確保の両立に努めました。

また、サービス内容や日々の様子が伝わる写真を掲載したチラシを作成し、情報発信を行うことで事業所の魅力を積極的にアピールすることにより、利用者確保、新規利用につながる成果を得られました。

人員不足により業務負担が増加する状況もありましたが、職員同士が協力し合いながら業務を行うことで急な対応時にも支えあえる体制につなげることができました。

働きやすい職場環境を整備するため、相談しやすい環境づくりや業務分担の見直しも行いました。

その後は職員体制が徐々に安定し、人材定着に向けた基盤づくりを進めました。

### 【課題】

○物価高騰により光熱費や物資、食材費等の負担増もあり、経営面においても厳しい状況となっています。

○利用者の重度化や認知症の利用者の増加に伴い、見守りや個別対応が増えています。安全面に配慮しながら、一人ひとりに合わせた支援を行える体制づくりが必要となっています。

○人材定着や育成、業務負担軽減への取り組みを継続し、働きやすい環境づくりが必要です。

## 【今後の取り組み】

- 経費削減に努めます。
- 職員研修や情報共有を行いながら、利用者の重度化や認知症ケアにも対応できる支援体制を整え、安心して利用できる環境づくりを行います。
- ICT機器の活用による業務効率化や職員負担軽減に努めます。

### (2)美咲町柵原デイサービスセンターかしのき荘

#### ①事業実施の概要

- ・利用定員 25人(4～6月)、18人(7～3月)
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後16時半
- ・職員体制 常勤職員2名、非常勤職員8名  
 管理者1名(兼務)、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、  
 機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護職員4名(兼務2名)、調理員2名、  
 運転員1名

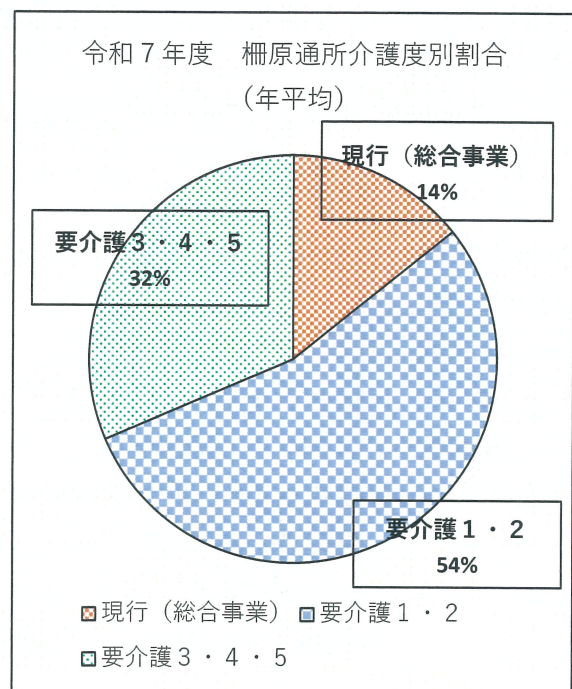
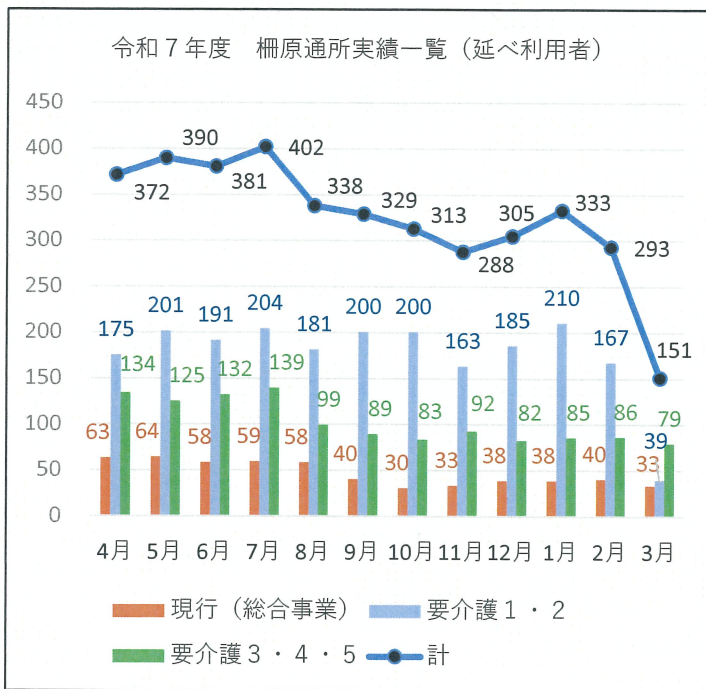
#### ②事業実施状況

##### i) 介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 4～6月 58.6%(25人定員)  
 7～3月 66.8%(18人定員)

※2月以降、事業休止決定に伴い、利用者が他事業所へ移行

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 Ⅰ～Ⅱ	要介護 Ⅲ～Ⅳ	1日 平均
R7. 4	26日	372人	63人(17.0%)	175人(47.0%)	134人(36.0%)	14.3人
R7. 5	27日	390人	64人(16.4%)	201人(51.5%)	125人(32.1%)	14.4人
R7. 6	25日	381人	58人(15.2%)	191人(50.1%)	132人(34.7%)	15.2人
R7. 7	27日	402人	59人(14.7%)	204人(50.8%)	139人(34.5%)	14.9人
R7. 8	26日	338人	58人(17.1%)	181人(53.6%)	99人(29.3%)	13.0人
R7. 9	26日	329人	40人(12.2%)	200人(60.8%)	89人(27.0%)	12.7人
R7. 10	27日	313人	30人(9.6%)	200人(63.9%)	83人(26.5%)	11.6人
R7. 11	25日	317人	33人(11.4%)	163人(56.6%)	121人(31.9%)	11.5人
R7. 12	24日	305人	38人(12.5%)	185人(60.6%)	82人(26.9%)	12.7人
R8. 1	24日	333人	38人(11.5%)	210人(63.0%)	85人(25.5%)	13.9人
R8. 2	24日	293人	40人(13.7%)	167人(57.0%)	86人(29.3%)	12.2人
R8. 3	26日	151人	33人(21.9%)	39人(25.8%)	79人(52.3%)	5.8人
合計	307日	3,924人	554人 (14.2%)	2,116人 (54.3%)	1,225人 (31.5%)	12.7人



【経過】

令和4年度以降、通常規模（定員19人以上 柵原通所25人定員）における年間の一日平均利用者数は18人で、収支基準（黒字となる目安）である平均20人を下回っていました。

その状況を踏まえ、令和7年7月に地域密着型通所介護（定員18人以下）に移行しました。8月頃から、入所・入院により、さらに利用者数が減少しました。利用者獲得のため、随時、地域内の居宅介護支援事業所へ相談をしましたが、短期間で利用者増にはつながりませんでした。

また、各通所管理者と地域サロンに参加し、デイサービス説明など試験的に取り組みました。

利用者増に繋がらない主な理由としては、柵原地域における新規要介護認定者数の減少や介護認定者の福祉サービスのニーズ変化、中央・旭地域に比べて通所介護事業所（圏域含む）が多い環境などが挙げられます。併せて、施設入所移行が早く、状況によっては入所予定の話があったから数週間以内に入所となったケースも多くありました。

地域内の通所介護事業所においても同様の傾向で、定員枠の空きがみられるとともに、人材不足も要因となっています。

一方、サービス内容では毎日のミーティングで、より良い介護・看護（サービス提供）について話し合うとともに、職員で多様なレクリエーションや行事を企画し、行事では地域のボランティアや保育園などと連携及び交流することで利用者が楽しく過ごせるよう心がけました。

また、他事業所では病気症状等により利用が厳しい方も積極的に受け入れました。

かしのき荘の落ち着いた雰囲気好きな利用者は多く、実質少ない利用人数ながらも喜んで利用いただけていることを実感しました。

収支が厳しい中、備品管理・在庫管理をおこない、経費削減にも努めましたが、物価高騰や施設修繕費用等、支出が増加する状況でした。

現状から経営改善会議にて、様々な視点から総合的に協議・検討した結果、安定的な事業所運営には利用者確保とともに職員確保が必要であること、施設維持管理・修繕の支出が高額であるこ

となど、現状において事業を継続することは難しいとの判断に至り、令和8年3月末を以って事業休止となりました。

また、介護保険事業での中長期的な計画及び経営分析が弱いとの指摘もありました。

### (3)美咲町福祉の里 あさひが丘

#### ①事業実施の概要

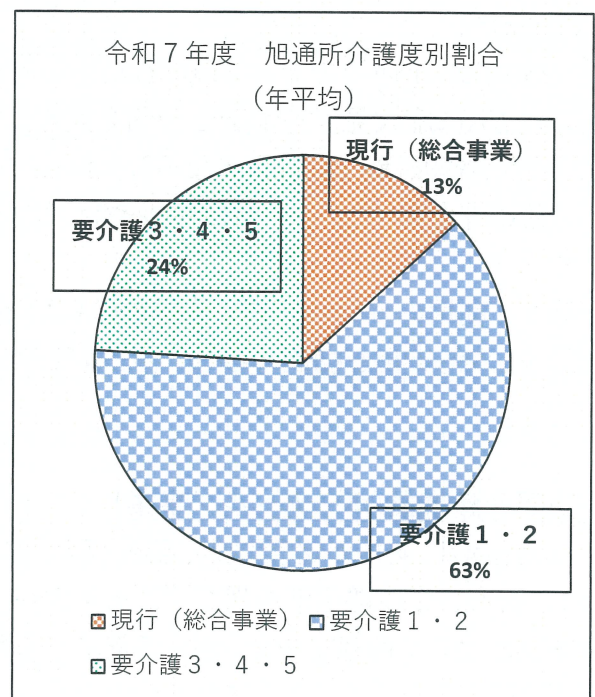
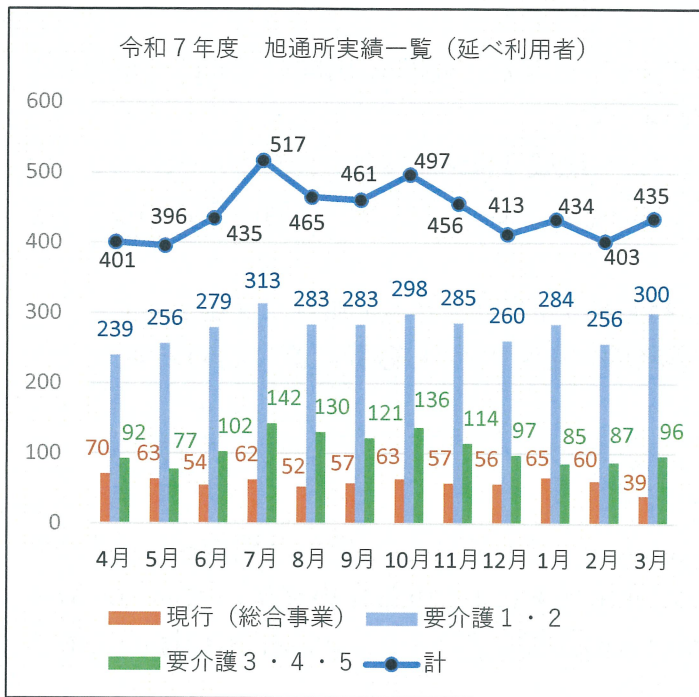
- ・利用定員 25人
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後5時
- ・職員体制 常勤職員4名、非常勤職員7名  
 管理者1名(兼務)、生活相談員1名(兼務2名)、看護職員3名(兼務3名)、  
 機能訓練指導員3名(兼務3名)、介護職員4名(兼務4名)、  
 調理員1名(兼務1名)、運転員2名

#### ②事業実施状況

##### i)介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 69.2%

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 I～II	要介護 III～IV	1日 平均
R7. 4	26日	401人	70人(17.5%)	239人(59.6%)	92人(22.9%)	15.4人
R7. 5	27日	396人	63人(15.9%)	256人(64.7%)	77人(19.4%)	14.8人
R7. 6	25日	435人	54人(12.4%)	279人(64.1%)	102人(23.5%)	17.4人
R7. 7	27日	517人	62人(12.0%)	313人(60.5%)	142人(27.5%)	19.1人
R7. 8	26日	465人	52人(11.2%)	283人(60.9%)	130人(27.9%)	17.9人
R7. 9	26日	461人	57人(12.4%)	283人(61.4%)	121人(26.2%)	17.7人
R7. 10	27日	497人	63人(12.7%)	298人(60.0%)	136人(27.3%)	18.4人
R7. 11	25日	456人	57人(12.5%)	285人(62.5%)	114人(25.0%)	18.2人
R7. 12	24日	413人	56人(13.5%)	260人(63.0%)	97人(23.5%)	17.2人
R8. 1	24日	434人	65人(15.0%)	284人(65.4%)	85人(19.6%)	18.1人
R8. 2	24日	403人	60人(14.9%)	256人(63.5%)	87人(21.6%)	16.8人
R8. 3	26日	435人	39人(9.0%)	300人(69.0%)	96人(22.0%)	16.7人
合計	307日	5,313人	698人 (13.1%)	3,336人 (62.8%)	1,279人 (24.1%)	17.3人



【成果】

令和6年度に改修工事が終わり、令和7年度から通常営業に戻りました。改修中は利用者を増やすことが難しかったこともあり、改めて利用者の新規受け入れに力を入れました。リニューアルした施設の見学やお試し体験をしていただき、利用に繋がるケースもありました。

利用者や家族の希望・想いに寄り添ったサービスを提供できるよう、特にレクリエーションは職員一同工夫をしながら、毎日違う手作りしたゲームや体操を取り入れました。利用者の笑顔も増え、好評です。また、行事では初めて利用者と一緒にたこ焼きパーティーをおこない、楽しく過ごしました。

他にも定期的に利用者、職員の日常の様子や行事の様子を、家族に知っていただく機会として『あさひが丘デイ便り』をお渡ししています。

いろいろと取り組むことで、徐々に利用者数が増えてきている状況です。

【課題】

◎改修中に利用者数が一時的に減少したため、利用者数を増やしていく必要があります。地域でのあさひが丘通所の認知度が薄いと感じているため、地域への周知が必要です。（あさひが丘＝特養のイメージ）

◎利用者の食事（委託業者）が不評であったことから、業者変更のため、複数業者の試食を利用者・職員でおこない、意見や感想を聞くとともに経費やコスト面等の評価をおこなう必要があります。

（検討・協議の結果、令和8年度4月からは業者が変更となっています。）

◎物価高騰による支出の増加も課題となっています。

【今後の取り組み】

◎利用者数を増やすために旭地域と隣接する地域（落合方面・錦織方面）の受け入れを行って

いきます。

あさひが丘通所を知って頂けるように、パンフレットを作成し、地域に出向いてアピールをおこなうとともに施設見学やお試し利用を実施していきます。

また、多職種と連携をとりながら、オレンジカフェや地域サロンに参加し、デイサービスについて意見等を聞いたり、一緒に体操やレクリエーションをおこない、あさひが丘通所を周知していきます。

◎デイ利用のメリットとして、独居等の利用者へ持ち帰り弁当サービスを独自に実施します。

◎少しでも支出を抑制するため、在庫管理や業務効率を図りながら経費削減に務めます。

## 2.訪問介護事業(ホームヘルプ事業)

日常生活に支援が必要な人、要介護状態にある人が、できる限り住み慣れた地域・我が家において、安心して日常生活を過ごすことができるよう、介護保険による訪問介護事業に積極的に取り組みました。さらに障害者総合支援事業による障がい者の訪問介護サービス事業にも積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

(1)ヘルパーステーション美咲、ヘルパーステーション美咲サテライト旭

### ①事業実施の概要

- ・営業日 月曜日～日曜日
- ・営業時間 午前8時～午後6時00分
- ・職員体制 常勤職員2名、非常勤職員7名  
管理者1名(兼務)、サービス提供責任者3名(兼務3名)、  
訪問介護職員9名(兼務3名)

### ②事業実施状況

#### i)介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。

年月	営業日	利用件数 合計	現行相当	要介護 Ⅰ～Ⅱ	要介護 Ⅲ～Ⅳ	1日 平均
R7. 4	30日	889件	121件(13.6%)	469件(52.8%)	299件(33.6%)	29.6件
R7. 5	31日	890件	109件(12.3%)	502件(56.4%)	279件(31.3%)	28.7件
R7. 6	30日	870件	98件(11.3%)	524件(60.2%)	248件(28.5%)	29.0件
R7. 7	31日	971件	85件(8.8%)	566件(58.3%)	320件(32.9%)	31.3件
R7. 8	31日	915件	93件(10.2%)	518件(56.6%)	304件(33.2%)	29.5件
R7. 9	30日	980件	107件(10.9%)	544件(55.5%)	329件(33.6%)	32.6件
R7. 10	31日	994件	119件(11.9%)	493件(49.6%)	382件(38.5%)	32.0件
R7. 11	30日	958件	119件(12.4%)	483件(50.4%)	356件(37.2%)	31.9件
R7. 12	30日	936件	115件(12.3%)	482件(51.5%)	339件(36.2%)	31.2件
R8. 1	28日	813件	103件(12.7%)	447件(54.9%)	263件(32.4%)	26.2件

R8. 2	28日	821 件	99 件(12.0%)	444 件(54.1%)	278 件(33.9%)	29.3 件
R8. 3	31日	930 件	115 件(12.4%)	500 件(53.7%)	315 件(33.9%)	30.0 件
合計	361日	10,967 人	1,283 人 (11.7%)	5,972 人 (54.5%)	3,712 人 (33.8%)	30.1 件

## ii) 障害者総合支援事業

障がい者への訪問介護サービスとして、次のとおり、サービスを実施しました。

事業名	営業日	利用件数
障害者総合支援	361 日	445 件

### 【成果】

新規の受け入れを積極的に行いました。

職員不足ではありますが、職員同士互いにフォローし合える関係性が構築できていると思います。

月に1度、事業所内で会議・研修をそれぞれ行っています。

会議では利用者情報の共有など、職員が皆利用者さんに対して同じ援助が提供できるように細かい情報、意見を交わしています。研修では質の高いケアを目指し、専門職として技術・知識の向上に努めました。

またふれあいセンター内で、感染症・虐待防止・身体拘束等の防止対策委員会を年に1~2回開きました。のち、事業所に持ち帰り周知しました。

### 【課題】

中山間地域においては、民間の訪問介護事業所が採算性や移動距離の問題から参入しにくい現状があります。そのような地域においても、「社協のヘルパーなら来てくれる」という安心感を住民の皆さまに持っていただくことが重要です。

当会では、片道に時間を要する場合や燃料費が増加する場合であっても、必要な支援を確実に届けることを使命とし、訪問介護サービスを継続して提供しています。地域に暮らす方々が住み慣れた場所で安心して生活できるよう、今後も中山間地域への訪問体制を維持・強化していきます。

### 【今後の取り組み】

会議・研修等でさまざまな思いや考え方を受け止めることができるように自己研鑽に努めると共に、多職種との連携を図りながら利用者の尊厳を守りニーズに寄り添い、サービスの向上に努めます。

### 3.居宅介護支援事業(ケアマネジメント事業)

介護保険によるサービスが適切に利用でき、在宅での生活を支援していくため、居宅介護支援事業に積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

美咲町中央居宅介護支援事業所 常勤職員 6名

管理者 1名(兼務)、介護支援専門員 6名(兼務 1名)

○事業実施状況

i)介護保険事業

利用者数

	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	介護	介護	介護	介護	介護	予防
4月	192	210	209	44		
5月	197	213	214	44		
6月	199	210	214	42		
7月	195	213	214	39		
8月	186	210	221	37		
9月	202	219	225	37		
10月	199	214	226	35		
11月	202	218	222	36		
12月	201	210	223	35		
1月	200	215	223	34		
2月	194	201	220	37		
3月	206	209	224	33		
合計	2,373	2,542	2,635	453		

年度末3月31日現在介護度内訳

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和5年度	0	0	79	62	40	19	6	206
令和6年度	0	0	75	73	35	15	11	209
令和7年度	9	24	83	72	45	14	10	257 (235)

サービス利用料金

要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
4,420	10,860	14,110

※特定事業所加算 加算Ⅱを算定 4,210円 (配置基準:常勤職員3名以上)

ii)介護報酬請求

令和7年度	介護報酬
4月	4,060,360
5月	4,060,730
6月	3,990,580
7月	4,017,850
8月	4,017,010
9月	4,066,970
10月	4,049,750
11月	3,914,840
12月	3,962,830
1月	3,871,360

2月	3,914,000
3月	3,944,070
合計	47,870,350

### iii) 訪問調査の実施

町からの委託を受け、介護保険の要介護認定のための訪問調査等にも積極的に取り組みました。

令和7年度	件数	委託料
4月	8	35,200
5月	6	26,400
6月	2	8,800
7月	4	17,600
8月	14	61,600
9月	7	30,800
10月	5	22,000
11月	12	52,800
12月	6	26,400
1月	6	26,400
2月	4	17,600
3月	6	26,400
合計	80	352,000

### iv) 研修、委員会等の実施

業所内で研修計画を立て、法人内外の研修や委員会にも積極的に出席しました。

また週1回の居宅会議では個々のケースの情報共有や検討を行いました。

#### 研修、委員会等出席状況

年月日	研修名	場所	職員名
R7.4.8	事業所内研修 「虐待」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.4.16	事業所内研修 「虐待」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.4.22	事業所内研修 「障がい者」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.4.24	令和7年度美咲町社会福祉協議会 新人研修会	美咲町生涯学習センター	中村
R7.5.1～ R7.6.2	令和7年度第1回長寿社会開発センター研究セミナー 「統合失調症、発達障害、パーソナリティ障害という診断のある利用者の支援…診断名や見かけの症状にまどわされない対応」	オンデマンド配信	岡田 中村 森下
R7.5.28	BCPにおける感染症研修及び机上訓練	湯郷交流センター	岡田
R7.5.28	事業所内研修 「コロナ」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.6.13	令和7年度第1回美咲町介護支援専門員等事例検討会	美咲町生涯学習センター	岡田 松本 中村 岸本
R7.6.17	第21回介護サービス博覧会中四国マッチングプラザ2025	コンベックス岡山	岡田 松本 森上

R7.6.18	第 21 回介護サービス博覧会中 四国マッチングプラザ 2025	オンデマンド配信	岡田 松本 森上
R7.6.19	事業所内研修 「BCP 研修・訓練(感染)」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.6.19	令和 7 年度第 1 回虐待拘束委員 会	美咲町中央ふれあい センター	岡田
R7.6.19	令和 7 年度第 1 回感染委員会	美咲町中央ふれあい センター	岡田
R7.7.25～ R7.9.1	令和 7 年度第 2 回長寿開発セン ター研究セミナー 「メンタルヘルス対策～ストレスマ ネジメントの実践～」	オンデマンド配信	中村
R7.8.6	事業所内研修 「腸管出血性大腸菌感染症」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.8.7	令和 7 年度津山支部事例検討会	ZOOM ミーティング	松本 森上 岸本
R7.8.18	令和 7 年度第 1 回美咲町認知症 事業連絡会	美咲町生涯学習セン ター	岡田
R7.9.1	認知症とともに、まちづくりセミナー 「認知症になってからも自分らしく暮ら せる地域(まち)をともにつくる」	美作大学 100 周年記 念館	森上 岸本
R7.9.2	第 7 回ケアマネジャー大会	岡山コンベンションセ ンター	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.9.7 ～ R7.11.8	令和 7 年度岡山県主任介護支援 専門員更新研修	ターミナルスクエア	岡田 森下
R7.9.17	令和 7 年度第 2 回美咲町介護支 援専門員等事例検討会	美咲町中央ふれあい センター	岡田 森下 森上 岸 本
R7.9.17	令和 7 年度第 1 回主任ケアマネ委員 会オンライン研修 「難病への理解とケアマネジメントのヒ ント」	ZOOM ミーティング	松本 中村
R7.9.24	事業所内研修 「難病患者」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.9.26	BCP フォローアップ研修(県北会 場)「復興に向けて～利用者支援 ～」	新見文化交流館	松本 中村
R7.9.30	事業所内研修 「認知症」	事務所	岡田 松本 中村 森 下 森上 岸本
R7.10.2	令和 7 年度美咲町介護支援専門 員研修会「仕事もプライベートもや さしい気持ちになれる～こころの整 え方～」	美咲町生涯学習セン ター	岡田 中村
R7.10.21	県南ブロック研修 「ヤングケアラーへの理解を深め る～ケアマネジャーに求められる 視点と連携」	ZOOM オンライン研修	森上 岸本
R7.10.21	事業所内研修 「BCP 研修・訓練(災害)」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.10.21	第 6 回津山中央病院医介連携ミ ーティング	津山中央病院	松本
R7.11.15	令和 7 年度第 3 回長寿社会開発 センター研究セミナー 「地域共生社会と生活困窮者支 援」	オンデマンド配信	岡田

R7.11.17	令和7年度第3回長寿社会開発センター研究セミナー 「地域共生社会と生活困窮者支援」	オンデマンド配信	中村
R7.11.18	美咲町在宅医療・介護連携推進協議会研修会	美咲町生涯学習センター	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.11.19	県北ブロック研修 「安心して老後を過ごしてもらう為に」	津山市総合福祉会館	松本 中村 森下 岸本
R7.11.21～ R7.12.20	令和7年度岡山県認定調査員等現任研修	オンデマンド配信	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.11.25	事業所内研修 「ヤングケアラー」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.12.2	事業所内研修 「生活困窮者支援」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R7.12.2	令和7年度 医療介護多職種連携体制整備事業 「訪問看護の基礎知識」	西大寺緑花公園・百花プラザ	岡田 岸本
R7.12.9	令和7年度居宅介護支援事業所管理者研修 「～居宅介護支援事業所の管理者の資質向上と必要な知識の習得～」	ピュアリティまきび	岡田 松本
R7.12.12	令和7年度高齢者虐待防止研修会 「知って防ごう！高齢者虐待～誰もが安心して地域で暮らすために～」	美咲町生涯学習センター	松本 中村 森下 森上 岸本
R7.12.16	介護と法律の勉強会	おかやま西川原プラザ	岡田
R8.1.6	BCP 研修・訓練(災害)	事務所 訪問先	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R8.1.20	第1回勝英支部ケアマネサロン	美作湯郷交流センター	岡田
R8.1.22	安全衛生委員会職員研修 「介護施設での感染対策」	美咲町中央ふれあいセンター	岡田 中村 森下 岸本
R8.1.26	アルコール依存症への理解と対応	美咲町生涯学習センター	中村 森上 岸本
R8.1.27	事業所内研修 「感染症」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R8.1.30	事業所内研修 「高齢者虐待防止」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R8.2.2～ R8.3.4	令和7年度第4回長寿社会開発セミナー研究セミナー 「難病」	オンデマンド配信	岡田
R8.2.3	事業所内研修 「BCP 研修・訓練(感染)」	事務所	岡田 松本 中村 森下 森上 岸本
R8.2.16	令和7年度第3回美咲町介護支援専門員等事例検討会	美咲町生涯学習センター	松本 中村 森上 岸本
R8.2.17	令和7年度岡山県介護給付適正化研修会 STEP3	美咲町役場	森下
R8.3.10	令和7年度第2回虐待防止対策検討委員会	美咲町中央ふれあいセンター	岡田

R8.3.12	ケアプランデータ連携システム報告会	おかやま西川原プラザ	岡田 松本
R8.3.18	BCP 研修・訓練(災害)	美咲町中央ふれあいセンター	岡田 松本 中村
R8.3.31	令和7年度第2回感染委員会	美咲町中央ふれあいセンター	岡田

### 【成果】

今年度は介護予防の受け入れを行い、要支援の方の支援も実施しました。新規の受け入れを積極的に行うことやサービスに繋がっていないご利用者に対しても状態確認等を行い、ご利用者やご家族のお気持ちに寄り添うことでサービス利用に繋がったケースもありました。また週1回の事業所内会議以外にも随時、事業所内で相談ができる体制ができていることで早期の対応が行えています。

### 【課題】

近年は独居や身寄りのない方、認知症や精神疾患のある方、家族関係の希薄化等、様々な問題が複合化しています。今までは家族が行ってきたことをケアマネジャーが担っていることも多々あります。社会資源の開発や仕組み作りが必要です。

### 【今後の取り組み】

各委員会や研修計画を立て、積極的に出席し、自己研鑽に努めるとともに事業所内で研修等で習得したことを共有し、資質向上に努めます。事業所内だけでなく、多職種との情報交換、課題の共有等、連携を行い、課題や問題が大きくなるように早期対応に努めます。ご利用者やご家族の意向に沿い、住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるような支援に努めていきます。

#### 4.施設サービス事業(地域密着型特養事業)

住み慣れた地域で、可能な限り安心して日常生活が送れるよう、地域密着型特別養護老人ホームの運営に積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

(1) 地域密着型特別養護老人ホーム あさひが丘

##### ①事業実施の概要

- ・長期入所利用定員 29名
- ・短期入所利用 空床利用
- ・居室体制 個室 9室 2人部屋 10室
- ・職員体制 常勤職員13名、非常勤職員9名  
施設長1名、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護支援専門員1名(兼務1名)、介護職員10名(兼務1名)、介護助手4名 管理栄養士1名、調理職員3名

##### ②事業実施の状況

形態	延べ利用者数	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ	要介護Ⅳ	要介護Ⅴ
長期入所	10,439人	—	—	3,720人	4,549人	2,170人
短期入所	42人	3人	0人	0人	39人	0人

##### ○長期入所

年間稼働率 98,6%  
1日平均人数 28,6人  
平均人数対前年比 107,5%

##### ○短期入所

年間稼働率 0,4%  
1日平均人数 0,11人  
平均人数対前年比 31,4%

#### 【成果】

収入に関しては、常に満床となるよう入所者が入院された場合は、ショートステイの声かけを行いました。このことにより、稼働率も上がり収入へとつながりました。看護師や介護職員の気づきで、入所者の健康状態の異変にいち早く気づくことができ、入院せず早めに対応することができました。各種委員会では、感染防止対策委員会・事故防止対策委員会、虐待防止、身体拘束防止対策委員会と各研修会を多職種により定期的に行い、虐待防止対策委員会では、3ヵ月おきに目標を立てて取り組むことができました。

家族・地域交流では、久しぶりに家族会総会の実施や地域の行事へ参加し、旭学園の子どもたちとの交流ができて楽しむことができました。

入所者の皆さまに季節の移ろいを感じていただけるよう、施設内の各所に季節の飾り付けを行いました。これらの取り組みは入所者の方々だけでなく、面会に訪れたご家族からも大変好評をいただいています。特に、「ここに預けてよかった」とのお声をいただいた際には、職員一同大きな励みとなりました。

#### 【課題】

事業継続計画 BCP については、研修と訓練を行い、非常時に慌てることなく対応できるよう積極的に取り組んで、計画の見直しを行う必要があります。

避難訓練の実施については、施設内だけの取り組みとなったため、今年度は地元消防団に参加依頼し、施設内外を含めた実践的な訓練を実施し、地域との連携強化を図っていくことが必要です。

また、職員不足や急な欠勤時にも安定したサービス提供ができるよう、多職種間での連携強化や業務の見直しを進め、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいく必要があります。

**【今後の取り組み】**

各種委員会・研修会については、形式的な実施ではなく、個々の意識向上や日々のケアに活かせる内容となるよう工夫し、職員全体の資質向上につなげていきたい。

また、入所者一人ひとりの生活を大切に、季節行事や地域交流、家族との関わりを継続することで、安心して生活できる環境づくりに努めていきます。

さらに、感染症対策や事故防止についても継続的に取り組み、入所者・家族に安心していただける施設運営を目指していきます。

ICT 機器を活用した介護記録ソフトの導入を予定しており、記録業務の効率化や情報共有の迅速化を図ることで、職員の業務負担軽減につなげていきます。また、介護現場における生産性向上に取り組み、業務の見直しや効率化を進めることで、職員が入所者と関わる時間を増やし、より質の高いケアの提供ができる体制づくりを進めていきます。